

科目名	教職論		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング		研究室	W-01
担当者	小松 茂美		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日1限		
関連資格	リ・コ・デ・イネーター教育コース、高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保健、高1種保体、高1種保体、養教1種、栄教1種、中1種保健、高		履修条件	教職課程履修者						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
教職とは、どのような役割を担い使命を持つ職業なのかについて概説し、教職の意義と教員の使命・資質、教員の歴史とその仕事、学校の組織特性、教員の服務と身分保障、研修等について理解を深めます。また、今の教育現場が直面している課題等についても取り上げ、学校現場の取り組みについて理解を深めます。加えて、県教育委員会の講話をとおして、教職に対する理解、関心を深めるとともに、教職が自己の適性に適った職業であるかどうかを見極める機会を提供します。										
<b>学修到達目標</b>										
教職の使命と教員の仕事、教員の服務及び身分保障等について理解を深める。併せて、求められる教員像についても理解を深め、"教員"について具体的にイメージできるようになり、教員を目指すうえで現状における自己課題が認識できるようになる。										
<b>授業の進め方</b>										
基本的にはテキストの内容に沿う形で、講義形式主体で進めますが、パワーポイント及びプリント資料を使用し、より内容が充実したものになるようにします。また、教育基本法等関連する教育法規等の内容にも触れながら学習を進めます。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	教職課程の授業履修等について「教職論」をとおして何を学ぶか				レポートの提出				
2	教職の専門性	教員の歴史と専門職論				事前学習：専門職論について レポート提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)				
3	教員の資質	教員に求められる実践的な資質・能力について(不易と流行)				事前学習：教員に必要な資質能力 レポート提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)				
4	教員の職務内容	教員の職務と校務分掌 学校組織について				事前学習：学校組織 レポート提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)				
5	教員の研修と待遇	初任者研修、5年経験者研修、10年経験者研修				事前学習：教員の研修制度 レポート提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)				
6	教員の服務	教員の服務及び身分保障並びに懲戒処分 小テスト				事前学習：教員の服務 レポート提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)				
7	初等・中等教育と教員	各校種の教員(特性と在り方) (幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校)				事前学習：中学校教員の仕事内容 レポート提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)				
8	初等・中等教育と教員	各校種の教員の1日 (小学校、中学校、高等学校、特別支援学校) 小テスト				事前学習：特別支援学校 レポート提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)				
9	教員の安全注意義務	教員の安全注意義務違反について～教員の過失の要件～ (注意義務の範囲、程度及び予見の可能性)				事前学習：教員の過失 レポート提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)				
10	「いじめ」について	「いじめ」とは(定義および具体的事例) 教員の注意義務及び「いじめ」による自殺と教員の過失				事前学習：いじめの現状 レポート提出				
11	教員を目指すうえでの心構え	長野県教育委員会の講話				事前学習：教員の不祥事 レポート提出				
12	危機管理	事故、事件発生時の対応について 小テスト				事前学習：学校での緊急時の対応 レポート提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)				
13	教員の懲戒権と体罰	懲戒の種類について 「体罰」について				事前学習：教員による体罰 レポート提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)				
14	特別支援教育について	特別支援教育の理念及び推進について				事前学習：特別支援教育の実際 レポート提出準備(本時の内容を確認し整理・記録)				
15	まとめ	教員を目指すという進路選択について ・教員の厳しさと魅力 ・教員採用試験について				事前学習：学校現場の課題 レポートの提出				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「教職論」教職問題研究会編(ミネルヴァ書房) ISBN:9784623053056(生協で購入してください。)				受講態度：30%、出席レポート：10%、小テスト：15%、レポート：45% 受講態度(A:意欲的・積極的、B:普通、C:消極的とし、出席状況を加味)、出席レポート(A:課題把握が十分できている、B:概ねできている、C:不十分)、小テスト(学生便覧と同じ)、レポート(A:分析・整理が的確であり自分の意見を述べる事ができている、B:分析・整理又は自分の意見が不十分、C:両方とも不十分)を総合的に評価します。全ての項目がA評価の場合、S評価の検討をします。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
「学校経営質疑応答集1・2」(第一法規)				教職の使命(厳しさ)とやりがい(魅力)を理解し、教職が自己の適性に適った職業であるのか見極め、教員になるうえで不足しているものに気づき、その課題解決に積極的に取り組めるようになってください。						

科目名	教育基礎論		学年学期	1年後期	単位数	2	ナバリング	研究室	A-02
担当者	藤枝 充子・武者 一弘		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限	
関連資格	高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保体、高1種保体、養教1種、栄教1種、中1種保健、高1種保健				履修条件	教職課程履修者			
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C					
授業概要									
教育とは何かについて、教育の思想・原理、歴史を解説します。また、子ども観の成立・変容についても解説すると共に、今日の教育理念の核である、子どもを発達的主人公として捉える概念を解説します。その上で、現代の子どもについて、身体形成と学力形成と内面形成の角度から、発達がどのようになっているのか、現代に生きる教員(や親や地域の人々)はどのような課題意識と取り組みが必要なのかについて、子どもの作文などを手がかりに、少人数でのワークショップを通じて理解を深めます。									
学修到達目標									
1.社会の中での教育(子どもの発達とその支援)について、歴史的到達点と思想・理念を理解する。2.歴史的到達点と思想・理念とを照らして、今日の日本の子ども達の発達にかかる社会的課題について探求する力を養う。3.子どもの発達の社会的支援のあり方について考えていく視点を養う。									
授業の進め方									
講義形式を主として進め、適宜、ワークショップ等を行います。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	導入	社会的な営みとしての教育について説明します。(大蔵、武者)				シラバスの事前確認。第1回授業で配布された資料の事前読解。(4時間)			
2	子どもの発見と発達の可能性	ジャン＝ジャック・ルソーを手がかりに説明します。(大蔵)				第1回授業で配布された資料の読み。第2回授業で配布された資料の確認。(4時間)			
3	合自然の教育	ヨハン・ハインリヒ・ペスタロッチを手がかりに説明します。(大蔵)				第2回授業で配布された資料の読み。第3回授業で配布された資料の確認。(4時間)			
4	集団の中での発達と形成	ジャン・ピアジェ、レフ・ヴィゴツキーを手がかりに説明します。(大蔵)				第3回授業で配布された資料の読み。第4回授業で配布された資料の確認。(4時間)			
5	児童中心主義の意義と限界	エレン・ケイ、ジョン・デューイを手がかりに説明します。(大蔵)				第4回授業で配布された資料の読み。第5回授業で配布された資料の確認。(4時間)			
6	近代学校制度の成立	産業革命と市民革命について説明します。(武者)				第5回授業で配布された資料の読み。第6回授業で配布された資料の確認。(4時間)			
7	学制と教育勅語	日本における学制の始まりと学校教育の普及について説明します。(武者)				第6回授業で配布された資料の読み。第7回資料で配布された資料の確認。(4時間)			
8	戦後の新制学校と教育基本法	日本における第二の学制改革と学校教育の拡大について説明します。(武者)				第7回授業で配布された資料の読み。第8回授業で配布された資料の確認。(4時間)			
9	権利としての子どもの発達保障(1)	とたと同じ子どもについて説明します。(武者)				第8回授業で配布された資料の読み。第9回授業で配布された資料の確認。(4時間)			
10	権利としての子どもの発達保障(2)	保護される子ども・発達保障を求める子どもについて説明します。(武者)				第9回授業で配布された資料の読み。第10回授業で配布された資料の確認。(4時間)			
11	家庭の教育	家庭教育の歴史と意義について説明します。(大蔵)				第10回授業で配布された資料の読み。第11回授業で配布された資料の確認。(4時間)			
12	学校の教育	学校教育の歴史と意義について説明します。(大蔵)				第11回授業で配布された資料の読み。第12回授業で配布された資料の確認。(4時間)			
13	地域の教育	地域教育の歴史と意義について説明します。(大蔵)				第12回授業で配布された資料の読み。第13回授業で配布された資料の確認。(4時間)			
14	みんなに開かれた学校づくり	コミュニティスクールと地域学校協議会について説明します。(武者)				第13回授業で配布された資料の読み。第14回授業で配布された資料の確認。(4時間)			
15	平成の学制改革と学びのありかた・機会の多様化	日本における第三の学制改革について説明します。(武者)				第15回授業で配布された資料の読み。ここまでの授業内容の復習。(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準							
特にありません。		受講態度：40% 定期試験：60% 受講態度とは毎回の授業時に提出する意見カードを指します。S:正しく理解された授業内容に加え、資料やデータを活用しながら、論理的に自分の考え、意見を述べるができる。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄について理解し、説明できる。C:授業で取り上げた事柄について理解している。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
中学校または高等学校の「学習指導要領」。その他は、授業時に適宜紹介します。		教職課程履修者を対象とする必修科目です。3年次までにこの科目の単位を修得して下さい。本授業は、2年次以降の教職科目履修の基礎となる科目ですので、積極的に受講して下さい。							

科目名	学校の制度		学年学期	2・3・4年後期	単位数	2	ナパリング		研究室	A-14
担当者	武者 一弘		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日3限		
関連資格	高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保健、高1種保体、養教1種、栄教1種、中1種保健、高1種保健				履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
現在の学校教育は、社会的諸条件の影響を受けながら、公法的秩序のもとで行われています。そのため、教師を目指す私たちは、教育的諸活動の諸々の側面に関心を寄せ、学校教育を成り立たせている諸条件、組織関係等に関心を払い、それらを検討、見直していくことが必要なのです。本授業では、現在の学校教育を支える基本的事柄を取り上げ、現在の学校教育を理解することを目的としています。さらに、それらを検討、見直すための視点を得ることをも目的としています。										
学修到達目標										
教育の制度、それを支える法令・行政、経営の基礎を理解する。現代の公教育を支えている基本原理を理解し説明できる。学校制度に関わる今日的課題及び動向を理解し、その一つについて説明できる。教育制度を支えている法制、教育行政の基本を理解し、文部科学省及び教育委員会の役割について説明できる。教育経営の基本を理解し、身近な学校の教育経営の特徴について説明できる。										
授業の進め方										
講義形式を主として進め、適宜、グループワーク等を行います。必要に応じて資料を配布しますが、資料は授業内容の理解を助け、更に発展的内容を示していますので、該当する授業前に必ず読み、持参して授業に臨んで下さい。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンス	授業内容や進め方の説明など					シラバスの読み			
2	学校制度の基本原則(1)	学校教育と国民主権及び法律主義の関係について説明する。					第1回授業で配布された資料の読み			
3	学校制度の基本原則(2)	教育行政・学校の一般行政からの独立について、その考え方と背景について説明します。					第2回授業で配布された資料の読み			
4	学校制度の基本原則(3)	学校教育の地方分権と地方自治について、その考え方と背景について説明します。					第3回授業で配布された資料の読み			
5	学校制度の基本原則(4)	学校教育の一定水準の確保と機会均等について、その考え方と背景について説明します。					第4回授業で配布された資料の読み			
6	学校制度の基本原則(5)	学校教育の中立性について、その考え方と背景について説明します。					第5回授業で配布された資料の読み			
7	中央教育行政の役割と学校制度	文部科学省の役割と学校教育とのかかわりについて説明します。					第6回授業で配布された資料の読み			
8	地方教育行政の役割と学校制度	教育委員会の役割と学校教育とのかかわりについて説明します。					第7回授業で配布された資料の読み			
9	学校と教員人事の制度(1)	教員の養成・採用・研修の考え方とその運用について説明します。					第8回授業で配布された資料の読み			
10	学校と教員人事の制度(2)	教員の服務・監督、懲戒処分と分限処分の考え方とその運用について説明します。					第9回授業で配布された資料の読み			
11	学校の組織運営	学校と教育行政とのかかわり、校務分掌などについて説明します。					第10回授業で配布された資料の読み。母校や教育実習先のHP、学校要覧等で学校の組織を確認する			
12	学校の危機管理	子どもをめぐる物的事故や人的事故の代表例と事前・事後対応について説明します。					第11回授業で配布された資料の読み。			
13	これからの学校の制度	チーム学校と「開かれた学校づくり」(学校運営協議会、地域学校協議会を含む)について、政策の動向と先進事例に基づき説明します。					第12回授業で配布された資料の読み。都道府県・市町村の教育計画を調べてくる。			
14	諸外国の学校制度の改革	欧米やアジアの学校制度の改革動向を説明します。					第13回授業で配布された資料の読み。			
15	まとめ	今日の学校制度の改革動向や学校現場での課題を説明するとともに、講義全体のまとめを行いません。					前時までに配布の資料からまでの読み。			
テキスト					成績評価の方法・基準					
テキストは使用しません。必要な資料を適宜配布します。必ず保管しておいてください。					出席レポート：30% レポート：35% 課題：35% 出席レポート：毎回の授業後の感想・質問カード。レポート：授業内容の理解度を知るため課題レポート。課題：期末課題。 S:授業内容を正しく理解し、資料やデータを活用しながら論理的に自分の考えを述べるができる。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。 B:授業で取り上げた事柄について理解し、説明できる。C:授業で取り上げた事柄について理解している。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「教育六法 平成29年度版」編修委員会編(三省堂または学陽書房) 授業時に適宜紹介します。					教員採用試験を受験する方はできるだけ履修して下さい。					

科目名	教育史		学年学期	2・3・4年前期	単位数	2	ナパリング		研究室	A-02
担当者	藤枝 充子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限		
関連資格	高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保健、高1種保健、養教1種、栄教1種、中1種保健、高1種保健				履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C						
授業概要										
近世から現代にいたる日本における教育の展開を概観し、日本の教育の発展に関する歴史的知見を得るとともに、歴史的視点から現在の学校や社会が直面しているさまざまな教育問題を読み解く力の基礎を身につけることを目的とします。										
学修到達目標										
本授業の到達目標は次の5点です。1.近世の教育の場について理解し、事例をあげて説明できる。2.日本における教育制度の成立とその変遷について説明できる。3.日本における教育方法の工夫について理解し、事例をあげて説明できる。4.教員免許制度の変遷について説明できる。5.現代の教育を取り巻く諸問題について関心を持つ。										
授業の進め方										
講義形式を主として進め、適宜、グループワーク等を行います。必要に応じて資料を配布しますが、資料は授業内容の理解を助け、更に発展的内容を示していますので、該当する授業前に必ず読み、持参して授業に臨んで下さい。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業内容や進め方について説明します。				シラバスの読み及び教育史に関して興味を持ってそうなテーマを見つける(4時間)。				
2	近世の教育の場1	武家の教育について説明します。				第1回授業で配布した資料の読み、授業時に指示された内容を行う(4時間)。				
3	近世の教育の場2	庶民の教育について説明します。				前時の復習、第2回授業で配布した資料の読み(4時間)。				
4	近代の教育1	近代学校教育制度の成立について説明します。				前時の復習、第3回授業で配布した資料の読み(4時間)。				
5	近代の教育2	近代学校教育制度の変遷について説明します。				前時の復習、第4回授業で配布した資料の読み(4時間)。				
6	近代の教育3	大正期の自由教育の思想について説明します。				前時の復習、第5回授業で配布した資料の読み(4時間)。				
7	近代の教育4	大正期の自由教育の実践について説明します。				前時の復習、第6回授業で配布した資料の読み(4時間)。				
8	近代の教育5	教材と教具について説明します。				前時の復習、第7回授業で配布した資料の読み(4時間)。				
9	戦時体制下の教育	戦時体制下の教育について説明します。				前時の復習、第8回授業で配布した資料の該当箇所の読み(4時間)。				
10	ここまでの授業のまとめ	第9回までの授業内容を振り返り、総括します。				第9回までの授業内容を復習する(4時間)。				
11	昭和戦後期の学校教育制度の成立と変遷	昭和戦後期の学校教育制度の成立と変遷について説明します。				第8回授業で配布した資料の該当箇所の読み、授業時に指示されたことを行う(4時間)。				
12	昭和戦後期の学校教育制度を支えた思想	経験学習について説明します。				前時の復習、第11回授業で配布した資料の読み(4時間)。				
13	教員免許制度	教員免許制度の変遷について説明します。				前時の復習、第12回授業で配布した資料の読み(4時間)。				
14	現代の教育を取り巻く諸問題	現代の教育を取り巻く諸問題について説明します。				前時の復習、第13回授業で配布した資料の読み(4時間)。				
15	まとめ	第10回から第14回の授業を振り返り、総括します。また、授業全体のまとめを行います。				ここまでの授業内容を復習する(4時間)。				
テキスト			成績評価の方法・基準							
使用しません。必要な資料を適宜配布します。			受講態度：30% レポート：35% 課題：35% 受講態度(授業への意欲、毎時間後の感想・質問)、レポート(授業内容の理解度や考察の深まりを知る為の授業内小レポートやワーク)、課題(期末課題)を総合して評価します。＜評価基準＞S:正しく理解された授業内容に加え、資料やデータを活用しつつ、論理的に自分の考え、意見を述べている。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄を理解し説明できる。C:授業で取り上げた事柄を理解している。							
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「資料で考える子ども・学校・教育」遠藤孝夫他(学術図書出版)、「教育六法 平成29年度版」(三省堂又は学陽書房)、中学校又は高等学校「学習指導要領」			教職課程履修者は、「学校の制度」(2単位)、「教育学概論」(2単位)、「教育史」(2単位)の3科目の中から1科目選択必修です。教員採用試験を受験する方はできるだけ3科目を履修して下さい。							

科目名	教育心理学		学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	A-16
担当者	守 一雄		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日3限		
関連資格	リ・ユ・ティ・イ・ケ・エ・コ・ス、高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保健、高1種保体、養教1種、栄教1種、中1種保健、高			履修条件	教職課程履修者					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
教育心理学を構成する四領域「発達」「教授・学習」「人格・社会」「測定・評価」のうち、「測定・評価」に重点を置いた授業をします。「発達」に関する領域も含まれます。具体的には、教育の効果についてエビデンスを求める考え方を『「学力」の経済学』の各章を題材にして学びます。										
<b>学修到達目標</b>										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・証拠に基づく教育(Evidence-based Education)についてその理論的意義を理解している。</li> <li>・学校教育に用いられる種々の測定評価方法について理解している。</li> <li>・学校教育におけるディベートの効用について実体験を通して理解している。</li> </ul>										
<b>授業の進め方</b>										
講義を中心にしますが、適宜、実習を通して具体的な測定手法、評価方法について学びます。また、小グループによるデータ処理実習も行ないます。ディベート形式の討論を隔週で行なう予定です。										
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	今日的な教育課題と教育研究の限界	学校教育に関わる種々の定説について、それらの真偽を疑うことを学びます。				テキスト「はじめに」を読んでおく。事後は『ザ・ディベート』を読む。(4時間)				
2	他人の成功経験から学ぶ(1)	私たちは他人の成功や失敗を自分にもあてはめて教訓にしようとする。しかし、そうした他人の経験は自分にもあてはまるのでしょうか？				テキスト第1章を読んでおく。事後は課題図書読後レポートを書く。(4時間)				
3	他人の成功経験から学ぶ(2)	テキスト第1章の内容についてディベートをします。				討論の内容を踏まえて、事後は小レポートを書く。/課題図書(1)レポート提出。(4時間)				
4	子どもをご褒美で釣る(1)	子どもの発達過程での褒め方や叱り方は難しいものです。どのように褒めたらいいのでしょうか？効果的な叱り方とはどのようなものなのでしょうか？				テキスト第2章を読んでおく。事後は要約レポートを書く。(4時間)				
5	子どもをご褒美で釣る(2)	テキスト第2章の内容についてディベートをします。				討論の内容を踏まえて、事後は小レポートを書く。(4時間)				
6	非認知能力の重要性(1)	高校受験や大学受験のためにする受験勉強はホントに効果があるのでしょうか？ 発達過程全般の中で教育の効果を学びます。				テキスト第3章を読んでおく。事後は要約レポートを書く。(4時間)				
7	非認知能力の重要性(2)	テキスト第3章の内容についてディベートをします。				討論の内容を踏まえて、事後は小レポートを書く。(4時間)				
8	中間テスト及び解説	前半部分の授業内容について試験とその解説をします。				授業の前半部分について各自復習をしておく。/課題図書(2)レポート提出。(4時間)				
9	少人数教育の利点(1)	教師一人当たりの生徒数が少ない方が教育効果が高くなるというのは本当でしょうか？				テキスト第4章を読んでおく。事後は要約レポートを書く。(4時間)				
10	少人数教育の利点(2)	テキスト第4章の内容についてディベートをします。				討論の内容を踏まえて、事後は小レポートを書く。(4時間)				
11	いい先生とはどんな先生か(1)	生徒も親も、そして教師自身も「理想の教師像」を持っています。でも、いったい「いい先生」とはどんな先生なのでしょうか？				テキスト第5章を読んでおく。事後は要約レポートを書く。(4時間)				
12	いい先生とはどんな先生か(2)	テキスト第5章の内容についてディベートをします。				討論の内容を踏まえて、事後は小レポートを書く。(4時間)				
13	なぜ教育に実験が必要なのか(1)	多くの要因が複雑に関わる教育について実験で証拠を求めることは可能なのでしょうか？				テキスト補論を読んでおく。事後は要約レポートを書く。/課題図書(3)レポート提出。(4時間)				
14	なぜ教育に実験が必要なのか(2)	テキスト補論の内容についてディベートをします。				討論の内容を踏まえて、事後は小レポートを書く。(4時間)				
15	まとめ	エビデンスに基づく教育についてのまとめをします。テキストの内容について全般的な討論をします。				この授業で学んだことについて全般的な復習をしておく。(4時間)				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>						
「「学力」の経済学」中室牧子著(ディスカヴァー・トゥエンティワン) ISBN:978-4799316856(生協で購入してください。) 「ザ・ディベート」茂木秀昭著(筑摩書房) ISBN:978-4480058928(生協で購入してください。)/課題図書 「下剋上受験[文庫版]」桜井信一著(産経新聞出版) ISBN:978-4819112970(生協で購入してください。)/課題図書 「まんがと図解でわかる統計学」向後千春著(宝島社) ISBN:978-4800225009(生協で購入してください。)/課題図書				定期試験：100% S：課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の3つ以上において優れた成果を示した。A：課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の2つ以上において優れた成果を示した。B：課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習において優れた成果を示した。C：課題すべてを基準レベルで達成した。						
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>						
必要に応じて指示します。				履修者の数を考慮しつつ、できれば討論はディベートの形式でやりたいと考えています。						

科目名	発達心理学		学年学期	3年後期	単位数	2	ナパリング	研究室	A-18
担当者	川島 一夫		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日5限	
関連資格	高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保体、高1種保健、養教1種、中1種保健、高1種保健				履修条件	教職課程履修者			
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)						
	A	B	C						
授業概要									
授業のねらいは発達研究を学習すると同時にレポートの提出とその討論によって進めて行きます。この授業の内容は1)講義で知識を身につける。2)本を読み、レポートを書くことで自分の考えをはっきりさせる。3)他の人と話をする中で、いろいろな意見があることを知ります。5回目と12回目の授業は教育心理学の内容を含みます。									
学修到達目標									
本授業は、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)についての知識を身につけ、さらにより実践に対応できる理解を深めることである。各授業時間では、小項目について的小テストおよび課題としての図書を読み感想レポートを書き、討論を行うことで、児童・生徒の理解を深めることができる。									
授業の進め方									
この授業は、「講義形式」および「討論形式」で授業を行う。講義とある時間は、ビデオ・パワーポイントによる講義を行い各章の終了後「小テスト」を行う。討論ではまた、質問の回答は松大かわティブログで答えます。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容			事前事後学修				
1	授業の説明とオリエンテーション	授業全体の流れを説明し、発達心理学を学ぶために必要な、基礎となる知識についての概略を解説します。			本授業への期待と発達心理学について学びたいこと、をレポートする(4時間)				
2	生命誕生の不思議を探る(発達とライフスパン心理学)	発達を考えるととき出生することから始まると考えがちである。しかし、人間としての生命は受精によってすでに始まっているのである。胎児は母親の胎内で刻々と環境の影響を受け成長を続けることを理解します。			テキストの該当ページを読み、わからないことは自ら調べ、質問の回答を考えておくこと(4時間)				
3	子どもの目に映るもの(知覚の発達)	言語等を使用して測定しにくい乳児の知覚について測定方法を基本として、その結果を学びます。また、知覚の発達が、量的な変化だけでなく、質的な変化を伴うことを学びます。			授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
4	動物としての人(身体発達と比較心理学)	人は、乳児の初期において、他の動物と同様に反射を基本とした行動を示す。また、動物としての乳児は生まれた時から反射として多くの種類の行動を持っていることを学びます。			授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
5	討論と質問の回答「世界一の子どもの教育」(教育心理学)	課題図書を読み、グループ学習による、討論を行います。討論は、指定された項目に従って、各自の意見をのべる。討論は、司会を決め、討論を行うために必要な技術も学びます。			討論の内容についてまとめ、討論を通して学んだことをまとめる(4時間)				
6	ピアジェの発達段階 感覚運動期と前操作期	ピアジェは、人間の認識の起源を系統発生と個体発生両面から発生的認識論で、同化と調節という概念をもちいて、子どもの認識の発達を4つの段階にわけた。等を学びます。			授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
7	ピアジェの発達段階 具体的操作期と形式的操作期	ピアジェの発達段階の考え方には、発達の順序性、普遍性、どの領域においても同じような質的な変化がおこるといった領域性が反映されていることを学びます。			授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
8	感情とはなんだろう	感情がどのような現象をさすのか明らかにしてゆく。その中で、一般的に「感情」には、悲しい、うれしい、幸せ、楽しい、思いやりの気もちなど、様々な心の働きがあることを学びます。			テキストの該当部分を読み、わからないことは自ら調べ、回答を考えておくこと(4時間)				
9	討論と質問の回答「子どもの才能は3歳、7歳、10歳」	課題図書を読み、グループ学習による、討論を行います。討論は、指定された項目に従って、各自の意見をのべる。討論は、司会を決め、討論を行うために必要な技術も学びます。			討論の内容についてまとめ、討論を通して学んだことをまとめる(4時間)				
10	ことばが意味をもつ(言語と認知発達)	胎児の段階から声の顔律を聞きながら育っている子どもは、生まれた時から母国語を話す方向で注意を向けている。その結果、子どもは母国語を獲得するのに有利な状況にあることを学びます。			授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
11	親と子のつながり(家族関係の発達)	乳児は、3ヵ月を過ぎると次第に、母親との愛着を基本とした人間関係を学ぶことを理解します。また、その基本は2次の動因によるものでなく、身体的接触による愛着に基づくことを学びます。			授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
12	頭が良いってどういうこと?(教育心理学)	知能とは、推論し、計画を立て、問題を解決し、抽象的に考え、複雑な考えを理解するだけでなく、経験から学習するための能力を含む知的能力であることを学びます。知能テストについても学びます。			授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
13	討論と質問の回答「発達障害とことばの相談」	課題図書を読み、グループ学習による、討論を行います。討論は、指定された項目に従って、各自の意見をのべる。討論は、司会を決め、討論を行うために必要な技術も学びます。			討論の内容についてまとめ、討論を通して学んだことをまとめる(4時間)				
14	子どもの発達における障害について	発達の中で、認知、社会性、注意力、学習能力、言語能力、運動機能様々な特定領域に遅れと凸凹のある状態を発達障害という。知的障害(精神遅滞)、自閉症、欠陥多動性障害、学習障害などについて学びます。			授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
15	欲求と意欲の発達(動機づけと達成動機の発達)	生涯発達における自己概念の領域とコンピテンスについて学習します。肯定的な自己評価からくる感情であるコンピテンスは、自己価値(自尊心)などの側面は年齢とともに低下する傾向にあることを学びます。			授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準					
「図で理解する 発達 新しい発達心理学への招待」川島一夫、渡辺弥生編(福村出版) ISBN:978-4571230493(生協で購入してください。)				レポート:70% 小テスト:30% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートに取り組み、小テストでは、全問題に正解できる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもってレポートに取り組み、殆どの小テストが正解できる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、小テストが解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの小テストが解ける。					
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「世界一の子どもの教育モンテッソーリ 12歳までに脳を賢く優しく育てる方法」永江 誠司著(講談社プラスアルファ新書) 「子どもの才能は3歳、7歳、10歳で決まる! 脳を鍛える10の方法」林 成之				本を読んだレポートと討論があります。 【重要】尚、締め切り日をすぎたレポートは一切受け取りません。					

科目名	道徳の指導法				学年学期	3年後期	単位数	2	ナバリング		研究室	A-01
担当者	征矢野 達彦				必修選択	高免:選択 中・養・栄免:必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格	高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保体、高1種保健、養教1種、栄教1種、中1種保健、高1種保健					履修条件	教職課程履修者					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)							
①	②	③	A	B	C							
授業概要												
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領改訂で、確かな学力を基盤とした生きる力の育成を目的に、道徳教育は最重点課題の一つとして、道徳の教科化が決まり「特別な教科 道徳」となりました。そこで、その課題や今後の具体的な授業の工夫等を扱い理解を深めます。</li> <li>・この講義では、上記を踏まえ道徳の内容と指導方法について講義します。</li> </ul>												
学修到達目標												
道徳教育の目標の理解と共に、道徳授業の基礎・基本の理解と実践力の育成を図る。												
授業の進め方												
<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育の現状を踏まえ、道徳授業の基礎・基本(道徳の指導案の書き方、心に響く道徳の授業のあり方、道徳学習方法論、教材開発等)の理解を深めます。・後半に模擬授業を行い、道徳の授業の実践力を高めます。</li> </ul>												
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。												
回	テーマ		内容					事前事後学修				
1	道徳教育とは何か		「道徳」を教える					課題レポート				
2	授業の基礎・基本Ⅰ		道徳授業のポイント					課題レポート				
3	授業の基礎・基本Ⅱ		学習指導要領の改訂と道徳教育の変遷					課題レポート				
4	授業の基礎・基本Ⅲ		教科・他領域との連携の工夫					課題レポート				
5	授業の基礎・基本Ⅳ		体験活動・言語活動を活かした授業の工夫					課題レポート				
6	授業の基礎・基本Ⅴ		道徳学習方法論から					課題レポート				
7	授業の基礎・基本Ⅵ		板書の実際・工夫					課題レポート				
8	授業の基礎・基本Ⅶ		ゲストティーチャーの活用					課題レポート				
9	授業の基礎・基本Ⅷ		「心のノート」の活用					課題レポート				
10	授業の基礎・基本Ⅸ		学校教育全体計画の作成					課題レポート				
11	学習指導案の作成		学習指導案の作成					指導案作り				
12	模擬授業Ⅰ		模擬授業(1) 導入の工夫					振り返りレポート				
13	模擬授業Ⅱ		模擬授業(2) 発問の工夫					振り返りレポート				
14	模擬授業Ⅲ		模擬授業(3) 板書の工夫					振り返りレポート				
15	まとめ		全体でのシェアリング					総合レポート				
テキスト						成績評価の方法・基準						
「これだけは知っておきたい道徳授業の基礎・基本」渡邊 弘著(川島書店) ISBN:978-4-7610-0884-0(生協で購入してください。) 他は、講義の中で別途指示します。 中学校、高等学校学習指導要領						出席レポート:30% レポート:40% 模擬授業30% S:授業内容を確かに理解し、道徳の授業に探求姿勢を持って意欲的に取り組み、創意工夫した道徳の授業ができる。A:授業内容を確かに理解し、道徳の授業に意欲的に取り組み、論理的な指導案が書け、発問を工夫した授業ができる。B:授業内容を理解し、道徳の授業に意欲をもって取り組み、指導案がかけ、道徳の授業ができる。C:授業内容を概ね理解して、道徳の授業に取り組み、児童・生徒のための授業をしようとする。						
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「やさしい道徳授業のつくり方」鈴木由美子・宮里智恵 編編(溪水社) 「心に響く道徳教育講義」赤坂 雅裕 著(北樹出版)						模擬授業とレポートの提出を単位認定の条件とします。文部科学省発行の『中学校学習指導要領』と『中学校学習指導要領解説道徳編』を事前に読んでおいて下さい。						

科目名	教育課程総論			学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	A-02
担当者	藤枝 充子・山崎 保寿			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限		
関連資格	リ・ユ・テ・イ・ター教育コース、高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保健、高1種保体、高1種養教1種、栄教1種、中1種保健、高			履修条件	教職課程履修者						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
<b>授業概要</b>											
本授業は、学校における教育活動の全体計画である教育課程及びその編成に関する基本的事項を理解することを目的とします。具体的には、教育課程とは何か、学習指導要領の変遷とその背後にある学力問題や学力観の変化、教育課程を編成するために理解しておくべき基本的事項、中学校及び高等学校におけるキャリア教育について取り上げます。なお、5回分の授業を山崎が集中で、10回分を藤枝が通常時間割の中で担当します。											
<b>学修到達目標</b>											
1. 教育課程の意義と役割について理解し、説明できる。2. 学習指導要領の変遷とその背後にある学力問題や学力観の変化について理解し、説明できる。3. 教育課程を編成するために必要な基本的事項を理解し、説明できる。4. 中学校及び高等学校におけるキャリア教育について理解し、説明できる。											
<b>授業の進め方</b>											
講義形式を主とします(藤枝担当分)が、発表や協議(ディスカッション)の時間も設定されています(山崎担当分)。配布資料や時間外学修は、授業内容の理解を助け発展させるものなので、該当する授業前までに必ず読み或は実施し、授業に臨んで下さい。											
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方などについて説明します。					シラバスの読み、授業全体のイメージをつかみ、興味が持てそうな内容を見つける(4時間)。				
2	教育課程とは何か	教育課程の意義と役割について説明します。					第1回授業で配布した資料の読み、授業時に指示した内容を行う(4時間)。				
3	学習指導要領の成立と変遷1	経験主義、系統主義について説明します。					前時の復習、第2回授業で配布した資料の該当箇所の読み(4時間)。				
4	学習指導要領の成立と変遷2	教育の現代化～新学力観について説明します。					前時の復習、第2回授業で配布した資料の該当箇所の読み(4時間)。				
5	学習指導要領の成立と変遷3	生きる力と確かな学力、生きる力と活用能力について説明します。					前時の復習、第2回授業で配布した資料の該当箇所の読み(4時間)。				
6	ここまでの授業のまとめ	第2回から第5回までの授業の振り返りと総括を行います。					第2回から第5回までの授業の復習(4時間)。				
7	教育課程の編成1	教育課程を支える考え方について説明します。					第6回授業で配布した資料の読み、授業時に指示した内容を行う(4時間)。				
8	教育課程の編成2	教育課程を構成する要件について説明します。					前時の復習、第7回授業で配布した資料の読み(4時間)。				
9	教育課程の編成3	教育課程の評価について説明します。					前時の復習、第8回授業で配布した資料の読み(4時間)。				
10	ここまでの授業のまとめ	第7回から第9回までの授業の振り返りとここまでの授業全体の総括を行います。					第2回から第9回までの授業の復習(4時間)。				
11	中学校及び高等学校におけるキャリア教育1	キャリア発達、キャリア形成、キャリア教育の定義、キャリア教育の理論について説明します。					授業配布資料に基づいた次時の予習、教科書指定箇所の予習(4時間)。				
12	中学校及び高等学校におけるキャリア教育2	中学校・高等学校におけるキャリア教育の必要性、キャリア教育の背景と現状について説明します。					授業配布資料及び教科書指定箇所の予習、課題レポートに関する論文検索と収集(4時間)。				
13	中学校及び高等学校におけるキャリア教育3	中学校・高等学校学習指導要領におけるキャリア教育の内容、キャリア教育と教育課程について説明します。					授業配布資料及び教科書指定箇所の予習、論文検索と収集、課題レポート作成(4時間)。				
14	中学校及び高等学校におけるキャリア教育4	キャリア教育に関する答申、キャリア教育に関する国の教育施策とその経緯について説明します。					課題レポートの作成と発表・プレゼンテーションの練習(4時間)。				
15	中学校及び高等学校におけるキャリア教育5	キャリア教育の事例、授業のまとめとグループディスカッションを行います。					課題レポート及び発表・プレゼンテーションの修正、授業の復習(4時間)。				
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>							
「キャリア教育の基礎・基本」山崎保寿著(学事出版) 中学校、高等学校「学習指導要領」 藤枝担当部分では使用しません。必要な資料を適宜配布します。				受講態度：30% レポート：35% 課題：35% 受講態度(授業への意欲、毎時間後の感想・質問)、レポート(授業内容の理解度や考察の深まりを知る為の授業内小レポートやワーク)、課題(期末課題)を総合して評価します。＜評価基準＞S:正しく理解された授業内容に加え、資料やデータを活用しつつ、論理的に自分の考え、意見を述べている。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄を理解し説明できる。C:授業で取り上げた事柄を理解している。							
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>							
「新しい時代の教育課程」田中耕治他(有斐閣)、「教育六法 平成29年度版」(三省堂又は学陽書房)、その他は適宜紹介します。				教育職員免許法施行規則に定める科目区分「教育課程及び指導法に関する科目」に該当する科目です。教職課程履修者を対象とする必修科目ですので、3年次までに本科目の単位を修得するようにして下さい。							



科目名	特別活動の指導法			学年学期	2年前期	単位数	2	ナパリング	研究室	A-01	
担当者	征矢野 達彦・岸田 幸弘			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格	高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保健、高1種保体、養教1種、栄教1種					履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
・特別活動の意義や目的、実施上の課題等について講義します。学級会活動・児童生徒会活動・学校行事・総合的な学習・部活動についての特質を把握して、活動の実際例や指導案の検討、評価のあり方、実施の意義と方法が分かるように学びます。											
学修到達目標											
特別活動の内容と指導方法、教育課程における意味についての理解を深める。											
授業の進め方											
・前半は講義形式を中心として基礎知識を習得します。 ・後半では、学校現場の参観実習、外部講師の話、グループワーク等を取り入れ、理解を深めます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	特別活動とは何か	教育課程の中での特別活動の位置づけ (征矢野・岸田)					小中時代の活動の整理				
2	特別活動の原理	学習指導要領における特別活動の目標、内容、活動 (征矢野)					テキスト第2章1節の読み				
3	特別活動と教育課程の編成	学級会活動・児童生徒会活動・学校行事の年間指導計画と実践 (征矢野)					テキスト第2章2節の読み				
4	特別活動の内容とその指導	教科学習や道徳、総合的な学習の時間、部活動との関連 (征矢野)					テキスト第2章2節の読み				
5	学級活動の意義と展開	学級活動の内容とその指導について資料の具体事例1~3を通しての解説 (岸田)					テキスト第3章1節の読み				
6	学級活動の意義と展開	学級活動の内容とその指導について資料の具体事例4~6を通しての解説 (岸田)					テキスト第3章1節の読み				
7	学級活動と他の教育活動	学級活動と人間関係づくり (岸田)					テキスト第3章1節の読み				
8	学級活動の実践事例	学級活動の実践事例の発表とグループワークでの検討 (岸田)					学級活動の事例集め				
9	学級活動と人間関係づくり	学級活動とより良い人間関係づくりの意義 (岸田)					学級活動の課題レポート				
10	生徒会活動の意義と展開	生徒会活動の目標と意義について具体事例を通しての解説 (征矢野)					テキスト第3章2節を読む				
11	生徒会活動の意義と展開	生徒会活動の内容と指導について具体事例を通して解説 (征矢野)					生徒会活動の課題レポート				
12	生徒会活動の課題	生徒会活動の自主的・自治的活動とするための理念や方法 (征矢野)					生徒会活動の課題レポート				
13	学校行事の意義と展開	学校行事の目標と意義について具体事例を通して解説 (征矢野)					学校行事の課題レポート				
14	学校行事の意義と展開	学校行事の内容とその指導について具体事例を通して解説 (征矢野)					テキスト第3章3節の読み				
15	内容の取り扱いと配慮事項	特別活動の評価、時数、展開に関する解説 (征矢野・岸田)					テキスト第4章の読み				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「文部科学省『中学校学習指導要領解説書・特別活動編』(文部科学省) ISBN:978-4324900031(生協で購入してください。) 「キーワードで学ぶ特別活動 生徒指導 教育相談」有村久春著(金子書房) ISBN:978-4760823956(生協で購入してください。)					定期試験:60% レポート:40% S:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に意欲的に取り組み、授業内容をすべて理解して、正しく文章で表現できる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことを理解し、正しく文章で表現できる。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことについて概ね理解し、文章で表現できる。C:到達目標達成を理解して、課題に取り組み、授業で学んだことを表現できる。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「新訂 キーワードで拓く新しい特別活動」日本特別活動学会編(東洋館出版社) 他の参考書については、講義の中で指示します。					・模擬授業とレポートの提出を単位認定の条件とします。 ・文部科学省『中学校学習指導要領解説書 特別活動編』を事前に読んでおいて下さい。						

科目名	教育方法論			学年学期	2年前期	単位数	2	ナバリング	研究室	非常勤
担当者	田村 徳至・小山 茂喜			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー		
関連資格	高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保体、高1種保健、養教1種、栄教1種、中1種保健、高1種保健					履修条件	教職課程履修者			
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C						
授業概要										
学習指導要領の変遷を整理した後、すぐれた実践者の授業から教育内容と教育方法を学び、ICTの活用を含めた模擬的な授業を開発する演習を通して、わかる授業の授業設計と実践に向けての基礎・基本的知識と技能を習得していきます。										
学修到達目標										
学び合い・話し合い活動を円滑に進める方法の一つとしてファシリテーションの手法を取り入れた教育方法を習得する。教育方法という教師の活動という視点から学習と評価との関係を追究しながら、情報化教育の視点も含めて「わかる授業」を構想する視座や基礎を習得する。										
授業の進め方										
授業の前半は前時の振り返りを行うことと本時の理論を概説する。後半はグループワークを取り入れながら学修事項を確実に把握させていく。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	教育課程の基本要素と教育方法をめぐる諸問題について説明します。				基本要素は何か・教育方法学に関してノートにまとめる(4時間)				
2	学習理論1	伝統的な学習理論の特徴と教育観について説明します。				言語主義・主知主義・系統主義・5段階教授法についてノートにまとめる(4時間)				
3	学習理論2	伝統的な学習理論の特徴と教育観について説明します。				児童中心主義・直観主義・経験主義・感覚主義についてノートにまとめる(4時間)				
4	学習理論3	伝統的な学習理論の特徴と教育観について説明します。				技能主義・問題解決主義・改造主義・実証主義についてノートにまとめる(4時間)				
5	学習理論4	伝統的な学習理論の特徴と教育観について説明します。				行動主義・能力主義・個別主義・判例学習・その他の学習方法についてノートにまとめる(4時間)				
6	学習指導要領の変遷	戦後の我が国の学習指導要領の変遷と教育観について説明します。				昭和22年～平成20年版学習指導要領の内容についてノートにまとめる(4時間)				
7	授業の参観と分析1	授業参観と授業分析の基本を( ICTを活用した授業分析を含む)、授業実践例(谷和樹の授業)から学びます。				社会科を例として学習参観の方法と分析技術についてノートにまとめる(4時間)				
8	授業の参観と分析2	授業参観と授業分析の基本を( ICTを活用した授業分析を含む)、授業実践例(理科)から学びます。				理科の授業を例として学習参観の方法と分析技術についてノートにまとめる(4時間)				
9	グループワーク1(発散)	ファシリテーションの手法(ワールド・カフェ)を活用した教育方法を行います。				ファシリテーションとは何か、どのような手法があるのかノートにまとめる(4時間)				
10	グループワーク2(発散)	ファシリテーションの手法(ギャラリートーク)を活用した教材開発を行います。				学び合い・話し合い活動の実施方法についてノートにまとめる(4時間)				
11	グループワーク3(発散・収束)	ファシリテーションの手法(ワールドカフェ・ギャラリートーク)を行って教材開発を行います。				ワールドカフェとギャラリートークの実施方法についてノートにまとめる(4時間)				
12	グループワーク4(発散・収束)	ファシリテーションの手法(ワールド・カフェ、ギャラリートーク)を活用して開発した教材の発表(グループごと)と評価を行います。				学び合い・話し合い活動の実施方法についてノートにまとめる(4時間)				
13	グループワーク5(収束の技法)	ファシリテーションの手法(マンダラ法・フィッシュボーン法)を活用した教育方法を行います。				マンダラ法・フィッシュボーン法の実施方法についてノートにまとめる(4時間)				
14	教育課題の問題解決	作成したフィッシュボーンの発表(グループごと)・評価を行います。				マンダラ法とフィッシュボーンの作成に関して学習したことをノートにまとめる(4時間)				
15	模擬授業等のまとめ	模擬授業の考察と学習のまとめ				模擬授業を行うことによって得たことと授業実施における注意点をノートにまとめる(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「新版教育実習安心ハンドブック」小山茂喜編著(学事出版) ISBN:978-4-7619-2048-7(生協で購入してください。) 「図解 伝統的な教育理論に学ぶ 授業作りの基礎」長瀬荘一著(明治図書) ISBN:978-4-18-244413-5(生協で購入してください。)				レポート:40% 受講態度:30% 小テスト:30% S:学習方法に関する講義内容を確実に理解し、模擬授業等で主体的にファシリテーションの手法全てを活用した授業展開ができる。 A:講義内容を理解しており、主体的に授業に参加し、学習方法に関する課題を解決できる。B:講義内容のおおよそを理解しており、学習理論とファシリテーションの手法の一部を活用した授業展開をすることができる。 C:講義内容の約60%程度を理解し、基本的な課題について解決することができる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「哲学のある教育実践」高久清吉著(教育出版) ISBN:4-316-36960-1 「デザイナーとしての教師 アクターとしての教師」吉崎静夫著(金子書房) ISBN:978-4760892396				毎時間、学修事項に関するリアクションペーパーの記述を課す(300~400字)グループワークを行うので積極的に参加すること。						

科目名	生徒指導概論（進路指導を含む）		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナパリング	研究室	A-18
担当者	川島 一夫・岸田 幸弘		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日4限	
関連資格	レ・コデーター教育コース、高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保健、高1種保体、高1種保健、中1種保健、高1種保健				履修条件	教職課程履修者			
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
		A	B	C					
授業概要									
「生徒指導」とはなにか進路指導を含めて考えます。講義をし、小テストをすると同時に討論およびレポートの提出によって考えていきます。教科書として、「臨床心理学からみた生徒指導・教育相談」をつかい、生徒指導について講義を進めていきます。また、副読本の読書感想文提出後にグループでの討論も行う予定です。									
学修到達目標									
生徒指導および進路指導とは、何かということについての理解を深め、学校での児童生徒の問題行動に対応するための知識を身につける。									
授業の進め方									
教科書に従って講義を行い、数回の小テストを行います。副読本についてのレポートと討論も行い、レポートは、提出期日を遅れると受け取りません。レポートはワープロで提出してください。質問は、松大かわティブログで答えます。									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	授業の説明とオリエンテーション	授業全体の流れを説明し、生徒指導（学ぶために必要な、基礎となる知識についての概略を解説します。（川島・岸田）				テストの回答と授業の振り返り（4時間）			
2	生徒指導・進路指導を考える	生徒指導・進路指導について学校での必要性を講義で理解し、学校における生徒指導・進路指導の実態やその大切さを理解します。（川島）				児童から先生への生徒指導の状況をイメージして、そのとき気付きや思いをまとめる（4時間）			
3	発達を考慮した生徒指導・進路指導とはなにか	生徒指導・進路指導の基礎的な知識としての児童生徒の発達について理解し、その過程で誰もが出会うであろう様々な発達課題とその応用について、発達障害をも含めて考察します。（川島）				生徒指導・進路指導の発達課題を明確に自覚し、解決策をレポートする（4時間）			
4	学習理論を応用した教室の行動変容	学習理論を応用した教室の行動変容を学校で応用するために、強化、報酬、罰、無視などのテクニカルタームの意味を学習し、その効果と生徒への影響を理解します。				学校における学習理論を応用した教室の行動変容の具体的な利用の事例を考えまとめる（4時間）			
5	討論と質問の回答読書感想レポート	課題図書を読み、グループ学習による、討論を行います。討論は、指定された項目に従って、各自の意見をのべる。討論は、司会を決め、討論を行うために必要な技術も学びます。（川島）				討論の内容についてまとめ、討論を通して学んだことをまとめる（4時間）			
6	学校におけるシステム・アプローチの利用	システム・アプローチが、対象をシステムという観点で捉え階層性があることを理解します。その上で、家族や学校、友人集団などのシステムの中で、どのように作用するかを学びます（川島）				不登校の子どもを理解する時システムを考慮にはどのようにしたらよいかを考える（4時間）			
7	軽度発達障害への対応	軽度発達障害児の心理を中心に、その基盤となる心理学・医学的な知識について講義します。軽度発達障害に関する学校で指導・支援と、進路指導について考えます。（川島）				発達障害の子どもたち 後半を読み感想レポート（4時間）			
8	教育課程における生徒指導	生徒指導は教育課程に位置付けられておらず、すべての教育活動の中で行われるとされています。教科や道徳、総合的な学習の時間、特別活動などと生徒指導の関係を理解します。（川島）				発達障害の子どもたち 討論の感想レポート（4時間）			
9	生徒指導と教育相談	生徒指導は教育相談や教育カウンセリングの理念や方法を活用します。（岸田）				事前事後学修：テキスト第5章を読む（4時間）			
10	不登校を考える	不登校を考える 教科書を使用しての講義と小テストを行います。（岸田）				テストの回答と授業の振り返り（4時間）			
11	個別の課題への対応「暴力行為」「性」	児童生徒の暴力行為や性に関する問題の実態を知り、その予防と保護者や地域との連携の在り方を学びます。（岸田）				事前事後学修：テキスト 第4節を読む（4時間）			
12	個別の課題への対応「少年非行」	少年非行の定義と実態を理解し、その対応について学びます。その中で児童生徒と教員、児童生徒と保護者の協力の仕方を学びます。（岸田）				事前事後学修：テキスト 第4節を読む（4時間）			
13	個別の課題への対応「命の教育と自殺」	児童生徒の自殺の実態や、命の教育の意義を学び、その予防と必要性を学びます。（岸田）				事前事後学修：テキスト 第9節を読む（4時間）			
14	個別の課題への対応「不登校」	不登校の定義と実態、これまでの施策の変遷などを理解し、個別の支援の在り方や効果的な支援の方法を学びます。（岸田）				事前事後学修：テキスト 第12節を読む（4時間）			
15	生徒指導と進路指導	生徒指導の中でどのように進路指導を行うか考える。特に、中学校の進路指導について、自己実現の達成を考慮し考えます。教科書を使用しての講義と小テストです。（川島）				講義を通してのまとめ（4時間）			
テキスト		成績評価の方法・基準							
「臨床心理学からみた生徒指導・教育相談」川島 一夫、勝倉 孝治編（おうふう出版） ISBN:4892427365（生協で購入してください。） 「文部科学省 生徒指導提要」		レポート：70% 小テスト：30% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートに取り組み、小テストでは、全問題に正解できる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもってレポートに取り組み、殆どの小テストが正解できる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、小テストが解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの小テストが解ける。							
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）							
参考文献は、授業時に、紹介します。		【重要】本を読んだレポートと討論があります。締め切り日をすぎたレポートは一切受け取りません。大変ですが楽しみにしてください。							

科目名	生徒指導概論			学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナパリング	研究室	A-18	
担当者	川島 一夫・岸田 幸弘			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日4限		
関連資格	養教1種、栄教1種					履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
<p>「生徒指導」とはなにかを含めて考えます。講義をし、小テストをすると同時に討論およびレポートの提出によって考えて行きます。教科書として、「臨床心理学から見た生徒指導・教育相談」をつかい、生徒指導について講義を進めて行きます。また、副読本の読書感想文提出後にグループでの討論も行う予定です。</p>											
学修到達目標											
生徒指導とは、何かということについての理解を深め、学校での児童生徒の問題行動に対応するための知識を身につける。											
授業の進め方											
教科書に従って講義を行い、数回の小テストを行います。副読本についてのレポートと討論も行い、レポートは、提出期日を遅れると受け取りません。レポートはワープロで提出してください。質問は、松大かわテブログで答えます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業の説明とオリエンテーション	授業全体の流れを説明し、生徒指導を学ぶために必要な、基礎となる知識についての概略を解説します。(川島・岸田)					本授業への期待と生徒指導について学びたいことをレポートする(4時間)				
2	生徒指導を考える	生徒指導について学校での必要性を講義で理解し、学校における生徒指導の実態やその大切さを理解します。(川島)					児童から先生への相談をイメージして、そのとき気付きや思いをまとめる(4時間)				
3	発達を考慮した生徒指導とはなにか	生徒指導の基礎的な知識としての児童生徒の発達について理解し、その過程で誰もが出会うであろう様々な発達課題とその応用について、発達障害をも含めて考察します。(川島)					生徒指導の発達課題を明確に自覚し、解決策をレポートする(4時間)				
4	学習理論を応用した教室の行動変容	学習理論を応用した教室の行動変容を学校で応用するために、強化、報酬、罰、無視などのテクニカルタームの意味を学習し、その効果と生徒への影響を理解します。					学校における学習理論を応用した教室の行動変容の具体的な利用の事例を考えまとめる(4時間)				
5	討論と質問の回答読書感想レポート	課題図書を読み、グループ学習による、討論を行います。討論は、指定された項目に従って、各自の意見をのべる。討論は、司会を決め、討論を行うために必要な技術も学びます。(川島)					討論の内容についてまとめ、討論を通して学んだことをまとめる(4時間)				
6	学校におけるシステム・アプローチの利用	システム・アプローチが、対象をシステムという観点で捉え階層性があることを理解します。家族や学校、友人集団などのシステムの中で、どのように作用するかを学びます(川島)					不登校の子どもを理解する時システムを考慮にはどのようにしたらよいかを考える(4時間)				
7	軽度発達障害への対応	軽度発達障害児の心理を中心に、その基盤となる心理学・医学的な知識について講義します。軽度発達障害に関する学校で指導・支援について考えます。(川島)					発達障害の子どもたち 後半を読み感想レポート(4時間)				
8	教育課程における生徒指導	生徒指導は教育課程に位置付けられておらず、すべての教育活動の中で行われるとされています。教科や道徳、総合的な学習の時間、特別活動などと生徒指導の関係を理解します。(川島)					発達障害の子どもたち 討論の感想レポート(4時間)				
9	生徒指導と教育相談	生徒指導は教育相談や教育カウンセリングの理念や方法を活用します。(岸田)					事前事後学修: テキスト第5章を読む(4時間)				
10	不登校を考える	不登校を考える 教科書を使用しての講義と小テストを行います。(岸田)					テストの回答と授業の振り返り(4時間)				
11	個別の課題への対応「暴力行為」「性」	児童生徒の暴力行為や性に関する問題の実態を知り、その予防と保護者や地域との連携の在り方を学びます。(岸田)					事前事後学修: テキスト 第4節を読む(4時間)				
12	個別の課題への対応「少年非行」	少年非行の定義と実態を理解し、その対応について学びます。その中で児童生徒と教員、児童生徒と保護者の協力を考えます。(岸田)					事前事後学修: テキスト 第4節を読む(4時間)				
13	個別の課題への対応「命の教育と自殺」	児童生徒の自殺の実態や、命の教育の意義を学び、その予防と必要性を学びます。(岸田)					事前事後学修: テキスト 第9節を読む(4時間)				
14	個別の課題への対応「不登校」	不登校の定義と実態、これまでの施策の変遷などを理解し、個別の支援の在り方や効果的な支援の方法を学びます。(岸田)					事前事後学修: テキスト 第12節を読む(4時間)				
15	生徒指導についてのまとめ	中学校の生徒指導について自己実現の達成を通してどのように行われるかを考えます。教科書を使用しての講義と小テストです。(岸田)					講義を通してのまとめ(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
<p>「臨床心理学から見た生徒指導・教育相談」川島 一夫、勝倉 孝治編(おうふう出版) ISBN: 4892427365 (生協で購入してください。)</p> <p>「文部科学省 生徒指導提要」</p>				<p>レポート: 70% 小テスト: 30%</p> <p>S: 授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートに取り組み、小テストでは、全問題に正解できる。A: 授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもってレポートに取り組み、殆どの小テストが正解できる。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、小テストが解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの小テストが解ける。</p>							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
参考文献は、授業時に、紹介します。				【重要】本を読んだレポートと討論があります。締め切り日をすぎたレポートは一切受け取りません。大変ですが楽しみにしてください。							

科目名	教育相談		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナパリング		研究室	A-15
担当者	羽田 行男		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格	高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保健、高1種保体、養教1種、栄教1種、中1種保健、高1種保健				履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>いじめ、不登校等の問題行動や不適応行動が起こると、教員や保護者は「なぜ」という疑問を抱く。不適応反応が顕在化する児童生徒は発達の過程で周囲の家族や友人との人間関係の中で何らかの葛藤を抱えてきた例が多い。このような視点から事例を検討したり相談場面のロールプレイなどをしたりして、「受容」や「共感」を実感しながら教育相談に必要な知識や態度、スキルを身に着けます。</p>										
学修到達目標										
<p>教育相談についての知識を習得し、現場での児童生徒への対応を可能にするための応用力を獲得すること。具体的には教育相談が必要な事例や対応の仕方を理解し、実際に児童生徒や保護者の身になって体験的に相談活動を展開できるようになる。</p>										
授業の進め方										
<p>講義で教育相談の実態やその意義を理解し、アセスメントや具体的な相談場面のロールプレイを行います。児童生徒や保護者、教師のそれぞれの立場を体験することで、より良い相談の方法を理解します。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	教育相談とカウンセリング	教育相談とカウンセリングの違いを講義で理解し、学校における相談活動の実態やその大切さを理解します。				学校で人に相談した体験をまとめ、レポートする。(4時間)				
2	教育相談の基礎・基本	主に児童生徒の発達について理解し、その過程で出会うであろう様々な発達課題とその対応について事例を交えて紹介します。				事前に配布される事例のプリントを読み、レジュメを作成する。(4時間)				
3	家族の関係と友達関係	家族の抱える問題や学級集団内の友達関係、集団との関係などで起きる課題について理解を深め、その対応や支援をグループ討議によって考えます。				グループ討議をまとめる。事例のプリント読む。(4時間)				
4	問題行動をとおして子供が訴えるもの 反社会的行動	非行や犯罪行為などの反社会的行動の実態と意義について理解します。教育相談の対象として学校ができること、できないことを考えます。				配布プリントの反社会的行動について読み、レジュメを作成する。(4時間)				
5	問題行動をとおして子供が訴えるもの 非社会的行動	引きこもりなどの非社会的行動の実態とその意義について理解します。教育相談ができること、教師の役割を考えます。				配布プリントの非社会的行動について読み、レジュメを作成する。(4時間)				
6	教育相談の進め方	学校内での相談活動の全体的な展開の方法と、相談の進め方について理解を深めます。相談者とのリレーションづくり、アセスメント、支援策の決定までを具体的に考えます。				配布プリントの相談の進め方のプリントを読み、レジュメを作成する。(4時間)				
7	教育相談の演習 児童生徒への対応(その1)	不登校等の事例を想定して、3人グループで教育相談のロールプレイを行う。教師役、児童生徒役、観察者の役割を体験し、シェアリングを通してそれぞれの体験を語り合う。				気づきや感想をレポートする。(4時間)				
8	教育相談の演習 児童生徒への対応(その2)	1回目と同じグループで3人が役割を交代してロールプレイを行う。教師役、児童生徒役、観察者の役割を体験し、シェアリングを通してそれぞれの体験を語り合う。				それぞれの立場を体験して、新たな気づきについてレポートする。(4時間)				
9	教育相談の演習 保護者への対応(その1)	保護者からの学校への苦情を想定して、3人グループで教育相談のロールプレイを行う。教師役、保護者役、観察者の役割を体験し、シェアリングを通してそれぞれの体験を語り合う。				気づきや感想をレポートする。(4時間)				
10	教育相談の演習 保護者への対応(その2)	1回目と同じグループで3人が役割を交代してロールプレイを行う。教師役、保護者役、観察者の役割を体験し、シェアリングを通してそれぞれの体験を語り合う。				それぞれの立場を体験して、新たな気づきについてレポートする。(4時間)				
11	教育相談の演習 児童生徒への対応(その3)	前回と違うグループで3人が役割を交代してロールプレイを行う。教師役、児童生徒役、観察者の役割を体験し、シェアリングを通してそれぞれの体験を語り合う。前回とは違う事例を扱う。				それぞれの立場を体験して、新たな気づきについてレポートする。(4時間)				
12	教育相談の演習 児童生徒への対応(その4)	前回と同じグループで3人が役割を交代してロールプレイを行う。教師役、児童生徒役、観察者の役割を体験し、シェアリングを通してそれぞれの体験を語り合う。				それぞれの立場を体験して、新たな気づきについてレポートする。(4時間)				
13	チームによる相談の進め方	1対1の相談活動に加え、その事例をチーム組織で支援するための理論と方法を、演習を交えて学びます。学校内の援助資源の有効活用を考えながら、チーム支援会議を演習で学びます。				チーム支援に関する配布プリントを読み、レジュメを作成する。(4時間)				
14	チームによる相談の進め方	学校内のみならず、地域の専門機関や保護者などとの連携支援の大切さを理解し、その考え方や具体的な方法を考えます。				専門機関について調べ、レポートする。(4時間)				
15	教育相談の意義と方法(まとめ)	相談することの意義を考え、その方法を振り返り、教師としてどのように対応すべきかをグループディスカッションなどを通して考えます。				作成したレポートやレジュメを整理し、総括する。(4時間)				
テキスト			成績評価の方法・基準							
適宜、授業の中で資料を配布します。			<p>レポート：40% 小テスト：40% 受講態度：20%</p> <p>S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同じレベルの問題が解ける。</p>							
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)							
<p>「学校カウンセリング」國分康孝 他著國分康孝編(日本評論社)</p> <p>「学校現場で使えるカウンセリング・テクニック 上」諸富祥彦著(誠信書房)</p>			<p>理論だけでなく、グループワークやロールプレイをとおして実践的に学びます。</p>							

科目名	教育実習事前・事後指導		学年学期	3・4年通年	単位数	1	ナパリング	研究室	W-01
担当者	小松 茂美・岸田 幸弘		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	前期：火曜日1限 後期：木曜日1限	
関連資格	高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、中1種保健、高1種保健				履修条件	教職課程履修者			
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
		A	B	C					
<b>授業概要</b> 教育実習をより円滑・効果的に行うための授業です。学部における教育と教育実習との間の距離をできるだけ少なくし、教育実習に抵抗感なく臨めるよう教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的・基本的な事柄をしっかりと身につけることを主たるねらいとします。また、教育実習を通して学んだことを発表し、教育実習前の自己の教育観、学校観、子ども観等と対比し、今後の学校教育や教員のあり方及び諸課題を認識することを主たるねらいとします。									
<b>学修到達目標</b> 教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的・基本的な事柄をしっかりと身につけること。これからの教員に求められる資質や能力について理解を深めるとともに、学校教育の諸課題について理解しその課題解決に取り組む姿勢を身につけること。									
<b>授業の進め方</b> 教育実習事前・事後指導は、教育実習への正しい認識を深め、意欲を喚起するために教育実習の実際の姿を知る機会を提供します。また、学校教育や教員のあり方及び諸課題を認識するために、教育実習体験を発表する機会を設けます。									
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容					事前事後学修		
1	教育実習に向けて	教育実習の心得と事前指導、介護等体験について、教員採用試験への取り組みについて					レポートの提出		
2	教育実習直前ガイダンス	教育実習の意義と目的、教育実習のスケジュールと諸手続きについて					教育実習校と事前打ち合わせ（内容・実施時期等） 本時の学習内容の整理・記録		
3	教員像について 教育実習報告会に向けて	あるべき教員像について（自身の考える教員像について、今求められている教員像について） 教育実習報告会の持ち方について					事前学習：「あるべき教員像」 本時の学習内容の整理・記録		
4	教育実習グループ別報告会	Aグループの発表・報告 教育実習の成果と課題について発表し、教職についての理解を深める。					事前学習：発表・報告会の準備 本時の学習内容の整理・記録 授業レポート提出		
5	教育実習グループ別報告会	Bグループの発表・報告 教育実習の成果と課題について発表し、教職についての理解を深める。					事前学習：発表・報告会の準備 本時の学習内容の整理・記録 授業レポート提出		
6	教育実習グループ別報告会	Cグループの発表・報告 教育実習の成果と課題について発表し、教職についての理解を深める。					事前学習：発表・報告会の準備 本時の学習内容の整理・記録 授業レポート提出		
7	教育実習グループ別報告会	教育実習グループ別報告会のまとめ これまでの報告会の内容について意見交換とまとめ					事前学習：発表・報告会の準備 本時の学習内容の整理・記録 授業レポート提出		
8	教員の魅力と大変さ	教員の魅力（やりがい）と大変さについて再確認する					事前学習：学校現場の課題 レポートの提出		
テキスト		成績評価の方法・基準							
テキストは使用しません。		受講態度：40% 出席レポート：20% レポート：40% 授業担当者全員で協議し評価します。受講態度（A：意欲的・積極的、B：普通、C：消極的とし、出席状況を加味します）、出席レポート（授業レポートによりA：授業内容の把握が十分できている、B：概ねできている、C：不十分）、レポート（教育実習に対する理解度と自己課題の分析状況 A：充分できている、B：普通、C：やや不十分（教育実習報告レポート、教育実習報告会の内容を含む））を総合的に評価します。全ての項目がA評価の場合、S評価の検討をします。							
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）							
講義の中で随時、参考となる書籍について紹介します。		教育実習を履修する者は必ず履修してください。「教育実習事前・事後指導」の単位は、3年次の「教育実習事前・事後指導A」と4年次に「教育実習事前・事後指導B」の両方を履修しないと修得できません。							

科目名	教職実践演習（総経）			学年学期	4年後期	単位数	2	ナパリング	研究室	W-01	
担当者	小松 茂美・川島 一夫・室谷 心			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	木曜日1限		
関連資格	高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民					履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
		A	B	C							
授業概要											
対象：地歴・公民・福祉・商業・情報・社会 大学4年間で学んだ教職に関する知識や実習成果の整理統合を図り、現場に立つ教員として求められる最低限必要な実践的資質・能力が身につけているかどうかを各自に点検させ、受講生に現時点での自己の到達点を自覚させるとともに、その足りない部分を生涯にわたって補う努力を続けることができる力を身につけた教員を送り出すために必要な授業内容を提供します。											
学修到達目標											
目標 教員としての使命感や責任感、教育的愛情 社会性及び対人関係能力 生徒理解の能力及び生徒指導能力 教科の専門的知識及び指導力 学級経営能力 を身につける。											
授業の進め方											
教職に関する科目担当教員が中心となり、教科に関する科目担当教員と連携・協力して実施します。											
テーマ 今後の自己の課題を見出す教職実践演習											
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	ガイダンス 「教職実践演習」授業の趣旨と目的					ガイダンスの内容を確認・整理・記録				
2	期待される教員像について	期待される教員像について グループ討議					事前学習：期待される教員像 グループ討議の「振り返り」提出				
3	教員に求められるコミュニケーション能力	教員に求められるコミュニケーション能力 グループ討議					事前学習：コミュニケーション能力 グループ討議の「振り返り」提出				
4	子どもの心理・児童理解	子どもの心理・児童理解について グループ討議・ロールプレイ					事前学習：子ども理解 グループ討議の「振り返り」提出				
5	発達障害の子どもの理解とその対応の仕方	発達障害の子どもの理解とその対応の仕方 グループ討議・パスセッション					事前学習：発達障害 グループ討議の「振り返り」提出				
6	児童・生徒指導上の諸問題	児童・生徒指導上の諸問題 グループ討議（校則・校内 規律を中心として）					事前学習：校則 グループ討議の「振り返り」提出				
7	児童・生徒指導上の諸問題	児童・生徒指導上の諸問題 グループ討議（児童・生徒の 問題行動を中心として）					事前学習：問題行動 グループ討議の「振り返り」提出				
8	学級経営上の諸問題（中）	学級経営上の諸問題（中）児童・生徒指導上の諸問題 グループ討議（いじめ・不登校を中心に）					事前学習：いじめの現状 グループ討議の「振り返り」提出				
9	学級経営上の諸問題（高）	学級経営上の諸問題（高） グループ討議（進路・メディアリテラシーを中心として）					事前学習：進路指導 グループ討議の「振り返り」提出				
10	学級の安全と危機管理	学級の安全と危機管理 グループ討議（情報管理・事故・災害への対応を中心として）					事前学習：学校の危機管理 グループ討議の「振り返り」提出				
11	学級経営上の諸問題	学級経営上の諸問題 グループ討議（教員に求められる 人権感覚）（外部講師）					事前学習：学校現場の人権 グループ討議の「振り返り」提出				
12	教材研究と指導案の作成	教材研究と指導案の作成（地歴・公民・中学社会の授業を例として）					事前学習：指導案 授業内容を確認し整理・記録する				
13	指導案に基づく授業の実践と再検討	指導案に基づく授業の実践と再検討（情報・福祉の授業を例として）					事前学習：模擬授業の準備 授業内容を確認し整理・記録する				
14	学校におけるICT機器の効果的な活用法	学校におけるICT機器の効果的な活用法 グループ討議					事前学習：ICTの活用法 グループ討議「振り返り」提出				
15	全体のまとめ	まとめ 課題レポート 受講生各自の到達点の確認と今後の努力目標の設定					事前学習：教職課程への取り組みのまとめ レポート提出				
テキスト				成績評価の方法・基準							
使用しません。				受講態度：30% 出席レポート：50% レポート：20% 授業担当者全員で協議し評価します。受講態度（A:意欲的・積極的、B:普通、C:消極的とし、出席状況を加味します）、出席レポート（A:学習内容が理解・整理できている、B:概ねできている、C:不十分）、レポート（A:課題の分析・整理が的確であり自分の意見を述べている、B:課題の分析・整理又は自分の意見が不十分、C:課題の分析・整理及び自分の意見ともに不十分）を総合的に評価します。全ての項目がA評価の場合、S評価の検討をします。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
授業ごとに授業内容に応じた講義資料を配布し、各学生に応じて必要な参考書や参考文献を紹介します。				教職課程のまとめとなる授業です。積極的に参加し、見識を深め知識や技能を確実に身につけましょう。							

科目名	教職実践演習（保健・保健体育）		学年学期	4年後期	単位数	2	ナパリング	研究室	W-01	
担当者	小松 茂美・川島 一夫・岩間 英明		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	木曜日1限		
関連資格	中1種保体、高1種保体、中1種保健、高1種保健			履修条件	教職課程履修者					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
		A	B	C						
授業概要										
対象：保健体育・保健（中・高）大学4年間で学んだ教職に関する知識や実習成果の整理統合を図り、現場に立つ教員として求められる最低限必要な実践的資質・能力が身につけているかどうかを各自に点検させ、受講生に自己の到達点を自覚させるとともに、その足りない部分を生涯にわたって補う努力を続けることができる力を身につけた教員を送り出すために必要な授業内容を提供します。										
学修到達目標										
目標 教員としての使命感や責任感、教育的愛情 社会性及び対人関係能力 生徒理解の能力及び生徒指導能力 教科の専門的知識及び指導力 学級経営能力 を身につける。										
授業の進め方										
教職に関する科目担当教員が中心となり、教科に関する科目担当教員と連携・協力して実施します。										
テーマ 今後の自己の課題を見出す教職実践演習										
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンス	ガイダンス 「教職実践演習」授業の意義と目的					ガイダンスの内容を確認・整理・記録			
2	期待される教員像について	期待される教員像について グループ討議					事前学習：期待される教員像 グループ討議の「振り返り」提出			
3	教員に求められるコミュニケーション能力	教員に求められるコミュニケーション能力 グループ討議					事前学習：コミュニケーション能力 グループ討議の「振り返り」提出			
4	子どもの心理・児童理解	子どもの心理・児童理解 グループ討議・ロールプレイ					事前学習：子ども理解 グループ討議の「振り返り」提出			
5	発達障害の子どもの理解とその対応の仕方	発達障害の子どもの理解とその対応の仕方 グループ討議・バズセッション					事前学習：発達障害 グループ討議の「振り返り」提出			
6	児童・生徒指導上の諸問題	児童・生徒指導諸問題 グループ討議（「校則・校内規律」を中心として）					事前学習：校則 グループ討議の「振り返り」提出			
7	児童・生徒指導上の諸問題	児童・生徒指導上の諸問題 グループ討議（児童・生徒の問題行動を中心として）					事前学習：問題行動 グループ討議の「振り返り」提出			
8	学級経営上の諸問題（中）	学級経営上の諸問題（中） グループ討議（いじめ・不登校を中心として）					事前学習：いじめの現状 グループ討議の「振り返り」提出			
9	学級経営上の諸問題（高）	学級経営上の諸問題（高） グループ討議（進路・メディアリテラシーを中心として）					事前学習：進路指導 グループ討議の「振り返り」提出			
10	学級の安全と危機管理	学級の安全と危機管理 グループ討議（情報管理・事故・災害への対応を中心として）					事前学習：学校の危機管理 グループ討議の「振り返り」提出			
11	学級経営上の諸問題	学級経営上の諸問題 グループ討議（教師に求められる 人権感覚）（外部講師）					事前学習：学校現場の人権 グループ討議の「振り返り」提出			
12	保健体育科の授業づくり	保健体育科の授業づくり - 教材開発・カリキュラム構成					事前学習：指導案と教材開発 授業内容を確認し整理・記録する			
13	保健体育科の授業づくり	保健体育科の授業づくり - 学習指導法・評価方法					事前準備：学習指導と評価 授業内容を確認し整理・記録する			
14	保健体育科教員に求められる資質	保健体育科教員に求められる資質 グループ討議（教科経営を中心として）					事前準備：学校運営と体育科経営 グループ討議「振り返り」提出			
15	全体のまとめ	まとめ 課題レポート 受講生各自の到達点の確認と今後の努力目標の設定					事前学習：教職課程への取り組みのまとめ レポート提出			
テキスト			成績評価の方法・基準							
使用しません。			受講態度：30% 出席レポート：50% レポート：20% 授業担当者全員で協議し評価します。受講態度（A:意欲的・積極的、B:普通、C:消極的とし、出席状況を加味します）、出席レポート（A:学習内容が理解・整理できている、B:概ねできている、C:不十分）、レポート（A:課題の分析・整理が的確であり自分の意見を述べている、B:課題の分析・整理又は自分の意見が不十分、C:課題の分析・整理及び自分の意見ともに不十分）を総合的に評価します。全ての項目がA評価の場合、S評価の検討をします。							
参考書			履修上の注意（学生へのメッセージ）							
授業ごとに授業内容に応じた講義資料を配布し、各学生に応じて必要な参考書や参考文献を紹介します。			教員の学びは、むしろ学校現場に出発からが本当のスタート言えます。そのため本講義は、これまでの学習の整理・復習だけでなく、自分自身が課題を見つけようとする積極的な姿勢が望まれます。							



科目名	教職実践演習（養護教諭）		学年学期	4年後期	単位数	2	ナパリング	研究室	W-01
担当者	小松 茂美・川島 一夫・中島 節子		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	木曜日1限	
関連資格	養教1種			履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
		A	B	C					
<b>授業概要</b> 対象：養護教諭 大学4年間で学んだ教職に関する知識や実習成果の整理統合を図り、現場に立つ教員として求められる最低限必要な実践的資質・能力が身についているかどうかを各自に点検させ、受講生に自己の到達点を自覚させるとともに、その足りない部分を生涯にわたって補う努力を続けることができる力を身につけた教員を送り出すために必要な授業内容を提供します。									
<b>学修到達目標</b> 目標 教員としての使命感や責任感、教育的愛情 社会性及び対人関係能力 児童・生徒理解能力及び児童・生徒指導能力 養護の専門的知識及び指導力 保健室経営管理能力 を身につける。									
<b>授業の進め方</b> 教職に関する科目担当教員が中心となり、教科に関する科目担当教員と連携・協力して実施します。 テーマ 今後の自己の課題を見出す教職実践演習									
<b>授業計画（各回のテーマ等）</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容			事前事後学修				
1	ガイダンス	ガイダンス 「教職実践演習」授業の意義と目的			ガイダンスの内容を確認・整理・記録				
2	期待される教員像について	期待される教員像について グループ討議			事前学習：期待される教員像 グループ討議「振り返り」提出				
3	教員に求められるコミュニケーション能力	教員に求められるコミュニケーション能力 グループ討議			事前学習：コミュニケーション能力 グループ討議「振り返り」提出				
4	子どもの心理・児童理解	子どもの心理・児童理解 グループ討議・ロールプレイ			事前学習：子ども理解 グループ討議「振り返り」提出				
5	発達障害の子どもの理解とその対応の仕方	発達障害の子どもの理解とその対応の仕方 グループ討議・バズセッション			事前学習：発達障害 グループ討議「振り返り」提出				
6	児童・生徒指導上の諸問題	児童・生徒指導上の諸問題 グループ討議（「校則・校内規律」を中心として）			事前学習：校則 グループ討議「振り返り」提出				
7	児童・生徒指導上の諸問題	児童・生徒指導上の諸問題 グループ討議（児童・生徒の問題行動を中心として）			事前学習：問題行動 グループ討議「振り返り」提出				
8	学級経営上の諸問題（中）	学級経営上の諸問題（中） グループ討議（いじめ・不登校を中心として）			事前学習：いじめの現状 グループ討議「振り返り」提出				
9	学級経営上の諸問題（高）	学級経営上の諸問題（高） グループ討議（進路・メディアリテラシーを中心として）			事前学習：進路指導 グループ討議「振り返り」提出				
10	学級の安全と危機管理	学級の安全と危機管理 グループ討議（情報管理・事故・災害への対応を中心として）			事前学習：学校の危機管理 グループ討議「振り返り」提出				
11	学級経営上の諸問題	学級経営上の諸問題 グループ討議（教師に求められる 人権感覚） （外部講師）			事前学習：学校現場の人権 グループ討議「振り返り」提出				
12	保健指導の再点検	保健指導の再点検 グループ討議（教材研究と情報活用）			事前学習：教材研究 グループ討議「振り返り」提出				
13	子どもの健康課題に対応できる実践力	子どもの健康課題に対応できる実践力 情報 収集・実施・評価を中心として			事前学習：子どもの健康課題への対応 授業内容を確認し整理・記録する				
14	保健室経営と組織活動における養護教諭の役割	保健室経営と組織活動における養護教諭の役割 グループ討議			事前学習：保健室経営 グループ討議「振り返り」提出				
15	全体のまとめ	まとめ 課題レポート 各自の到達点の確認 と今後の努力目標の設定			事前学習：教職課程への取り組みのまとめ レポート提出				
テキスト				成績評価の方法・基準					
使用しません。				受講態度：30% 出席レポート：50% レポート：20% 授業担当者全員で協議し評価します。受講態度（A:意欲的・積極的、B:普通、C:消極的とし、出席状況を加味します）、出席レポート（A:学習内容が理解・整理できている、B:概ねできている、C:不十分）、レポート（A:課題の分析・整理が的確であり自分の意見を述べている、B:課題の分析・整理又は自分の意見が不十分、C:課題の分析・整理及び自分の意見ともに不十分）を総合的に評価します。全ての項目がA評価の場合、S評価の検討をします。					
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）					
授業ごとに授業内容に応じた講義資料を配布し、各学生に応じて必要な参考書や参考文献を紹介します。				養護教諭は一人配置が多く、社会に出た時から実践力を求められます。基礎的なことを確認できるように、学内の講義・実習、教育実習で学んだことを関連付けて、自己の課題を明確にして講義にのぞみましょう。					

科目名	教職実践演習（栄養教諭）		学年学期	4年後期	単位数	2	ナパリング	研究室	W-01
担当者	小松 茂美・川島 一夫・廣田 直子		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	木曜日1限	
関連資格	栄教1種			履修条件		教職課程履修者			
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
		A	B	C					
授業概要									
対象：栄養教諭 大学4年間で学んだ教職に関する知識や実習成果の整理統合を図り、現場に立つ教員として求められる最低限必要な実践的資質・能力が身についているかどうかを各自に点検させ、受講生に自己の到達点を自覚させるとともに、その足りない部分を生涯にわたって補う努力を続けることができる力を身につけた教員を送り出すために必要な授業内容を提供します。									
学修到達目標									
目標 教員としての使命感や責任感、教育的愛情 社会性及び対人関係能力 児童・生徒理解及び児童・生徒指導能力 栄養教諭の専門的知識 「食に関する指導」能力 を身につける。									
授業の進め方									
教職に関する科目担当教員が中心となり、教科に関する科目担当教員と連携・協力して実施します。 テーマ 今後の自己の課題を見出す教職実践演習									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	ガイダンス 「教職実践演習」授業の意義と目的				ガイダンスの内容を確認・整理・記録			
2	期待される教員像について	期待される教員像について グループ討議				事前課題：期待される教員像 グループ討議の「振り返り」提出			
3	教員に求められるコミュニケーション能力	教員に求められるコミュニケーション能力 グループ討議				事前課題：コミュニケーション能力 グループ討議の「振り返り」提出			
4	子どもの心理・児童理解	子どもの心理・児童理解 グループ討議・ロールプレイ				事前課題：子ども理解 グループ討議の「振り返り」提出			
5	発達障害の子どもの理解とその対応の仕方	発達障害の子どもの理解とその対応の仕方 グループ討議・パスセッション				事前課題：発達障害 グループ討議の「振り返り」提出			
6	児童・生徒指導上の諸問題	児童・生徒指導上の諸問題 グループ討議（「校則・校内規律」を中心として）				事前課題：校則 グループ討議の「振り返り」提出			
7	児童・生徒指導上の諸問題	児童・生徒指導上の諸問題 グループ討議（児童・生徒の問題行動を中心として）				事前課題：問題行動 グループ討議の「振り返り」提出			
8	児童・生徒指導上の諸問題	児童・生徒指導上の諸問題 グループ討議（いじめ・不登校を中心として）				事前課題：いじめの現状 グループ討議の「振り返り」提出			
9	学級経営上の諸問題（高）	学級経営上の諸問題（高） グループ討議（進路・メディアリテラシーを中心として）				事前課題：進路指導 グループ討議の「振り返り」提出			
10	学級の安全と危機管理	学級の安全と危機管理 グループ討議（情報管理・事故・災害への対応を中心として）				事前課題：学校の危機管理 グループ討議の「振り返り」提出			
11	学級経営上の諸問題	学級経営上の諸問題 グループ討議（教員に求められる 人権感覚）（外部講師）				事前学習：学校現場の人権 グループ討議の「振り返り」提出			
12	「食に関する指導の全体計画」の作成	「食に関する指導の全体計画」の作成について グループ討議				事前学習：食に関する具体的指導計画 グループ討議の「振り返り」提出			
13	教科と特別活動で実施する「食に関する指導」の再点検	教科と特別活動で実施する「食に関する指導」の再点検 指導案の作成に関するグループ討議				事前学習：特別活動 グループ討議の「振り返り」提出			
14	「食に関する指導」のコーディネーターとしての栄養教諭の役割	「食に関する指導」のコーディネーターとしての栄養教諭の役割 グループ討議				事前学習：栄養教諭の役割 グループ討議「振り返り」提出			
15	全体のまとめ	まとめ 課題レポート 受講生各自の到達点の確認と今後の努力目標の設定				事前学習：教職課程への取り組みのまとめ レポート提出			
テキスト		成績評価の方法・基準							
使用しません。		受講態度：30% 出席レポート：50% レポート：20% 授業担当者全員で協議し評価します。受講態度（A:意欲的・積極的、B:普通、C:消極的とし、出席状況を加味します）、出席レポート（A:学習内容が理解・整理できている、B:概ねできている、C:不十分）、レポート（A:課題の分析・整理が的確であり自分の意見を述べている、B:課題の分析・整理又は自分の意見が不十分、C:課題の分析・整理及び自分の意見ともに不十分）を総合的に評価します。全ての項目がA評価の場合、S評価の検討をします。							
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）							
授業ごとに授業内容に応じた講義資料を配布し、各学生に応じて必要な参考書や参考文献を紹介する。		教職課程のまとめとなる授業です。グループ討議などを中心に進めていきますが、栄養教諭の特性を踏まえて、健康栄養学科で学んだ専門科目の知識や技術等を応用し、積極的な姿勢で学んでほしいと思います。							

科目名	地理歴史科指導法			学年学期	2・3年前期	単位数	2	ナパリング	研究室	非常勤
担当者	仁科 利明			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー		
関連資格	中1種社会、高1種地歴			履修条件		教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A B C								
授業概要										
本講義は、高等学校学習指導要領にもとづいて高等学校地理歴史科がめざす目標や教科としての特色について学ぶとともに、世界史・日本史・地理の各科目の性格と目標、科目相互の共通点や関連性などについて理解と認識を深めていきます。また、国際社会を主体的に生き平和で民主的な社会を形成していく生徒の歴史的思考力を培い地理的認識を養うことを目的に、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業などを通して高等学校における地理歴史科各科目の指導に必要な基礎的知識や技能の修得をめざします。										
学修到達目標										
世界史 B・日本史 B・地理 B各科目の目標と内容への理解を深め、生徒の歴史的思考力を培い地理的認識を養う授業のあり方を検討し、教材研究の深化、学習指導計画の立案、授業目標の設定、指導内容の精選、学習指導案の作成、教育実習を念頭にした模擬授業を通して、生徒の主体的な学びを支援する実践的な指導力を修得する。										
授業の進め方										
講義のほか、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業、模擬授業後の考察などを組み合わせて展開します。模擬授業は、地理歴史科3科目を受講生が交代で行い、授業後の意見交換や相互評価などを通して成果と課題を共有し、自らの授業作りに役立てていきます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	講義ガイダンス 地理歴史科の目標	授業概要、学修目標、授業の進め方、成績評価方法などを説明します。高等学校地理歴史科の目標について学習指導要領をもとに考察します。				学習指導要領解説地理歴史編の第1章を事前に読み予習する。(4時間)				
2	地理歴史科の教科の特色と授業のあり方	地理歴史科の目標にもとづいて教科の特色について理解を深めるとともに、生徒の主体的な学びを支援する授業のあり方を考えていきます。				高校時代のノートなどを見直し授業で学んだことを整理する。(4時間)				
3	世界史 B・日本史 B・地理 Bの目標と内容	世界史 B・日本史 B・地理 Bの目標について学習指導要領をもとに解説し、各科目の内容の特色と相互の関連性について考えていきます。				テキスト第2章の第2・4・6節を事前に読んで予習する。(4時間)				
4	教材研究と学習指導案 各科目の模擬授業の展開	教材研究の重要性と具体的な進め方、学習指導案の意義と基本的な作成方法について解説します。模擬授業の担当と日程を検討します。				教科書や資料集以外で授業に活用できる教材について考えておく。(4時間)				
5	模擬授業に向けた学習指導案の作成	受講生各自が作成した学習指導案1次案を素材として相互に検討し、模擬授業の展開を支える学習指導案を作成していきます。				担当授業の教材研究を進めて事前に学習指導案1次案を作成する。(4時間)				
6	世界史 B学習指導案の検討 世界史 B模擬授業	世界史 Bの学習指導案2次案を相互に検討します。世界史 B模擬授業を実施し、授業後に受講生同士の意見交換や相互評価などを行います。				担当する授業の教材研究を深めて学習指導案2次案を作成する。(4時間)				
7	世界史 B模擬授業	前時に続いて世界史 B模擬授業を実施し、授業後に受講生同士の意見交換や相互評価などを行って成果と課題を共有します。				受けた模擬授業の内容を整理して成果と課題を明確にする。(4時間)				
8	世界史 B模擬授業のまとめと考察	世界史 B模擬授業全体を通して成果と課題を確認し、授業目標・授業展開・教材研究・学習指導案・指導技術などの観点から考察します。				授業者側と生徒側の両面から授業のあり方を考えてまとめる。(4時間)				
9	日本史 B学習指導案の検討 日本史 B模擬授業	日本史 Bの学習指導案2次案を相互に検討します。日本史 B模擬授業を実施し、授業後に受講生同士の意見交換や相互評価などを行います。				担当する授業の教材研究を深めて学習指導案2次案を作成する。(4時間)				
10	日本史 B模擬授業	前時に続いて日本史 B模擬授業を実施し、授業後に受講生同士の意見交換や相互評価などを行って成果と課題を共有します。				受けた模擬授業の内容を整理して成果と課題を明確にする。(4時間)				
11	日本史 B模擬授業のまとめと考察	日本史 B模擬授業全体を通して成果と課題を確認し、授業目標・授業展開・教材研究・学習指導案・指導技術などの観点から考察します。				授業者側と生徒側の両面から授業のあり方を考えてまとめる。(4時間)				
12	地理 B学習指導案の検討 地理 B模擬授業	地理 Bの学習指導案2次案を相互に検討します。地理 B模擬授業を実施し、授業後に受講生同士の意見交換や相互評価などを行います。				担当する授業の教材研究を深めて学習指導案2次案を作成する。(4時間)				
13	地理 B模擬授業	前時に続いて地理 B模擬授業を実施し、授業後に受講生同士の意見交換や相互評価などを行って成果と課題を共有します。				受けた模擬授業の内容を整理して成果と課題を明確にする。(4時間)				
14	地理 B模擬授業のまとめと考察	地理 B模擬授業全体を通して成果と課題を確認し、授業目標・授業展開・教材研究・学習指導案・指導技術などの観点から考察します。				授業者側と生徒側の両面から授業のあり方を考えてまとめる。(4時間)				
15	地理歴史科指導法の研究とまとめ	模擬授業体験などを通して地理歴史科各科目の目標や授業のあり方、授業方法などを改めて考察し、今後の課題を明確にしていきます。				講義や模擬授業で得たことを整理して提出物や試験に備える。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編」文部科学省編(教育出版) ISBN:978-4-316-30022-1(生協で購入してください。) 「詳説世界史(世B304)」木村靖ほか著(山川出版社) 「詳説日本史(日B301)」笹山晴生ほか著(山川出版社) 「新詳地理 B(地B301)」片平博文ほか著(帝国書院) 「新詳高等地図(地図-302)」帝国書院編集部編(帝国書院)				受講態度:20% レポート:30% 課題:30% 定期試験:20% S:教科科目の目標や内容を理解して教材研究を深め、教育実習水準の学習指導案を作成して模擬授業を行い、授業後の意見交換や相互評価などにも意欲的に取り組んで指導力を高めている。A:教科科目の目標や内容を理解し、教材研究をもとに学習指導案を作成して模擬授業を行い、考察や意見交換などに取り組んでいる。B:教科科目の目標や内容をふまえて学習指導案を作成し、模擬授業を行って意見交換などにも取り組んでいる。C:担当科目の内容に沿って学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「最新世界史図説タペストリー」帝国書院編集部編(帝国書院) 「山川詳説日本史図録」詳説日本史図録編集委員会編(山川出版社) 「新編地理資料」内山美彦ほか編(東京法令出版)				生徒に何を伝え、考えさせるかという問題意識をもち、生徒とともに学び合う真摯な姿勢を期待します。新聞や関連書籍を読んで現代世界の動向や教科指導に関わる基礎的知識を蓄積し、自らのものの見方や考え方を深めてください。						

科目名	地理歴史科指導法			学年学期	2・3年後期	単位数	2	ナパ'リング	研究室	非常勤
担当者	仁科 利明			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー		
関連資格	高1種地歴					履修条件	教職課程履修者			
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
本講義は、地理歴史科指導法 の内容を発展させ、高等学校地理歴史科がめざす目標や教科の特色、世界史・日本史・地理の各科目の性格と目標、科目相互の関連性などについての理解と認識をさらに深めます。また、生徒の歴史的思考力を培い地理的認識を養う授業はどのようなべきかを意識して教材研究や学習指導案を深めていくとともに、複数回の模擬授業への取り組みを通して高等学校における地理歴史科各科目の指導に求められる総合的な知識と高い技能の修得をめざします。										
学修到達目標										
世界史 B・日本史 B・地理 Bの目標と内容をふまえ、各科目の授業のあり方を追求し、年間および単元学習指導計画の立案、教材研究を深めた学習指導案の作成、指導内容の精選、生徒の学習活動の検討、評価の観点について考察しながら各科目の模擬授業に取り組み、教育実習の臨むためのより実践的な指導力を修得する。										
授業の進め方										
講義のほか、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業、模擬授業後の考察などを組み合わせて展開します。模擬授業は、教育実習を想定したより実践的なものになります。模擬授業後の成果と課題を受講生が共有し、一人一人の授業作りに役立つ取り組みを深めます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	講義ガイダンス 学習目標と学習指導計画	授業概要、学修目標、授業の進め方、成績評価方法などを説明します。地理歴史科各科目の目標にもとじて学習指導計画を考えていきます。				教科書にもとじて各科目の年間指導計画を事前に立案する。(4時間)				
2	模擬授業の展開 教材研究と学習指導案 A	模擬授業 A～Cの担当と日程を検討します。教材研究を深め、指導法の模擬授業体験をふまえて学習指導案を作成していきます。				担当授業を年間および単元指導計画のなかに位置づけて考える。(4時間)				
3	学習指導案 Aの検討 模擬授業 A	模擬授業 Aの学習指導案を相互に検討します。模擬授業 Aを実施し、授業後に受講生同士の意見交換や相互評価などを行います。				担当する授業の教材研究を深めて事前に学習指導案 Aを作成する。(4時間)				
4	模擬授業 A	前時に続いて模擬授業 Aを実施し、授業後に受講生同士の意見交換や相互評価などを行って成果と課題を共有します。				受けた模擬授業の内容を整理して成果と課題を明確にする。(4時間)				
5	模擬授業 Aのまとめと考察	模擬授業 A全体を通して成果と課題を確認し、授業目標・授業展開・教材研究・学習指導案・指導技術などの観点から考察します。				授業者側と生徒側の両面から授業のあり方を考えてまとめる。(4時間)				
6	授業内容と学習活動の検討 学習指導案 Bの作成	授業者が展開する授業内容と生徒の主体的な学習活動との関連について検討します。模擬授業 Bの学習指導案を作成していきます。				生徒の主体的な学びを支援する授業内容と指導方法を考える。(4時間)				
7	学習指導案 Bの検討 模擬授業 B	模擬授業 Bの学習指導案を相互に検討します。模擬授業 Bを実施し、授業後に受講生同士の意見交換や相互評価などを行います。				担当する授業の教材研究を深めて事前に学習指導案 Bを作成する。(4時間)				
8	模擬授業 B	前時に続いて模擬授業 Bを実施し、授業後に受講生同士の意見交換や相互評価などを行って成果と課題を共有します。				受けた模擬授業の内容を整理して成果と課題を明確にする。(4時間)				
9	模擬授業 Bのまとめと考察	模擬授業 B全体を通して成果と課題を確認し、授業目標・授業展開・教材研究・学習指導案・指導技術などの観点から考察します。				授業者側と生徒側の両面から授業のあり方を考えてまとめる。(4時間)				
10	学習活動と評価観点の検討 学習指導案 Cの作成	生徒の学習活動をどのように評価するか、評価の観点の設定などについて検討します。模擬授業 Cの学習指導案を作成していきます。				生徒の学習活動について何をどのように評価するかを考える。(4時間)				
11	学習指導案 Cの検討 模擬授業 C	模擬授業 Cの学習指導案を相互に検討します。模擬授業 Cを実施し、授業後に受講生同士の意見交換や相互評価などを行います。				担当する授業の教材研究を深めて事前に学習指導案 Cを作成する。(4時間)				
12	模擬授業 C	前時に続いて模擬授業 Cを実施し、授業後に受講生同士の意見交換や相互評価などを行って成果と課題を共有します。				受けた模擬授業の内容を整理して成果と課題を明確にする。(4時間)				
13	模擬授業 Cのまとめと考察	模擬授業 C全体を通して成果と課題を確認し、授業目標・授業展開・教材研究・学習指導案・指導技術などの観点から考察します。				授業者側と生徒側の両面から授業のあり方を考えてまとめる。(4時間)				
14	模擬授業 A～Cの分析とまとめ	模擬授業 A～C全体を通して成果と課題を確認し、授業目標・授業展開・教材研究・学習指導案・指導技術などの観点から分析します。				模擬授業の成果と教育実習に向けての課題や改善点を整理する。(4時間)				
15	地理歴史科指導法の研究とまとめ	地理歴史科各科目の目標や授業のあり方、授業内容や指導技術などを改めて考察し、教育実習に向けて成果と課題を明確にしていきます。				講義や模擬授業で得たことを整理して提出物や試験に備える。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編」文部科学省編(教育出版) ISBN:978-4-316-30022-1(生協で購入してください。) 「詳説世界史(世B304)」木村靖二ほか著(山川出版社) 「詳説日本史(日B301)」笹山晴生ほか著(山川出版社) 「新詳地理 B(地B301)」片平博文ほか編(帝国書院) 「新詳高等地図」帝国書院編集部編(帝国書院)				受講態度:20% レポート:30% 課題:30% 定期試験:20% S:指導法 の学びを発展させ科目相互の関連性などにも理解を深め、指導内容を精選した模擬授業を行うとともに、考察や相互評価なども主体的に取り組み実践的な指導力を習得している。A:指導法 以降の学びに基づき教材研究を深めて模擬授業を行い、考察や意見交換などにも取り組んで指導力の向上をめざしている。B:指導法 の学びをふまえて学習指導案を作成し、模擬授業と授業後の考察や意見交換などに取り組んでいる。C:指導法 以降の学びに沿って学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「最新世界史図説タペストリー」帝国書院編集部編(帝国書院) 「山川詳説日本史図録」山川詳説日本史図録編集委員会編(山川出版社) 「新編地理資料」内山美彦ほか編(東京法令出版)				広い視野と十分な教材研究を土台に、主体的に模擬授業に臨んでください。現代世界の諸課題に対する生徒の理解を深め、生徒に平和で民主的な社会の実現を考えさせるという問題意識をもった模擬授業への取り組みを期待します。						

科目名	公民科指導法			学年学期	2・3年前期	単位数	2	ナパリング		研究室	非常勤
担当者	宮本 和夫			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	中1種社会、高1種公民				履修条件	教職課程履修者					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C							
授業概要											
教師として教育現場に立っても困らないだけの実践能力を身につけることを目的とします。第4講までは「公民」という教科にはどのような科目があり、その内容・目的は何であるかを理解し、第5講以降「現代社会」について具体的に学び、実際に教壇に立ち模擬授業を行い、授業とはどのようなものかを体験します。											
学修到達目標											
公民科の「窓口」としての現代社会の内容を包括的に理解して、それを正しくわかりやすく伝える力を身につけること。											
授業の進め方											
講義計画にある模擬授業の回数は受講生の数によって変動することがあるので、必ずしも講義計画どおり進まないことがあります。模擬授業は教科書にそってその内容を教えるという一般的な形態の授業を主としますが、具体的には授業者の工夫に任せられます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容						事前事後学修			
1	講義のガイダンス	講義の目指すもの。1年間の見通し。自分を表現する(自己紹介)						講義への要望を提出(4時間)			
2	教育課程上の現代社会の位置づけについて	公民科という教科について(1)-その目標を中心として-						テキストの通観(4時間)			
3	現代社会を学ぶとは	公民科という教科について(2)-その内容を中心として-						テキストの通読(4時間)			
4	教えと学び	“教わる”ことと“教える”こと。何を教えるのか。どう教えるのか。						中学、高校時代の授業をふり返る(4時間)			
5	指導案とは	「現代社会」の学習指導案作成-政治的分野について-						指導案試作(4時間)			
6	指導案検討	「現代社会」の学習指導案作成-経済的分野について-						実習指導案の作成(4時間)			
7	授業実習に学ぶ	「現代社会」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ:Aグループ						感想、意見の記録(4時間)			
8	授業実習に学ぶ	「現代社会」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ:Bグループ						感想、意見の記録(4時間)			
9	授業実習に学ぶ	「現代社会」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ:Cグループ						感想、意見の記録(4時間)			
10	授業実習に学ぶ	「現代社会」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ:Dグループ						感想、意見の記録(4時間)			
11	授業実習に学ぶ	「現代社会」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ:Eグループ						感想、意見の記録(4時間)			
12	授業実習に学ぶ	「現代社会」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ:Fグループ						感想、意見の記録(4時間)			
13	授業実習に学ぶ	「現代社会」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ:Gグループ						感想、意見の記録(4時間)			
14	授業実習に学ぶ	講師による模擬授業の展開						感想、意見の記録(4時間)			
15	授業論を深める	各自の模擬授業を振り返り、反省点や学んだ点を出し合って授業への理解を深める						これまでの講義を通しての感想を提出(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準						
「高校現代社会」伊藤光晴ほか著井上貴文ほか編(実教出版) ISBN:978-4-407-20206-9(別途、指示します。)					課題:50% レポート:30% 受講態度:20% S:教科科目の目標や内容を理解して教材研究を深め、教育実習水準の学習指導案を作成して模擬授業を行うことができる。A:教科科目の目標や内容を理解し、教材研究をもとに学習指導案を作成して模擬授業を行うことができる。B:教科科目の目標や内容をふまえて学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。C:担当科目の内容に沿って学習指導案を作成することができる。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「高等学校学習指導要領解説 公民編」(文部科学省) 「高等学校学習指導要領」(文部科学省)					教師として重要な資質は、単に教え方が上手だというだけでなく、授業に対する周到な準備、授業時間に遅れないなど授業に対する真剣な態度です。毎回きちんと出席し、積極的に発言することが求められます。						

科目名	公民科指導法			学年学期	2・3年後期	単位数	2	ナパリング	研究室	非常勤
担当者	宮本 和夫			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー		
関連資格	高1種公民				履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C						
授業概要										
前期の講義を受けて、後期では「政治・経済」と「倫理」をとりあげます。教壇での模擬授業を繰り返し実践することにより、教師としての実践的能力を身につけます。模擬授業は受講生が交代して行い、終了後、自己評価・相互評価を行い、担当者がコメントします。										
学修到達目標										
現代社会のより深い展開である政治経済と倫理の科目について理解を広め、わかりやすく教えることができるようになること。										
授業の進め方										
講義計画にある模擬授業の回数は受講生の数によって変動することがあるので、必ずしも計画通り進まないことがあります。各自3回の模擬授業実施を予定しています。授業する単元については、各自の希望を尊重します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	政治経済の教育課程上の位置づけについて	「政治・経済」その目標と内容について					ニュース・ミニ解説の準備(4時間)			
2	ミニ授業の実習	ニュース・ミニ解説実習					感想、意見の記録(4時間)			
3	授業実習に学ぶ	「政治・経済」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ：Aグループ					感想、意見の記録(4時間)			
4	授業実習に学ぶ	「政治・経済」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ：Bグループ					感想、意見の記録(4時間)			
5	授業実習に学ぶ	「政治・経済」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ：Cグループ					感想、意見の記録(4時間)			
6	授業実習に学ぶ	「政治・経済」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ：Dグループ					感想、意見の記録(4時間)			
7	授業実習に学ぶ	「政治・経済」の模擬授業とその分析 模擬授業実施グループ：Eグループ					感想、意見の記録(4時間)			
8	倫理という科目についての教育課程上の位置づけ	「倫理」の学習指導案の作成					指導案の試作(4時間)			
9	授業実習に学ぶ	「倫理」の模擬授業とその分析ー思想の源流を探るー					感想、意見の記録(4時間)			
10	授業実習に学ぶ	「倫理」の模擬授業とその分析ー世界の宗教の特徴についてー					感想、意見の記録(4時間)			
11	授業実習に学ぶ	「倫理」の模擬授業とその分析ー西洋思想の特徴と現代ー					感想、意見の記録(4時間)			
12	授業実習に学ぶ	「倫理」の模擬授業とその分析ー東洋思想の特徴と現代ー					感想、意見の記録(4時間)			
13	授業実習に学ぶ	「倫理」の模擬授業とその分析ー日本の思想の歴史ー					感想、意見の記録(4時間)			
14	授業実習に学ぶ	「倫理」の模擬授業とその分析ー現代の思想の課題ー					感想、意見の記録(4時間)			
15	政治経済、倫理を教えることとは？	今日のグローバル社会において、政治経済および倫理の教育がなぜ必要かをあらためて考える					これまでの講義の全体的な感想を記して提出(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準					
「高校現代社会」伊藤光晴ほか著井上貴文ほか編(実教出版) ISBN:978-4-407-20206-9(別途、指示します。)					課題:50% レポート:30% 受講態度:20% S:科目相互の関連性などにも理解を深め、指導内容を精選した模擬授業を行うとともに、考察や相互評価なども主体的に取り組み実践的な指導力を習得している。A:教材研究を深めて模擬授業を行い、考察や意見交換などにも取り組んで指導力の向上をめざしている。B:学習指導案を作成し、模擬授業と授業後の考察や意見交換などに積極的に取り組んでいる。C:学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「高等学校学習指導要領解説 公民編」(文部科学省) 「高等学校学習指導要領」(文部科学省)					よい授業とは、単に教え方が上手いというだけではありません。教師の授業に対する周到な準備・情熱・意欲、生徒と共に学ぼうとする真摯な態度が求められます。それを体感してほしいと思います。					

科目名	社会科指導法基礎			学年学期	2年前期	単位数	2	ナパリング	研究室	非常勤
担当者	平澤 香			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー		
関連資格	中1種社会				履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>本講義では、中学校社会科がめざす、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うために、中学校の社会科教員として必要な指導法の基礎を身に付けることをねらいとしています。さらに、戦後の中学校教育の変遷を踏まえるとともに、新たに登場した社会科について、カリキュラム、学習指導、評価といった様々な視点と、社会の変化や学校教育の諸課題と関連づけながら社会科教育の在り方を考察します。また、優れた実践例も紹介します。</p>										
学修到達目標										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科学習の意義やカリキュラム理論を理解し指導と評価が一体となった授業を構想するための年間指導計画を作成することができる。</li> <li>・優れた先人の実践例から、生きる力や確かな学力を育成するための指導方法を習得することができる。</li> </ul>										
授業の進め方										
<p>教員から提示されるテーマを受講者がそれぞれ選択して調べ、その発表を中心に全体で議論を深めながら講義を進めます。また、フィールドワークなどの作業的体験的な学習も随時取り入れます。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	オリエンテーション - 講義の概要 -				学習指導要領及び3分野の教科書を事前に熟読しておくこと(4時間)				
2	社会科のあゆみ	戦後の社会科教育のあゆみ				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
3	社会科のカリキュラム理論	社会科学習の意義とカリキュラムの理論				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
4	地理的分野のカリキュラム	地理的分野の年間カリキュラム				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
5	地理的分野の評価	地理的分野の指導と評価のポイント				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
6	歴史的分野のカリキュラム	歴史的分野の年間カリキュラム				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
7	歴史的分野の評価	歴史的分野の指導と評価のポイント				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
8	公民的分野のカリキュラム	公民的分野の年間カリキュラム				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
9	公民的分野の評価	公民的分野の指導と評価のポイント				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
10	実践例(1)	学び方を学ぶ社会科学習の実践例				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
11	実践例(2)	話し合いや発表を生かした社会科学習の実践例				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
12	実践例(3)	インターネットやGISを活用した社会科学習の実践例				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
13	実践例(4)	調査・体験活動を重視した社会科学習の実践例				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
14	評価問題	社会科評価問題の工夫と改善				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
15	まとめ	まとめ - これからの社会科を考える				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準					
<p>「中学校学習指導要領解説 社会編」(日本文教出版)  「中学校社会科地図」(帝国書院)  「新しい社会 地理」(東京書籍)  「中学生の歴史」(帝国書院)  「中学生の公民」(帝国書院)</p>					<p>受講態度：50% 課題：30% レポート：20%  S:到達目標達成のために進んで課題に取り組み、各回の授業内容をすべて理解し指導と評価が一体となった年間指導計画を作成することができる。A:到達目標達成のために課題に取り組み、各回の授業で学んだことを理解し年間指導計画を作成することができる。B:到達目標達成のために課題に取り組み、各回の授業で学んだことを概ね理解し年間指導計画を作成することができる。C:到達目標達成を理解して課題に取り組み、年間指導計画を作成することができる。</p>					
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)					
特になし					<p>中学校社会科の免許取得を希望する皆さんは、目指す社会科の教師像を明確に持つとともに、社会科好きの生徒を育成するには、どんな知識、概念や技能を身に付けなければならないかを常に念頭に置いて受講してください。</p>					

科目名	社会科指導法基礎			学年学期	2年後期	単位数	2	ナバリング	研究室	非常勤
担当者	平澤 香			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー		
関連資格	中1種社会				履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>本講義では、中学校社会科がめざす、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うために、中学校の社会科教師として必要な指導法の基礎を身に付けることをねらいとしています。さらに、生徒の主体的な学習を実現するためにどうすればよいのかについて、「適切な課題を設けて行う学習」に焦点を当てながら、実践的に考察します。</p>										
学修到達目標										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科の授業を実践するに当たっての教材開発の方法やICTを含めた教材教具の活用方法を身に付けることができる。</li> <li>・指導案作成や模擬授業を通して、社会科教師として必要な知識や技能を養うことができる。</li> </ul>										
授業の進め方										
<p>本講義では、上高地でのアウトキャンパスで実際に資料の収集を行ったり、教材・教具を開発して指導案を作ったりするなどして模擬授業を行うとともに、学生相互で評価し合うなど、作業的・体験的な活動を多く取り入れて講義を進めます。</p>										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	オリエンテーション - 講義の概要 -				学習指導要領及び3分野の教科書を事前に熟読しておくこと(4時間)				
2	学習指導要領	現行学習指導要領とその解説				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
3	資料の収集と活用(1)	地理的分野の学習資料の収集と活用				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
4	教材教具の利用と開発(1)	地理的分野の教材教具の利用と開発				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
5	模擬授業(1)	地理的分野の授業づくりと模擬授業				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
6	資料の収集と活用(2)	歴史的分野の学習資料の収集と活用				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
7	教材教具の利用と開発(2)	歴史的分野の教材教具の利用と開発				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
8	模擬授業(2)	歴史的分野の授業づくりと模擬授業				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
9	資料の収集と活用(3)	公民的分野の学習資料の収集と活用				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
10	教材教具の利用と開発(3)	公民的分野の教材教具の利用と開発				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
11	模擬授業(3)	公民的分野の授業づくりと模擬授業				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと				
12	新しい社会科学習(1)	国際理解と社会科学習				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
13	新しい社会科学習(2)	情報化と社会科学習				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
14	新しい社会科学習(3)	環境・資源エネルギーと社会科学習				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
15	まとめ	まとめ - 中学校社会科における授業改善の視点				前回授業で渡した資料を事前によく読んで予習しておくこと(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
<p>「中学校学習指導要領解説社会編」文部科学省編(日本文教出版)  「中学校社会科地図」(帝国書院)  「新しい社会 地理」(東京書籍)  他 別途指示します。  「中学生の歴史」(帝国書院)  「中学生の公民」(帝国書院)</p>				<p>受講態度:50% 課題:30% レポート:20%  S:到達目標達成のために進んで課題に取り組み、各回の授業内容をすべて理解し指導案の作成や模擬授業を行うことができる。A:到達目標達成のために課題に取り組み、各回の授業で学んだことを理解し指導案の作成や模擬授業を行うことができる。B:到達目標達成のために課題に取り組み、各回の授業で学んだことを概ね理解し指導案の作成や模擬授業を行うことができる。C:到達目標達成を理解して課題に取り組み、指導案の作成や模擬授業を行うことができる。</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
特になし				<p>自分は社会科の教師としてどのような授業実践を行いたいかを明確にもってください。このため優れた教育者の著作にふれるとともに、恩師や先輩から現在の生徒の実態や社会科の授業の現状について直接話を伺ってください。</p>						



科目名	商業科指導法			学年学期	2・3年前期	単位数	2	ナパリング		研究室	非常勤
担当者	丸山 新吉			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	高1種商業				履修条件	教職課程履修者					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
<b>授業概要</b> わが国の商業教育は、商業学校通則の制定(明治17年)をその始まりとし、経済社会の発展に重要な役割を果たすと共に、国内外の産業界発展に尽力した多くの人材を輩出してきました。その内容は時代とともに急速に変化するものですが、本質を理解し、高等学校教育と専門教育の役割を十分理解した上で、商業教育の実践者としての在り方を考えて貰うことを目的としています。さらに、常に経済社会の変化について認識を深め、新しい教育をめざす教育の実践者としての資質・態度を養ってもらうことを目標とします。											
<b>学修到達目標</b> 商業教育の本質を理解し、その内容を十分理解した上で、教師としての在り方を考えることができる。また、常に新しいビジネス社会の変化について認識を深め、新しい教育をめざす資質・態度を養えるようになる。											
<b>授業の進め方</b> 教室での講義を中心としながらも、実践的な指導力の育成を目標に、できる限り履修者が主体的に学習できるよう、ホームワークを活用して授業を進めます。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	商業教育の必要性和意義	高等学校における商業教育の必要性					テキスト P.7 ~ P.10				
2	商業教育の必要性和意義	商業教育の意義					テキスト P.11 ~ P.14				
3	わが国の商業教育の歩み	新制商業教育の開始まで					テキスト P.15 ~ P.20				
4	わが国の商業教育の歩み	学習指導要領(試案)から平成元年の改訂まで					テキスト P.21 ~ P.29				
5	わが国の商業教育の歩み	学習指導要領 平成11年の改訂					テキスト P.30 ~ P.34				
6	学習指導要領とその理解	教育課程の編成方針					テキスト P.35 ~ P.39				
7	学習指導要領とその理解	教科「商業」の理解					テキスト P.40 ~ P.45				
8	学習指導要領とその理解	「総合的な学習の時間」の理解					テキスト P.46 ~ P.47				
9	各科目の学習内容とそのねらい	ビジネス基礎					テキスト P.48 ~ P.52				
10	各科目の学習内容とそのねらい	マーケティング分野					テキスト P.53 ~ P.64				
11	各科目の学習内容とそのねらい	ビジネス経済分野					テキスト P.65 ~ P.76				
12	各科目の学習内容とそのねらい	会計分野					テキスト P.77 ~ P.93				
13	各科目の学習内容とそのねらい	ビジネス情報分野					テキスト P.94 ~ P.113				
14	各科目の学習内容とそのねらい	総合的科目					テキスト P.114 ~ P.124				
15	まとめ	商業科指導法 で学んだ内容のまとめ					レポートにまとめてもらいます。				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「教職必修 最新商業科教育法 新訂版 平成25年度実施カリキュラム対応」日本商業教育学会編(実教出版) ISBN:987-4-407-32265-1					受講態度:20% 定期試験:80% S:授業内容を90%以上理解して受講態度がきわめて優秀。A:授業内容を80%程度理解して受講態度が優秀。B:授業内容を70%程度理解して受講態度が普通。C:授業内容を60%程度理解して受講態度が普通。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「高等学校学習指導要領解説 商業編」文部科学省著(実教出版) ISBN:978-4-407-32002-2					学習指導要領の変遷は早期にテキストを入手して事前に熟読してください。						

科目名	商業科指導法			学年学期	2・3年後期	単位数	2	ナバリング	研究室	非常勤	
担当者	丸山 新吉			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	高1種商業				履修条件	教職課程履修者					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
<p>学習指導は学校における教育活動の中心であり、これを確実に行うことが教師の任務です。商業科指導法の内容を受けて、年間指導計画と学習指導案(授業指導案)の作成を実際に行い、生徒として経験した内容も参考にしながら指導方法を検討し、受講者全員が模擬授業(50分)を行います。その際に授業担当以外の学生は、生徒として授業を受けながら評価をしてもらいます。教育の現場において、生徒が自ら学ぶための指導・援助が実践できる指導者の育成を目標とします。</p>											
学修到達目標											
<p>年間指導計画と学習指導案を実際に作成し、模擬授業(50分)を実際におこなって、相互に評価することができる。教育の現場において、生徒が自ら学ぶための指導・援助が実践できる指導者となる。</p>											
授業の進め方											
<p>教育実習を視野に入れた実践的な指導力の育成を目標に、できる限り履修者が主体的に学習できるよう、ホームワークを活用して授業を進めます。</p>											
<p>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</p>											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	指導計画と授業展開	教育課程と学習指導					テキスト P.125 ~ P.127				
2	指導計画と授業展開	指導計画					テキスト P.127 ~ P.128				
3	指導計画と授業展開	指導形態と指導方法					テキスト P.129 ~ P.132				
4	指導計画と授業展開	年間指導計画作成の実際					テキスト P.133 ~ P.135				
5	指導計画と授業展開	学習指導案作成の実際					テキスト P.136 ~ P.142				
6	指導計画と授業展開	プレゼンテーションと授業					テキスト P.143 ~ P.147				
7	商業教育と人間形成	商業教育を通じて育成したい生徒像					テキスト P.148 ~ P.149				
8	商業教育と人間形成	商業教育と特別活動					テキスト P.150 ~ P.155				
9	商業教育と人間形成	商業教育と生徒指導					テキスト P.156 ~ P.158				
10	商業教育と人間形成	商業教育と進路指導・キャリア教育					テキスト P.159 ~ P.163				
11	模擬授業と授業観察	模擬授業(50分)と授業観察 Aグループ					学習指導案作成と模擬授業整理				
12	模擬授業と授業観察	模擬授業(50分)と授業観察 Bグループ					学習指導案作成と模擬授業整理				
13	模擬授業と授業観察	模擬授業(50分)と授業観察 Cグループ					学習指導案作成と模擬授業整理				
14	商業科教師への期待	新しい時代における教師の在り方 ほか					テキスト P.164 ~ P.173				
15	まとめ	商業科指導法 で学んだ内容のまとめ					レポートにまとめてもらいます。				
テキスト					成績評価の方法・基準						
<p>「教職必修 最新商業科教育法 新訂版 平成25年度実施カリキュラム対応」日本商業教育学会編(実教出版) ISBN:987-4-407-32265-1</p>					<p>定期試験:50% 課題:50%                  課題は「模擬授業実習(50分)」であり、受講者全員一回は行う。                  S:授業内容を90%以上理解して課題を高度に実施できる。A:授業内容を80%程度理解して課題を高度に実施できる。B:授業内容を70%程度理解して課題を普通に実施できる。C:授業内容を60%程度理解して課題を普通に実施できる。</p>						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
<p>「高等学校学習指導要領解説 商業編」文部科学省著実教出版編 ISBN:978-4-407-32002-2</p>					<p>模擬授業で教える内容について、専門知識の習得をお願いします。また、板書時に誤字・筆順間違い等が無いように予習しておいて下さい。</p>						

科目名	情報科指導法		学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	W-31
担当者	室谷 心		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日3限		
関連資格	高1種情報			履修条件		教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
この授業は高校で「情報」を教える教師を目指す人のための科目です。高校の科目としての「情報」は何を目指すのか、また、どうすればそれを実際の授業で実現できるのか。将来皆さんが高校の「情報」の教師として、何をどんな風に教えていけばよいのか、それを考察することがこの授業の目的です。										
学修到達目標										
自ら授業計画をたて、目指す授業の指導案が書けるようになる。										
授業の進め方										
講義と課題の発表により、授業を進めます。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	理想の情報教育とは	今までに自分が受けてきた情報教育をふり返し、情報教育の理想とは何かを考えます。				他の人の考えと、自分の考えの比較検討を行い、「情報教育」の目指すものを考える。(4時間)				
2	指導要領を読む	高等学校学習指導要領をよみ、文部科学省の目指す情報教育を理解する。				学習指導要領に書かれていることと、自分の理想との比較検討を十分に行う。(4時間)				
3	情報倫理	ネット上のさまざまなトラブルを考え、ネット社会での正しい態度「情報倫理」をどう教えるかを考える。				ネット上、ネット外。社会の構成員としての態度の同異を検討する。(4時間)				
4	情報検索	情報源として、「図書館 vs インターネット」どのような使い分けを指導するか考える。				自分の周りの情報をフロー型とストック型の視点で分けて、得手不得手を考える。(4時間)				
5	エントロピーと情報量	マルチメディアデータのデータサイズを考え、インフラストラクチャーの整備とマルチメディアデータの普及のや利用の関係を考える。				自分の携帯に入っている音楽や動画のファイルサイズを実際に計算してみる。(4時間)				
6	タイピング練習	コンピュータへのデータ入力法をいかに身につけさせるかを考える。タイピング、マウス、音声入力などいろいろな入力方法の使い分けをどう教えるかを考える。				音声入力やジェスチャー入力を試してみる。(4時間)				
7	ワープロ入門	高校生が身につけるべきワープロ技法を考える。キー入力教育ではなくワープロ技法である。				生徒の手本となる書類を自分で作成してみる。(4時間)				
8	スプレッドシート	ビジネスアプリで最も役立つといわれる表計算ソフト、高校生が身につけるべき表計算ソフトの技法を考える。				表計算ソフトの技法について自分仕様のミニマムセットを作ってみる。(4時間)				
9	ヴァーチャル世界	教育におけるヴァーチャル世界の功罪を考えてみよう。				自分の子供の頃と、これからの子供を取り巻く世界の違いをまとめてみる。(4時間)				
10	プログラミング教育	コンピュータを自由にコントロールする楽しさをどう伝えるか。				並べ替えアルゴリズムを自分で実行できるように練習する。(4時間)				
11	情報発信	誰もが情報の発信者となる WEB2.0の世界、情報発信手段としてのホームページとアクセシビリティを考える。				身近なページのアクセシビリティをチェックしてみる。(4時間)				
12	プレゼン入門	プレゼンテーションの教え方のプレゼンテーション?				分かりやすいプレゼン技法を纏める。(4時間)				
13	指導要領をもう一度	いろいろ学んだうえで、高等学校学習指導要領をもう一度よみ、文部科学省の目指すところをもう一度考える。				指導要領の良くできている点、足りない点をリストアップする。(4時間)				
14	理想の情報教育とは	あらためて、これからの情報教育の理想を考える。				自分なりの高等学校「情報」のプランを組んでみる。(4時間)				
15	まとめ	各自が考えてきた、高等学校「情報」のプランを比較検討する。				他の人のプランの比較を踏まえて、自分の「高等学校情報」のプランをより良くする。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「高等学校学習指導要領解説情報編」文部科学省編(開隆館出版販売)				定期試験:60% 課題:40% 課題とは、授業中の議論への参加の割合とレポートです。 S:教科書の任意の範囲について、発展的な指導計画を立てることができる。 A:自ら選んだ範囲について、発展的な指導計画を立てることができる。 B:自ら選んだ範囲について、標準的な指導計画を立てることができる。 C:自ら選んだ範囲について、指導計画を立てることができる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
なし				人に教えるには、まず自分がよく理解している必要があります。情報関連の授業をたくさん取り、いろいろな知識を身につけましょう。						

科目名	情報科指導法			学年学期	3年後期	単位数	2	ナバリング	研究室	W-31
担当者	室谷 心			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日3限	
関連資格	高1種情報				履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
この授業は高校で「情報」という科目を教える教師を目指す人のための科目です。指導法では高等学校での「情報」の授業の組み立てを実際にできるようになります。「情報科指導法1」での考察を生かし、理想の授業を目指して実際に授業をやってみましょう。お互いの授業を検討し、より良い授業の構成を考えていきます。										
学修到達目標										
指導案を作りそれに沿った授業ができるようになる。 自らの行った(模擬)授業を振り返り、次の授業の改善につなげられるようになる。										
授業の進め方										
受講学生で順番に教師役と生徒役を務め、典型的な題材について模擬授業を行い、人に説明することの難しさと、情報教育の要点の理解を目指します。										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	ガイダンスと班分け				情報科指導法1で修得した指導案の作り方を復習し、模擬授業のテーマを考えておく。(4時間)				
2	テーマ選定	各自が行う模擬授業のテーマを選定します。全体として偏りがないように調整します。				希望する模擬授業のテーマを考えておく。決まったテーマについて準備を始める。(4時間)				
3	指導案の作成法	情報科指導法1で修得した事を思い出しながら、指導案の作成法と、教材準備について考える。				情報科指導法1の内容を良く復習する。指導案を作ってみる。(4時間)				
4	教材準備	情報科指導法1で修得した事を思い出しながら、指導案の作成法と、教材準備について各人の準備状況を発表し比較討論を行う。				授業での議論を踏まえて指導案を修正し、補助教材の準備を行う。(4時間)				
5	模擬授業1の準備	利用する補助教材を確定し、模擬授業1のための指導案を仕上げる。				指導案に沿って授業の練習をする。(4時間)				
6	模擬授業1	模擬授業1を行う。他の学生は生徒役を演じる。				教師役も生徒役も授業内容の内容の評価を行う。(4時間)				
7	模擬授業1の評価と反省	模擬授業1に対する評価と反省を議論する。				議論した評価と反省を各自まとめる。(4時間)				
8	指導案の作成2	模擬授業1の反省を踏まえて、模擬授業2のための指導案の作成を行う。				模擬授業2の指導案を完成させておく。(4時間)				
9	模擬授業2	模擬授業2を行う。他の学生は生徒役を演じる。				教師役も生徒役も授業内容の内容の評価を行う。(4時間)				
10	模擬授業2に対する評価と反省	模擬授業2に対する評価と反省を議論する。				議論した評価と反省を各自まとめる。(4時間)				
11	高校の授業視察	高校の授業視察並びにそれに対する考察。特に自分たちの模擬授業との比較検討を行う。				プロの教師の授業を見て学んだことをまとめる。(4時間)				
12	模擬授業3・4の準備	今までの模擬授業と、実際の高校を授業見学した経験を反映させて、模擬授業3・4の準備を行う。				模擬授業3の練習を十分に行う。(4時間)				
13	模擬授業3とその評価	模擬授業3を行いその評価と反省を議論する。				議論した評価と反省を各自まとめる。模擬授業4の練習を十分に行う。(4時間)				
14	模擬授業4とその評価	模擬授業4を行いその評価と反省を議論する。				模擬授業についての反省を纏めておく。(4時間)				
15	全体の総括	各自、模擬授業についてのまとめを発表し討論する。				授業についての検討を深める。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「高等学校学習指導要領解説情報編」文部科学省編(開隆館出版販売)				課題:50% 定期試験:50% 課題とは模擬授業およびその前後の議論への参加度のことで、S:教科書の任意の範囲について、発展的な指導計画を立て、それに沿った授業を行うことができる。 A:自ら選んだ範囲について、発展的な指導計画を立て、それに沿った授業を行うことができる。 B:自ら選んだ範囲について、標準的な指導計画を立て、それに沿った授業を行うことができる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
なし				模擬授業に先立って指導案の作成があり、模擬授業の後お互いの授業について論評しあいます。教師役でない学生も授業の準備を行い、自分の授業計画と担当者の模擬授業との違いを考えてみましょう。						

科目名	保健体育科指導法		学年学期	3年前期	単位数	2	ナパリング	研究室	S-13
担当者	岩間 英明		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限	
関連資格	レ・コ・デ・イーター教育コース、中1種保体、高1種保体				履修条件	教職課程履修者			
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
		A	B	C					
授業概要									
本講義は中学校および高等学校学習指導要領に基づいた、教材づくり、教材研究、カリキュラム構成、授業展開の仕方、評価についての根本的な考え方と評価方法の具体的理解など、中学校および高等学校における体育授業に必要な基礎的な知識や基本的事項について模擬授業を通して学び、体育教師としての実践的指導力の獲得を目的としています。模擬授業では教師役、生徒役それぞれの立場からその授業についての検討し、課題を見つけ出し、解決策を考えたりして、よりよい体育授業を追究していきます。									
学修到達目標									
自分たちで想定した年間計画に基づき、指定された領域の単元計画、評価計画を立て、そのうちの1単位時間の指導案を作成し、模擬授業を実施できるようになることが目標です。そのため、学習指導要領や多様な教授法など、教科指導に関する内容を総合的に理解し、指導案作成、模擬授業とも学校現場で実際に行われるレベルにどれくらい近づけられるかがねらいとなります。									
授業の進め方									
講義は模擬講義を中心にを行います。受講者の人数によりTTによる指導とする場合もありますが、全員が1回以上、模擬授業で教師役を経験し、授業後に検討会を行います。また毎時間、授業についての感想・意見をレポートにまとめ提出することとします。									
授業計画（各回のテーマ等） 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	ガイダンス	ガイダンスとして講義計画・学習展開について確認します。また、保健体育科指導法基礎で学習した単元構想、評価、指導案等の基本的考え方や作成方法の確認をします。				事前にシラバスを読み、保体科指導法基礎の内容を復習しておくこと。（4時間）			
2	授業を創る手順の確認	授業を創り出すための知識や必要事項の内容について、さらに理解を深めます。また、授業づくりのための資料や実践事例などに基づき、学校現場レベルの授業について考えます。				学習指導要領を再読し、自分の担当領域について十分理解しておくこと。（4時間）			
3	模擬授業(体づくり運動)	「体づくり運動」の模擬授業を行います。領域の内容の「体ほぐしの運動」と「体力を高めるための運動」のバランスを考え、1時間の授業を構成します。				学習指導要領の体づくり運動について予習し、授業後に課題をレポートにまとめます。（4時間）			
4	模擬授業(器械運動)	「器械運動」の模擬授業を行います。領域の内容の4つの種目のうち一つの種目について、個に応じた学習課題の持たせ方や指導方法、安全配慮などを中心に1時間の授業を構成します。				学習指導要領の器械運動について予習し、授業後に課題をレポートにまとめます。（4時間）			
5	模擬授業(陸上競技)	「陸上競技」の模擬授業を行います。領域内容の各種目から一つの種目を選び、個に応じた学習課題の持たせ方や指導方法、安全配慮などを中心に1時間の授業を構成します。				学習指導要領の陸上競技について予習し、授業後に課題をレポートにまとめます。（4時間）			
6	模擬授業(球技 ゴール型)	「球技 ゴール型」の模擬授業を行います。領域内容のバスケットボール、サッカー、ハンドボールから一つ選び、チームや個人の課題の持たせ方、個人・集団技能の指導方法を考え、授業を構成します。				学習指導要領の当該領域について理解をして、授業後に課題をレポートにまとめます。（4時間）			
7	模擬授業(球技 ネット型)	「球技 ネット型」の模擬授業を行います。領域内容のバレーボール、テニス、パドミントン、卓球から一つ選び、チームや個人の課題の持たせ方、個人・集団技能の指導方法を考え、授業を構成します。				学習指導要領の当該領域について理解をして、授業後に課題をレポートにまとめます。（4時間）			
8	模擬授業(球技 ベースボール型)	「球技 ベースボール型」の模擬授業を行います。領域内容のソフトボールについて、チームや個人の課題の持たせ方、個人・集団技能の指導方法、個人差の考慮などを考え、授業を構成します。				学習指導要領の当該領域について理解をして、授業後に課題をレポートにまとめます。（4時間）			
9	模擬授業(武道 剣道)	「武道」の模擬授業を行います。領域内容の3種目のうち、今回は学習条件を考慮して剣道を選択して、礼法や武道の特性、個人技能の指導方法などを中心に授業を構成します。				学習指導要領の当該領域について理解をして、授業後に課題をレポートにまとめます。（4時間）			
10	模擬授業(ダンス)	「ダンス」の模擬授業を行います。領域の内容の3つのダンスから一つを選択し、ダンスの特性にあった指導の仕方を考えて1時間の授業を構成します。				学習指導要領の当該領域について理解をして、授業後に課題をレポートにまとめます。（4時間）			
11	模擬授業(体育理論 中学校)	「体育理論」の模擬授業を行います。中学校の領域内容の3つから、一つを選択して、資料の活用やディスカッションなどを取り入れた課題学習などを中心に1時間の授業を構成します。				学習指導要領の当該領域について理解をして、授業後に課題をレポートにまとめます。（4時間）			
12	模擬授業(体育理論 高等学校)	「体育理論」の模擬授業を行います。高等学校の領域内容の3つから、一つを選択して、高校生にふさわしい資料の活用やディスカッションなどを取り入れた課題学習などを中心に1時間の授業を構成します。				学習指導要領の当該領域について理解をして、授業後に課題をレポートにまとめます。（4時間）			
13	模擬授業(選択制授業 領域内選択)	「選択制授業」の模擬授業を行います。器械運動の領域内選択とし、4種目のうちから複数種目を設定して、生徒に選択させた授業を行い、選択制授業の特徴と指導方法を考えた授業構成をします。				学習指導要領の当該領域について理解をして、授業後に課題をレポートにまとめます。（4時間）			
14	模擬授業のまとめ(1)	模擬授業全体を通して、単元計画、評価計画、指導案作成、教材研究、資料づくりなど、授業の事前の準備を中心に振り返り、課題やその解決方法についてまとめます。				全ての模擬授業のレポートを読み直し、授業の見方や評価についてレポートにまとめます。（4時間）			
15	模擬授業のまとめ(2)	模擬授業全体を通して、授業中の生徒への指示、指導方法、安全配慮、学習規律など、授業における生徒への対応を中心に振り返り、課題やその解決方法についてまとめます。				全ての模擬授業のレポートを読み直し、生徒の対応の仕方についてレポートにまとめます。（4時間）			
テキスト					成績評価の方法・基準				
「中学校学習指導要領解説 - 保健体育編 -」文部科学省編（東山書房） ISBN: 9784827814637（生協で購入してください。） 「高等学校学習指導要領解説 - 保健体育編 -」文部科学省編（東山書房） ISBN: 9784827814811（生協で購入してください。）					定期試験：50％ レポート：20％ 指導案、模擬授業の状況などを30％として総合的に評価していきます。Sは定期試験9割以上、模擬授業の指導案及び教授態度が現場で通用するレベル、レポートは適切な視点での授業評価ができた場合です。以下Aは定期試験8割以上で、模擬授業の指導案ならびに授業、レポートの授業評価が概ね良好な状況の場合。Bは定期試験7割以上、スムーズな模擬授業、自分なりの授業評価ができた場合。Cは定期試験6割以上、模擬授業は指導案、授業が形式通りに成立できた場合とします。				
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）				
「保健体育科教育法」杉山重利 他 編（大修館書店） ISBN：978-4-469-26692-4					体育授業における様々な課題を総合的に捉え、指導案の作成力ならびに授業の展開力を身につけていくための講義です。主体的な学習態度と十分な準備が必要になります。				

科目名	保健体育科指導法			学年学期	2年後期	単位数	2	ナパリング	研究室	S-13	
担当者	岩間 英明			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限		
関連資格	中1種保体、高1種保体			履修条件		教職課程履修者					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
<p>本講義は中学校および高等学校学習指導要領に基づいた、教材づくり、教材研究、カリキュラム構成、授業展開の仕方、評価についての根本的な考え方と評価方法の具体的理解など、中学校および高等学校における保健授業に必要な基礎的な知識や基本的事項について模擬授業を通して学び、体育教師としての実践的指導力の獲得を目的としています。模擬授業では教師役、生徒役それぞれの立場からその授業についての検討し、課題を見つけ出し、解決策を考えたりして、より良い保健授業を追究していきます。</p>											
学修到達目標											
<p>自分たちで想定した年間計画に基づき、指定された領域の単元計画、評価計画を立て、そのうちの1単位時間の指導案を作成し、模擬授業を実施することが目標です。基本的に指導案作成、模擬授業とも学校現場で実際に行われるレベルを要求しており、学生にとってはかなり厳しい要求水準となるため、学習指導要領や多様な教授法など、教科指導について総合的に理解することが必要です。</p>											
授業の進め方											
<p>講義は模擬講義を中心にを行います。受講者の人数によりTTによる指導とする場合もありますが、全員が1回以上、模擬授業で教師役を経験し、授業後に検討会を行います。また毎時間、授業についての感想・意見をレポートにまとめ提出することとします。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容				事前事後学修					
1	ガイダンス	ガイダンスとして講義計画・学習展開について確認します。また、保健体育科指導法基礎で学習した単元構想、評価、指導案等の基本的考え方や作成方法の確認をします。				事前にシラバスを読んでくる。保体科指導法基礎の内容について再確認する。(4時間)					
2	授業を創る手順の確認	授業を創り出すための知識や必要事項の内容について、さらに理解を深めます。また、授業づくりのための資料や実践事例などに基づき、学校現場レベルの授業について考えます。				学習指導要領を再読し、担当領域について理解を深め、単元構想を練る。(4時間)					
3	模擬授業(心身の機能の発達と心の健康 1)	「心身の機能の発達と心の健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)					
4	模擬授業(健康と環境)	「健康と環境」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)					
5	模擬授業(傷害の防止 1)	「傷害の防止」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)					
6	模擬授業(健康な生活と疾病の予防)	「健康な生活と疾病の予防」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)					
7	模擬授業(現代社会と健康 1)	「現代社会と健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)					
8	模擬授業(生涯を通じる健康 1)	「生涯を通じる健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)					
9	模擬授業(社会生活と健康 1)	「社会生活と健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)					
10	模擬授業(心身の機能の発達と心の健康 2)	「心身の機能の発達と心の健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、ブレインストーミングやロールプレイング、実習や実験など多様な指導方法を工夫して1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)					
11	模擬授業(傷害の防止 2)	「傷害の防止」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、ブレインストーミングやロールプレイング、実習や実験など多様な指導方法を工夫して1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)					
12	模擬授業(現代社会と健康 2)	「現代社会と健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、ブレインストーミングやロールプレイング、実習や実験など多様な指導方法を工夫して1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)					
13	模擬授業(生涯を通じる健康 2)	「生涯を通じる健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、ブレインストーミングやロールプレイング、実習や実験など多様な指導方法を工夫して1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)					
14	模擬授業(社会生活と健康 2)	「社会生活と健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、ブレインストーミングやロールプレイング、実習や実験など多様な指導方法を工夫して1時間の授業を構成します。				学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)					
15	模擬授業のまとめ	模擬授業全体を通して、教材づくり、指導案などの授業の事前準備や、生徒への指示、指導方法など、授業における生徒への対応について振り返り、課題やその解決方法についてまとめます。				これまでの模擬授業のレポートを読み直し、課題とその解決方法をレポートにまとめる。(4時間)					
テキスト				成績評価の方法・基準							
<p>「中学校学習指導要領解説 - 保健体育編 -」文部科学省編編(東山書房) ISBN: 9784827814637 (生協で購入してください。)</p> <p>「高等学校学習指導要領解説 - 保健体育編 -」文部科学省編編(東山書房) ISBN: 9784827814811 (生協で購入してください。)</p>				<p>定期試験: 50% レポート: 20%</p> <p>指導案、模擬授業の状況などを30%として総合的に評価していきます。Sは定期試験9割以上、模擬授業の指導案及び教授態度が現場で通用するレベル、レポートは適切な視点での授業評価ができた場合です。以下Aは定期試験8割以上で、模擬授業の指導案ならびに授業、レポートの授業評価が概ね良好な状況の場合。Bは定期試験7割以上、スムーズな模擬授業、自分なりの授業評価ができた場合。Cは定期試験6割以上、模擬授業は指導案、授業が形式通りに成立できた場合とします。</p>							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
<p>「中学校、高等学校 保健体育 教科書」一般書店では購入できないので、希望者は申し出てください。</p>				<p>保健授業における様々な課題を総合的に捉え、指導案の作成力ならびに授業の展開力を身につけていくための講義です。できるだけ多くの資料を収集、準備をして講義ならびに模擬授業に取り組んでください。</p>							

科目名	保健体育科指導法基礎			学年学期	2年後期	単位数	2	ナパ`リ`ン`グ	研究室	S-13	
担当者	岩間 英明			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日5限		
関連資格	中1種保体、高1種保体					履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
本講義は中学校および高等学校学習指導要領に基づいた、教材づくり、教材研究、カリキュラム構成、授業展開の仕方、評価についての根本的な考え方と評価方法の具体的理解など、中学校および高等学校における体育授業に必要な基礎的な知識や基本的事項について学習し、保健体育科の教師を目指す上で必要な能力やスキルの獲得を目的としています。自分のこれまでの経験を生かして、学習者としての子どもにとって『よい体育授業』とはどのようなものなのかを追究しながら、体育教育の価値や意味を問い直していきます。											
学習到達目標											
体育学習を展開していく上で必要な基礎的な知識と基本となる事項を理解して、年間計画、単元構想、評価計画などを実際に作成できる力を身につけ、最終的には体育の授業細案を書けるようにすることが目標です。また併せて、体育の教材である各スポーツ種目について、その技術やルール、指導方法などについての理解も目指します。											
授業の進め方											
指導案の各項目を中心に毎回の講義ではテーマを決め、体育授業を展開していく上で必要となる基礎的な知識を学習するとともに、実際に指導案を作成する上で起こりやすい課題や、体育授業を実施する際に問題となる点について追究して、学習を深めていきます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	講義計画・展開及び評価方法等の確認をします。また、最近の体育科教育に関する話題を採り上げながら、体育の授業の特徴と体育教員の資質や役割と責務について考えていきます。					事前にシラバスを読んでくる。授業後、体育科教育の諸問題についてレポートにまとめる。(2時間)				
2	保健体育科の教科および体育分野・科目体育の目標	学習指導要領に基づき体育の教科目標について学習します。特に昨今、体育では何を問われているかを考え、子どもの立場から体育の教科としての意味をとらえ直します。					事前に学習指導要領の関係項目を読む。授業後、体育の教科目標の背景についてまとめる。(2時間)				
3	保健体育科の教科の内容(1)	学習指導要領に基づき体育の教科内容について学習します。各運動種目の区分やその指導内容について、自らの経験に照らし合わせながら考えていきます。(内容項目A~C)					事前に学習指導要領の関係項目を読む。授業後、項目A~Cの指導内容についてまとめる。(5時間)				
4	保健体育科の教科の内容(2)	学習指導要領に基づき体育の教科内容について学習します。各運動種目の区分やその指導内容について、自らの経験に照らし合わせながら考えていきます。(内容項目D~E)					事前に学習指導要領の関係項目を読む。授業後、項目D~Eの指導内容についてまとめる。(5時間)				
5	保健体育科の教科の内容(3)	学習指導要領に基づき体育の教科内容について学習します。各運動種目の区分やその指導内容について、自らの経験に照らし合わせながら考えていきます。(内容項目F~H)					事前に学習指導要領の関係項目を読む。授業後、項目F~Hの指導内容についてまとめる。(5時間)				
6	指導計画の作成と内容の取り扱い(1)	体育のカリキュラム構成について、小学校から高等学校までの12年間の学習を踏まえた年間計画の作成と、内容の取り扱いについて学習します。					事前に学習指導要領の関係項目を読む。授業後、例題に沿って年間指導計画を作成する。(4時間)				
7	指導計画の作成と内容の取り扱い(2)	スコープ(内容構成)とシーケンス(展開構成)の2つの視点から、体育の単元構想について学習します。また、単位時間の指導案の形式的な理解をします。					事前に学習指導要領の関係項目を読む。授業後、例題に沿って単元構想案を作成する。(4時間)				
8	指導計画の作成と内容の取り扱い(3)	体育授業の学習方法(A型・B型学習、スパイラル型・ステージ型学習)について学び、単位時間の指導案作成について学習します。					事前に学習指導要領の関係項目を読む。授業後、例題に沿って授業指導案を作成します。(4時間)				
9	学習評価の目的と方法(1)	国立教育政策研究所の示した資料に基づき、体育学習の学習評価について、指導と評価の関係や観点別学習状況評価など、評価についての基本的な考え方を学習します。					事前に資料を読む。授業のまとめとして評価補助簿を作成してみる。(4時間)				
10	学習評価の目的と方法(2)	国立教育政策研究所の示した資料に基づき、体育学習の学習評価の設定について、具体的に学習活動に即した評価規準の作成の仕方を学習します。					事前に資料を読む。授業のまとめとして評価補助簿を作成してみる。(4時間)				
11	指導案作成(1)	スポーツ種目の特性や生徒の実態のとらえ方、それまでの既習内容を踏まえた教材化(教材作成)の仕方、単元の目標や展開の仕方など、これまでの学習を総合的にとらえ、具体的な単元構想を立てます。					単元構想についてこれまでの復習をしておき、授業後、課題に即した単元構想を立てる。(5時間)				
12	指導案作成(2)	これまで学習してきた評価の基本的考え方や評価の仕方を生かし、前時に作成した単元構想に合わせた評価計画を立てます。					評価についてこれまでの復習をしておき、授業後、課題に即した評価計画を立てる。(5時間)				
13	指導案作成(3)	前時まで作成した単元構想の中から任意の1時間を選び、単元の展開に応じた学習方法に基づき、本時の目標と展開を作成します。					学習方法についてこれまでの復習をしておき、授業後、課題の即した本時案を作成する。(5時間)				
14	指導案作成(4)	これまで一人一人が作成してきた指導案全体について、グループごとに意見交換や見直しを行い、それぞれの良い点や課題を見つけ出します。					事前に自分の指導案を完成させておく。授業後、指摘をされた部分の修正をおこなう。(5時間)				
15	講義全体のまとめ	体育授業を創るということについて、基本的な考え方から実際の指導案作成までを振り返ります。また、体育授業以外の部活動運営や体育的行事についても考えていきます。					これまでの学習を振り返り、体育授業を創り出すということの意味や方法をまとめる。(2時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校保健体育】」 ISBN:78-4-316-30051-1 生協で購入				定期試験:60% レポート:40%							
「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校保健体育】」 ISBN:978-4-316-30066-5 生協で購入				ここで示しているレポートには、指導計画、指導案、評価案など、授業づくりに関わるものを中心に、授業のまとめなど全てを含みます。Sの評価規準は定期試験9割以上で、レポートの内容が実際の授業で通用するレベルの場合です。Aは試験8割以上、レポートの内容・形式ともに概ね良好の場合です。Bは試験7割以上、レポートは内容が指導要領に適合しており、形式が整えられている場合です。Cは試験6割以上、レポートは形式が整えられているものです。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「保健体育教育法」杉山重利 他編(大修館書店) ISBN:978-4-469-26692-4				指導案作成だけに留まらず、体育の授業とは何かという根源的な問いに対する自分なりの答えを見つけてください。そのためには主体的な学習態度と準備が必要です。学習指導要領は確実に理解して講義に臨んでください。							

科目名	保健体育科指導法基礎			学年学期	2年前期	単位数	2	ナパ'リング	研究室	S-13	
担当者	岩間 英明			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日5限		
関連資格	中1種保体、高1種保体					履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C							
授業概要											
本講義は中学校および高等学校学習指導要領に基づいた、教材づくり、教材研究、カリキュラム構成、授業展開の仕方、評価についての根本的な考え方と評価方法の具体的理解など、中学校および高等学校における保健授業に必要な基礎的な知識や基本的事項について学習し、保健体育科の教師を目指す上で必要な能力やスキルの獲得を目的としています。自分のこれまでの経験を生かして、学習者としての子どもにとって『よい保健授業』とはどのようなものなのかを追究しながら、保健教育の価値や意味を問い直していきます。											
学修到達目標											
保健学習を展開していく上で必要な基礎的な知識と基本となる事項を理解して、年間計画、単元構想、評価計画などを実際に作成できる力を身につけ、最終的には保健の授業細案を書けるようにすることが目標です。また併せて、保健の教材である健康に関する各内容についての理解も深めていきます。											
授業の進め方											
指導案の各項目を中心に毎回の講義ではテーマを決め、保健授業を展開していく上で必要となる基本的な知識を学習するとともに、実際に指導案を作成する上で起こりやすい課題や、保健授業を実施する際に問題となる点について追究していきます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	講義計画・展開及び評価方法等の確認をします。また、最近の保健教育に関する話題を採り上げながら、保健の授業の特徴と体育教員の資質や役割と責務について考えていきます。					事前にシラバスを読んでくる。保健教育の諸問題についてまとめてみる。(2時間)				
2	保健体育科の教科および保健分野・科目保健の目標	学習指導要領に基づき保健の教科目標について学習します。特に昨今、保健教育では何を問われているかを考え、子どもの立場から保健の教科としての意味をとらえ直します。					事前に学習指導要領の関係項目を読む。保健教育の目標についてまとめる。(2時間)				
3	保健体育科の教科の内容(1)	学習指導要領に基づき保健の教科内容について学習します。「心身の機能の発達」「健康と環境」「傷害の防止」の指導内容について、自らの経験に照らし合わせながら考えていきます。					事前に学習指導要領の関係項目を読む。該当項目の指導内容についてまとめる。(5時間)				
4	保健体育科の教科の内容(2)	学習指導要領に基づき体育の教科内容について学習します。「健康な生活と疾病の予防」「現代社会と健康」の指導内容について、自らの経験に照らし合わせながら考えていきます。					事前に学習指導要領の関係項目を読む。該当項目の指導内容についてまとめる。(5時間)				
5	保健体育科の教科の内容(3)	学習指導要領に基づき体育の教科内容について学習します。「生涯を通じる健康」「社会生活と健康」の指導内容について、自らの経験に照らし合わせながら考えていきます。					事前に学習指導要領の関係項目を読む。該当項目の指導内容についてまとめる。(5時間)				
6	指導計画の作成と内容の取り扱い(1)	保健のカリキュラム構成について、小学校から高等学校までの12年間の学習を踏まえた年間計画の作成と、内容の取り扱いについて学習します。					事前に学習指導要領の関係項目を読む。例題に沿って年間指導計画を作成します。(4時間)				
7	指導計画の作成と内容の取り扱い(2)	スコープ(内容構成)とシーケンス(展開構成)の2つの視点から、保健の単元構想について学習します。また、単位時間の指導案の形式的な理解をします。					事前に学習指導要領の関係項目を読む。例題に沿って単元構想案を作成します。(4時間)				
8	指導計画の作成と内容の取り扱い(3)	保健授業の多様な学習方法(実習や実験、課題学習、養護教諭や栄養教諭などの専門性を有する教職員の参加)について学び、単位時間の指導案作成について学習します。					事前に学習指導要領の関係項目を読む。例題に沿って単位時間の指導案を作成します。(4時間)				
9	学習評価の目的と方法(1)	国立教育政策研究所の示した資料に基づき、保健学習の学習評価について、指導と評価の関係や観点別学習状況評価など、評価についての基本的な考え方を学習します。					事前に資料を読む。授業のまとめとして評価計画を作成してみる。(4時間)				
10	学習評価の目的と方法(2)	国立教育政策研究所の示した資料に基づき、保健学習の学習評価の設定について、具体的に学習活動に即した評価規準の作成の仕方を学習します。					事前に資料を読む。授業のまとめとして評価補助簿を作成してみる。(4時間)				
11	指導案作成(1)	生徒の実態のとらえ方、それまでの既習内容を踏まえた教材化(教材作成)の仕方、単元の目標や展開の仕方など、これまでの学習を総合的にとらえ、具体的な単元構想を立てます。					単元構想についてこれまでの復習をしており、課題に即した単元構想を立てる。(5時間)				
12	指導案作成(2)	これまで学習してきた評価の基本的考え方や評価の仕方を生かし、前時に作成した単元構想に合わせた評価計画を立てます。					評価についてこれまでの復習をしており、課題に即した評価計画を立てる。(5時間)				
13	指導案作成(3)	前時まで作成した単元構想の中から任意の1時間を選び、単元の展開に応じた学習方法に基づき、本時の目標と展開を作成します。					学習方法についてこれまでの復習をしており、課題の即した本時案を作成する。(5時間)				
14	指導案作成(4)	これまで一人一人が作成してきた指導案全体について、グループごとに意見交換や見直しを行い、それぞれの良い点や課題を見つけ出します。					事前に自分の指導案を完成させておく。指摘をされた部分の修正をおこなう。(5時間)				
15	講義全体のまとめ	保健の授業を創るということについて、基本的な考え方から実際の指導案作成までを振り返ります。また、保健の授業以外の健康教育や特別活動についても考えていきます。					これまでの学習を振り返り、保健の授業を創り出すということの意味や方法をまとめる。(2時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校保健体育】」 ISBN:978-4-316-30051-1 生協で購入 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校保健体育】」 ISBN:978-4-316-30066-5 生協で購入				定期試験：60% レポート：40% ここで示しているレポートには、指導計画、指導案、評価案など、授業づくりに関わるものを中心に、授業のまとめなど全てを含みます。Sの評価規準は定期試験9割以上で、レポートの内容が実際の授業で通用するレベルの場合です。Aは試験8割以上、レポートの内容・形式ともに概ね良好の場合です。Bは試験7割以上、レポートは内容が指導要領に適合しており、形式が整えられている場合です。Cは試験6割以上、レポートは形式が整えられているものです。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「中学、高等学校 保健体育 教科書」 一般書店では購入できないので、希望者は申し出てください。 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説保健				指導案作成だけに留まらず、保健の授業を行う意味について問い直してください。そのためには主体的な学習態度と準備が必要です。学習指導要領は確実に理解して講義に臨んでください。							



科目名	保健科指導法		学年学期	2年後期	単位数	2	ナパリング	研究室	S-13
担当者	岩間 英明		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日5限	
関連資格	中1種保健、高1種保健				履修条件	教職課程履修者			
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
		A	B	C					
授業概要									
本講義は中学校および高等学校学習指導要領に基づいた、教材づくり、教材研究、カリキュラム構成、授業展開の仕方、評価についての根本的な考え方と評価方法の具体的理解など、中学校および高等学校における保健授業に必要な基礎的な知識や基本的事項について模擬授業を通して学び、養護教諭としての実践的指導力の獲得を目的としています。模擬授業では教師役、生徒役それぞれの立場からその授業についての検討し、課題を見つけ出したり、解決策を考えたりして、より良い保健授業を追究していきます。									
学修到達目標									
自分たちで想定した年間計画に基づき、指定された領域の単元計画、評価計画を立て、そのうちの1単位時間の指導案を作成し、模擬授業を実施することが目標です。基本的に指導案作成、模擬授業とも学校現場で実際に行われるレベルを要求しており、学生にとってはかなり厳しい要求水準となるため、学習指導要領や多様な教授法など、教科指導について総合的に理解することが必要です。									
授業の進め方									
講義は模擬講義を中心にを行います。受講者の人数によりTTによる指導とする場合もありますが、全員が1回以上、模擬授業で教師役を経験し、授業後に検討会を行います。また毎時間、授業についての感想・意見をレポートにまとめ提出することとします。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容			事前事後学修				
1	ガイダンス	ガイダンスとして講義計画・学習展開について確認します。また、保健体育指導法基礎 で学習した単元構想、評価、指導案等の基本的考え方や作成方法の確認をします。			事前にシラバスを読んでくる。保健体育指導法基礎 の内容について再確認する。(4時間)				
2	授業を創る手順の確認	授業を創り出すための知識や必要事項の内容について、さらに理解を深めます。また、授業づくりのための資料や実践事例などに基づき、学校現場レベルの授業について考えます。			学習指導要領を再読し、担当領域について理解を深め、単元構想を練る。(4時間)				
3	模擬授業(心身の機能の発達と心の健康 1)	「心身の機能の発達と心の健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。			学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)				
4	模擬授業(健康と環境)	「健康と環境」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。			学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)				
5	模擬授業(傷害の防止 1)	「傷害の防止」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。			学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)				
6	模擬授業(健康な生活と疾病の予防)	「健康な生活と疾病の予防」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。			学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)				
7	模擬授業(現代社会と健康 1)	「現代社会と健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。			学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)				
8	模擬授業(生涯を通じる健康 1)	「生涯を通じる健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。			学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)				
9	模擬授業(社会生活と健康 1)	「社会生活と健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、生徒が理解しやすい内容を考え、精選した上で1時間の授業を構成します。			学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)				
10	模擬授業(心身の機能の発達と心の健康 2)	「心身の機能の発達と心の健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、ブレインストーミングやロールプレイング、実習や実験など多様な指導方法を工夫して1時間の授業を構成します。			学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)				
11	模擬授業(傷害の防止 2)	「傷害の防止」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、ブレインストーミングやロールプレイング、実習や実験など多様な指導方法を工夫して1時間の授業を構成します。			学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)				
12	模擬授業(現代社会と健康 2)	「現代社会と健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、ブレインストーミングやロールプレイング、実習や実験など多様な指導方法を工夫して1時間の授業を構成します。			学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)				
13	模擬授業(生涯を通じる健康 2)	「生涯を通じる健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、ブレインストーミングやロールプレイング、実習や実験など多様な指導方法を工夫して1時間の授業を構成します。			学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)				
14	模擬授業(社会生活と健康 2)	「社会生活と健康」の模擬授業を行います。題材に関する資料を収集し、ブレインストーミングやロールプレイング、実習や実験など多様な指導方法を工夫して1時間の授業を構成します。			学習指導要領や資料で題材の理解をして、授業後に授業の中の課題をレポートにまとめる。(4時間)				
15	模擬授業のまとめ	模擬授業全体を通して、教材づくり、指導案などの授業の事前準備や、生徒への指示、指導方法など、授業における生徒への対応について振り返り、課題やその解決方法についてまとめます。			これまでの模擬授業のレポートを読み直し、課題とその解決方法をレポートにまとめる。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準					
「「中学校学習指導要領解説 - 保健体育編 -」文部科学省編編(東山書房) ISBN:9784827814637(生協で購入してください。) 「高等学校学習指導要領解説 - 保健体育編 -」文部科学省編編(東山書房) ISBN:9784827814811(生協で購入してください。)				定期試験:50% レポート:20% 指導案、模擬授業の状況などを30%として総合的に評価していきます。Sは定期試験9割以上、模擬授業の指導案及び教授態度が現場で通用するレベル、レポートは適切な視点での授業評価ができた場合です。以下Aは定期試験8割以上で、模擬授業の指導案ならびに授業、レポートの授業評価が概ね良好な状況の場合。Bは定期試験7割以上、スムーズな模擬授業、自分なりの授業評価ができた場合。Cは定期試験6割以上、模擬授業は指導案、授業が形式通りに成立できた場合とします。					
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「中学校、高等学校 保健体育 教科書」一般書店では購入できないので、希望者は申し出てください。				保健授業における様々な課題を総合的に捉え、指導案の作成力ならびに授業の展開力を身につけていくための講義です。できるだけ多くの資料を収集、準備をして講義ならびに模擬授業に取り組んでください。					

科目名	保健科指導法			学年学期	3年後期	単位数	2	ナパ'リング	研究室	S-13	
担当者	岩間 英明			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日5限		
関連資格	中1種保健、高1種保健					履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
<b>授業概要</b> 本講義は養護教諭が保健の授業を担当することを想定して模擬授業を中心に講義を展開していきます。保健授業における養護教諭の位置づけは、学習指導要領では「専門性を有する教職員」と示されている通り、保健授業の特定分野において保健体育科の教員以上の高い専門性が求められています。そのため、本講義では養護教諭の参加が求められることの多い保健授業の題材に特化して、その内容について模擬講義を通して実践的に理解していくことを目的としています。											
<b>学修到達目標</b> 模擬講義を通して保健科指導法の内容をさらに深化させ、養護教諭にふさわしい幅広い知識をより深く理解した実践レベルにまで引き上げることが目標です。教科書の内容はもちろん、生徒の興味・関心を高め、科学的認識と実践力の向上につながるような内容についての理解とそれを子どもたちに指導していくための教授方法を、模擬講義により習得することが具体的な目標となります。											
<b>授業の進め方</b> 毎時間の講義は養護教諭が関わることの多い保健の題材をテーマとして一つ選び、その内容を周辺知識まで広げて、模擬講義を中心に講義を進めます。指導案作成、模擬授業、その後の討議などを通して、実践的な保健授業を追究していきます。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	講義計画・展開及び評価方法等の確認をします。また、保健授業における養護教諭の高い専門性とその役割について復習するとともに、模擬授業の担当を決めます。					事前にシラバスを読んでくる。保健授業における養護教諭の役割について復習する。(4時間)				
2	模擬授業 心身の機能の発達(1)	"身体機能の発達、生殖に関わる機能の成熟、"について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。					事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)				
3	模擬授業 心身の機能の発達(2)	"精神機能の発達と自己形成、欲求やストレスへの対処と心の健康"について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。					事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)				
4	健康と環境	"身体对环境に対する適応能力・至適範囲、飲料水や空気の衛生的管理"について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。					事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)				
5	応急手当(1)	"中学校での応急手当"について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。					事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)				
6	健康な生活と疾病の予防(1)	"疾病の発生要因、生活行動・生活習慣と健康、喫煙・飲酒・薬物乱用"について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。					事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)				
7	健康な生活と疾病の予防(2)	"感染症の予防、保健・医療機関や医薬品の有効利用、健康を守る社会の取組"について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。					事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)				
8	現代社会と健康(1)	"健康の考え方"について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。					事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)				
9	現代社会と健康(2)	"健康の保持増進と疾病の予防の生活習慣病、喫煙・飲酒"について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。					事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)				
10	現代社会と健康(3)	"健康の保持増進と疾病の予防の薬物乱用、感染症とその予防"について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。					事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)				
11	現代社会と健康(4)	"精神の健康"について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。					事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)				
12	応急手当(2)	"高等学校での応急手当"について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。					事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)				
13	生涯を通じる健康	"生涯の各段階における健康、保健・医療制度および地域の保健・医療機関"について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。					事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)				
14	社会生活と健康	"環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康"について、教科書の内容をさらに深めた模擬授業を行い、授業後に指導内容や教授方法について全員で評価・検討します。					事前に当該の内容について理解しておき、授業後に感想・意見をレポートにまとめる。(4時間)				
15	模擬授業のまとめ	模擬授業全体を通して、授業中の生徒への指示、内容理解、指導方法、資料活用など、事前の準備や授業中の生徒への対応について、課題やその解決方法についてまとめます。					これまでの模擬授業のレポートを読み直し、課題とその解決方法をレポートにまとめる。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
「中学校学習指導要領解説 保健体育編」文部科学省編(東山書房) ISBN:9784827814637(生協で購入してください。) 「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」文部科学省編(東山書房) ISBN:9784827814811(生協で購入してください。)				定期試験:50% レポート:20% 指導案、模擬授業の状況などを30%として総合的に評価していきます。Sは定期試験9割以上、模擬授業の指導案及び教授態度が現場で通用するレベル、レポートは適切な視点での授業評価ができた場合です。以下Aは定期試験8割以上で、模擬授業の指導案ならびに授業、レポートの授業評価が概ね良好な状況の場合。Bは定期試験7割以上、スムーズな模擬授業、自分なりの授業評価ができた場合。Cは定期試験6割以上、模擬授業は指導案、授業が形式通りに成立できた場合とします。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「小学校学習指導要領解説 体育編」文部科学省編(東洋館出版社) ISBN:978449023755 「中学校、高等学校 保健体育 教科書」一般書店では購入できないので				保健授業における養護教諭の役割をとらえ、より専門性の高い指導案の作成力ならびに授業の展開力を身につけていくための講義です。主体的な学習態度と十分な準備が必要になります。							

科目名	保健科指導法基礎			学年学期	2年前期	単位数	2	ナパリング		研究室	S-13
担当者	岩間 英明			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスア-	火曜日5限		
関連資格	中1種保健、高1種保健					履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
授業概要											
本講義は中学校および高等学校学習指導要領に基づいた、教材づくり、教材研究、カリキュラム構成、授業展開の仕方、評価についての根本的な考え方と評価方法の具体的な理解など、中学校および高等学校における保健授業に必要な基礎的な知識や基本的事項について学習し、養護教諭を目指す上で必要な能力やスキルの獲得を目的としています。自分のこれまでの経験を生かして、学習者としての子どもにとって『よい保健授業』とはどのようなものなのかを追究しながら、保健教育の価値や意味を問い直していきます。											
学習到達目標											
保健学習を展開していく上で必要な基礎的な知識と基本となる事項を理解して、年間計画、単元構想、評価計画などを実際に作成できる力を身につけ、最終的には保健の授業細案を書けるようにすることが目標です。また併せて、保健の教材である健康に関する各内容についての理解も深めていきます。											
授業の進め方											
指導案の各項目を中心に毎回の講義ではテーマを決め、保健授業を展開していく上で必要となる基本的な知識を学習するとともに、実際に指導案を作成する上で起こりやすい課題や、保健授業を実施する際に問題となる点について追究していきます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	講義計画・展開及び評価方法等の確認をします。また、最近の保健教育に関する話題を採り上げながら、保健の授業の特徴と体育教員の資質や役割と責務について考えていきます。					事前にシラバスを読んでくる。保健教育の諸問題についてまとめてみる。(2時間)				
2	保健体育科の教科および保健分野・科目保健の目標	学習指導要領に基づき保健の教科目標について学習します。特に昨今、保健教育では何を問われているかを考え、子どもの立場から保健の教科としての意味をとらえ直します。					事前に学習指導要領の関係項目を読む。保健教育の目標についてまとめる。(2時間)				
3	保健体育科の教科の内容(1)	学習指導要領に基づき保健の教科内容について学習します。「心身の機能の発達」「健康と環境」「傷害の防止」の指導内容について、自らの経験に照らし合わせながら考えていきます。					事前に学習指導要領の関係項目を読む。該当項目の指導内容についてまとめる。(5時間)				
4	保健体育科の教科の内容(2)	学習指導要領に基づき体育の教科内容について学習します。「健康な生活と疾病の予防」「現代社会と健康」の指導内容について、自らの経験に照らし合わせながら考えていきます。					事前に学習指導要領の関係項目を読む。該当項目の指導内容についてまとめる。(5時間)				
5	保健体育科の教科の内容(3)	学習指導要領に基づき体育の教科内容について学習します。「生涯を通じる健康」「社会生活と健康」の指導内容について、自らの経験に照らし合わせながら考えていきます。					事前に学習指導要領の関係項目を読む。該当項目の指導内容についてまとめる。(5時間)				
6	指導計画の作成と内容の取り扱い(1)	保健のカリキュラム構成について、小学校から高等学校までの12年間の学習を踏まえた年間計画の作成と、内容の取り扱いについて学習します。					事前に学習指導要領の関係項目を読む。例題に沿って年間指導計画を作成します。(4時間)				
7	指導計画の作成と内容の取り扱い(2)	スコープ(内容構成)とシーケンス(展開構成)の2つの視点から、保健の単元構想について学習します。また、単位時間の指導案の形式的な理解をします。					事前に学習指導要領の関係項目を読む。例題に沿って単元構想案を作成します。(4時間)				
8	指導計画の作成と内容の取り扱い(3)	保健授業の多様な学習方法(実習や実験、課題学習、養護教諭や栄養教諭などの専門性を有する教職員の参加)について学び、単位時間の指導案作成について学習します。					事前に学習指導要領の関係項目を読む。例題に沿って単位時間の指導案を作成します。(4時間)				
9	学習評価の目的と方法(1)	国立教育政策研究所の示した資料に基づき、保健学習の学習評価について、指導と評価の関係や観点別学習状況評価など、評価についての基本的な考え方を学習します。					事前に資料を読む。授業のまとめとして評価計画を作成してみる。(4時間)				
10	学習評価の目的と方法(2)	国立教育政策研究所の示した資料に基づき、保健学習の学習評価の設定について、具体的に学習活動に即した評価規準の作成の仕方を学習します。					事前に資料を読む。授業のまとめとして評価補助簿を作成してみる。(4時間)				
11	指導案作成(1)	生徒の実態のとらえ方、それまでの既習内容を踏まえた教材化(教材作成)の仕方、単元の目標や展開の仕方など、これまでの学習を総合的にとらえ、具体的な単元構想を立てます。					単元構想についてこれまでの復習をしており、課題に即した単元構想を立てる。(5時間)				
12	指導案作成(2)	これまで学習してきた評価の基本的考え方や評価の仕方を生かし、前時に作成した単元構想に合わせた評価計画を立てます。					評価についてこれまでの復習をしており、課題に即した評価計画を立てる。(5時間)				
13	指導案作成(3)	前時まで作成した単元構想の中から任意の1時間を選び、単元の展開に応じた学習方法に基づき、本時の目標と展開を作成します。					学習方法についてこれまでの復習をしており、課題の即した本時案を作成する。(5時間)				
14	指導案作成(4)	これまで一人一人が作成してきた指導案全体について、グループごとに意見交換や見直しを行い、それぞれの良い点や課題を見つけ出します。					事前に自分の指導案を完成させておく。指摘をされた部分の修正をおこなう。(5時間)				
15	講義全体のまとめ	保健の授業を創るということについて、基本的な考え方から実際の指導案作成までを振り返ります。また、保健の授業以外の健康教育や特別活動についても考えていきます。					これまでの学習を振り返り、保健の授業を創り出すということの意味や方法をまとめる。(2時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校保健体育】」 ISBN:978-4-316-30051-1 生協で購入 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校保健体育】」 ISBN:978-4-316-30066-5 生協で購入						定期試験：60% レポート：40% ここで示しているレポートには、指導計画、指導案、評価案など、授業づくりに関わるものを中心に、授業のまとめなど全てを含みます。Sの評価規準は定期試験9割以上で、レポートの内容が実際の授業で通用するレベルの場合です。Aは試験8割以上、レポートの内容・形式ともに概ね良好の場合です。Bは試験7割以上、レポートは内容が指導要領に適合しており、形式が整えられている場合です。Cは試験6割以上、レポートは形式が整えられているものです。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「中学、高等学校 保健体育 教科書」 一般書店では購入できないので、希望者は申し出てください。 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説保健						指導案作成だけに留まらず、保健の授業を行う意味について問い直してください。そのためには主体的な学習態度と準備が必要です。学習指導要領は確実に理解して講義に臨んでください。					

科目名	保健科指導法基礎			学年学期	3年前期	単位数	2	ナパ`リ`ン`グ	研究室	S-13	
担当者	岩間 英明			必修選択	必修	科目種別	講義	ワイスア-	火曜日5限		
関連資格	中1種保健、高1種保健			履修条件		教職課程履修者					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A B C									
授業概要											
本講義は養護教諭が保健の授業を担当することを想定して講義を展開していきます。保健授業における養護教諭の位置づけは、学習指導要領では「専門性を有する教職員」と示されている通り、保健授業の特定分野において保健体育科の教員以上の高い専門性が求められています。そのため、本講義では養護教諭の参加が求められることの多い保健授業の題材に特化して、その内容に関する幅広い知識とより深い理解をしていくことを目的としています。											
学修到達目標											
保健科指導法基礎 の内容をさらに深化させ、養護教諭にふさわしい幅広い知識をより深く理解したレベルにまで引き上げることが目標です。教科書の内容はもちろん、生徒の興味・関心を高め、科学的認識と実践力の向上につながるような内容についての理解と、それを子どもたちに指導していくための教授方法を習得することが具体的な目標となります。											
授業の進め方											
毎時間の講義は養護教諭が関わることの多い保健の題材をテーマとして一つ選び、その内容を周辺知識まで広げて、学習を展開していきます。そのため、予習段階の資料収集が必要であり、それをどのように授業に取り入れていくかを全員で討議・追究していきます。											
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容				事前事後学修					
1	ガイダンス	講義計画・展開及び評価方法等の確認をします。また、保健授業における養護教諭の高い専門性とその役割について、実践例を踏まえながら理解していきます。				事前にシラバスを読んでくる。保健授業における養護教諭の役割についてまとめる。(4時間)					
2	心身の機能の発達(1)	“身体機能の発達、生殖に関わる機能の成熟、”について、教科書の内容をさらに深めて学習していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。				事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)					
3	心身の機能の発達(2)	“精神機能の発達と自己形成、欲求やストレスへの対処と心の健康”について、教科書の内容をさらに深めて学習していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。				事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)					
4	健康と環境	“身体对环境に対する適応能力・至適範囲、飲料水や空気の衛生的管理”について、教科書の内容をさらに深めて学習していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。				事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)					
5	応急手当(1)	“中学校での応急手当”について、教科書の内容をさらに深めて学習していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。				事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)					
6	健康な生活と疾病の予防(1)	“疾病の発生要因、生活行動・生活習慣と健康、喫煙・飲酒・薬物乱用”について、教科書の内容をさらに深めて学習していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。				事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)					
7	健康な生活と疾病の予防(2)	“感染症の予防、保健・医療機関や医薬品の有効利用、健康を守る社会の取組”について、教科書の内容をさらに深めて学習していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。				事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)					
8	現代社会と健康(1)	“健康の考え方”について、教科書の内容をさらに深めて学習していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。				事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)					
9	現代社会と健康(2)	“健康の保持増進と疾病の予防の生活習慣病、喫煙・飲酒”について、教科書の内容をさらに深めて学習していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。				事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)					
10	現代社会と健康(3)	“健康の保持増進と疾病の予防の薬物乱用、感染症とその予防”について、教科書の内容をさらに深めて学習していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。				事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)					
11	現代社会と健康(4)	“精神の健康”について、教科書の内容をさらに深めて学習していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。				事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)					
12	応急手当(2)	“高等学校での応急手当”について、教科書の内容をさらに深めて学習していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。				事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)					
13	生涯を通じる健康	“生涯の各段階における健康、保健・医療制度および地域の保健・医療機関”について、教科書の内容をさらに深めて学習していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。				事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)					
14	社会生活と健康	“環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康”について、教科書の内容をさらに深めて学習していきます。また、授業でどのように指導するか、教授方法についても考察していきます。				事前に当該の内容について資料を収集しておく。内容の確認と教授方法をまとめる。(4時間)					
15	講義全体のまとめ	これまでの保健授業の内容について、理解の不十分な点や新たに生じた疑問などについて、全体および個人で討議しながら振り返り、講義全体のまとめをする。				これまでまとめてきた内容を読み直し、保健授業における養護教諭の役割を再認識する。(4時間)					
テキスト		成績評価の方法・基準									
「中学校学習指導要領解説 保健体育編」文部科学省編(東山書房) ISBN:9784827814637(生協で購入してください。)		定期試験:60% レポート:40%									
「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」文部科学省編(東山書房) ISBN:9784827814811(生協で購入してください。)		ここで示しているレポートには、各回の講義のまとめや指導計画、指導案、評価案といった資料など、授業づくりに関わるものを全てを含みます。Sの評価規準は定期試験9割以上、レポートの内容が実際の授業で通用するレベルの場合です。Aは試験8割以上、レポートの内容・形式ともに概ね良好の場合です。Bは試験7割以上、レポートは内容が指導要領に適合しており、形式が整えられている場合です。Cは試験6割以上、レポートは形式が整えられているものです。									
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)									
「小学校学習指導要領解説 体育編」文部科学省編(東洋館出版社) ISBN:978449023755		養護教諭が保健の授業を行う意味について問い直してください。そのためには主体的な学習態度と準備が必要です。学習指導要領や教科書の内容は確実に理解して講義に臨んでください。									
「中学校、高等学校 保健体育 教科書」一般書店では購入できないので											

科目名	学校教育活動			学年学期	2・3・4年前期	単位数	2	ナバリング		研究室	A-01
担当者	征矢野 達彦・小林 敏枝・内藤 千尋			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格	高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保健、高1種保健、養教1種、栄教1種、中1種保健、高1種保健					履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
<b>授業概要</b>											
本科目は、県内の義務教育学校における教育活動に学生たちがボランティアとして参加し、学校という組織に対する理解を深めると共に、本学で学んだ教職に関する理論を実際の場で検証する機会を提供することを目的とします。具体的には、学校での教育活動を30時間以上行い、その活動証明書、レポート作成をもって単位の認定を行います。											
<b>学修到達目標</b>											
1、自己の子ども理解を深め、子ども観を形成する一助とする。 2、教育活動での体験をもとに、学内での教職課程科目への理解を深める。 3、自発的、積極的態度を身につけ、人間関係の構築の仕方、社会人としての常識の基本を学ぶ。											
<b>授業の進め方</b>											
最初に本授業科目の意義とねらいを十分に理解したうえで、それぞれの自己の興味・関心によって概ね半年以上にわたる教育活動に参加し、その結果をレポートとして提出し、総括をします。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス1	学校教育活動の授業の意義とねらい					シラバスの読み(4時間)				
2	ガイダンス2	参加可能小中学校の紹介と参加者の態度・心構え					第1回授業の復習と自己活動計画の検討、作成(4時間)				
3	活動参加1	学校教育活動への参加(活動先でのガイダンス)					活動先への理解(4時間)				
4	活動参加2	学校教育活動への参加(教員の職務を中心に)					自己の活動態度等についての省察(4時間)				
5	活動参加3	学校教育活動への参加(学校の校務分掌の理解)					自己の活動態度等についての省察(4時間)				
6	活動参加4	学校教育活動への参加(学級内での活動-個別指導)					自己の活動態度等についての省察(4時間)				
7	活動参加5	学校教育活動への参加(学級内での活動-集団指導)					自己の活動態度等についての省察、活動報告会準備(4時間)				
8	学校教育活動中間報告会	学校教育活動への参加状況の報告					自己の活動態度等についての省察(4時間)				
9	活動参加6	学校教育活動への参加(生徒指導を中心に)					自己の活動態度等についての省察(4時間)				
10	活動参加7	学校教育活動への参加(学級活動を中心に)					自己の活動態度等についての省察(4時間)				
11	活動参加8	学校教育活動への参加(学年・学校行事の活動を中心に)					自己の活動態度等についての省察(4時間)				
12	活動参加9	学校教育活動への参加(児童会・生徒会活動を中心に)					自己の活動態度等についての省察(4時間)				
13	活動参加10	学校教育活動への参加(キャリア教育、進路指導を中心に)					自己の活動態度等についての省察、活動報告会準備(4時間)				
14	学校教育活動報告会1	学校教育活動参加報告会					自己の活動態度等についての省察、活動成果のまとめ(4時間)				
15	学校教育活動報告会2	学校教育活動参加報告会と全体でのまとめ					レポートの作成(4時間)				
<b>テキスト</b>						<b>成績評価の方法・基準</b>					
使用しない						レポート：70% 受入校の評価：30% S:到達目標達成のために探求心をもって課題に誠実に意欲的に取り組み、正しく文章で表現できる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、活動内容と課題を文章で表現できる。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、各回の活動で学んだことの振り返りをし、文章で表現できる。C:到達目標達成を理解して、課題に取り組み、各回の活動で学んだことを表現できる。					
<b>参考書</b>						<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
必要に応じて提示します。						本授業は、松本市内の小中高へのボランティア活動を主要な内容とするため、本学のボランティア活動を行う際の諸注意を遵守する。地域教育活動との2科目の中から1科目選択という選択必修科目です。					

科目名	生涯学習概論		学年学期	3年前期	単位数	2	ナバリング	TB360115	研究室	非常勤
担当者	佐藤 広男		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスア-			
関連資格	学芸員、高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保健体、高1種保健、養教1種、中1種保健、高1種保健			履修条件	【資格・免許取得希望者のみ履修可】					
ディプロマポリシーとの関連性	カリキュラムポリシーとの関連性		履修対象入学年度(読替科目)							
		A	B	C						
<b>授業概要</b>										
<p>少子高齢化やグローバル化など激変する現代社会では、学習要求を持つだれもが生涯にわたっていつでもどこでも学習の機会を保障され、その成果を適切に生かせる社会の実現が図られなければなりません。また、そこでの学び合いを通して住みよい地域づくりを推進していくことも求められています。この講座では、生涯学習の意義やその支援の仕組み、学校教育と社会教育の連携、生涯学習における現代的な課題等について学ぶとともに、社会教育施設としての公民館や図書館・博物館等の現状や役割についても学習します。</p>										
<b>学修到達目標</b>										
<p>生涯学習、社会教育の基本的な理論と具体的な実践について、自分と学習の関わりを考えつつ理解を深めることを目指します。また、この講座での学習を通して、社会における生涯学習、社会教育に関心を持つ意識を高めることを目指します。</p>										
<b>授業の進め方</b>										
<p>テキストや担当者が用意する身近な資料を利用して、講義およびワークショップなどを通して、体験的・具体的に学んでいきます。なお、通常講義をアウトキャンパス等に替える場合もあります。</p>										
<b>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	生涯学習とは	講座ガイダンス 「生涯学習」について、学ぶことの意義や学習内容・方法について考えます。				【事後】配布資料及びテキストの該当箇所を整理して復習する。(4時間)				
2	人の一生と生涯学習	絵本の読み合わせなどにより「人の一生と生涯学習」について考え合います。グループワークがあります。				【事後】テキストの次時の学習内容に該当する箇所を予習する。(4時間)				
3	人の一生と生涯学習	生涯学習と家庭教育・学校教育・社会教育の関連およびそれぞれが果たす役割について考えます。				【事後】自分史を振り返り、ワークシートに整理する。(4時間)				
4	学社連携・融合から学校支援へ	学社連携・融合および学校支援の取り組みについて、子どもたちの活動をふまえて、現状を理解します。				【事後】テキストの該当箇所および配布資料の内容を整理して復習し、学習を深める。(4時間)				
5	生涯学習振興施策の展開と推進	関連する法律や答申等の内容に触れつつ、どのような生涯学習振興施策がどのように推進されているかについて学習します。				【事後】テキストの該当箇所及び配布資料の内容を整理して復習し、学習を深める。(4時間)				
6	生涯学習の推進と学習支援のしくみ	生涯学習の推進に果たす社会教育、社会教育行政の意義や内容・方法・形態などについて学習します。				【事後】テキストの該当箇所及び配布資料の内容を整理して復習し、学習を深める。(4時間)				
7	社会教育とワークショップ	社会教育におけるワークショップの意義・内容と方法について学習し、課題を設けてグループワークを体験します。				【事後】グループワークのワークシートの記入を整理して提出する。(4時間)				
8	社会教育の実際と課題	生涯学習における現代的な課題(まちづくり・地域づくり、少子高齢社会など)について考えます。				【事後】配布資料の内容を整理してまとめ、学習を深める。(4時間)				
9	社会教育の実際と課題	生涯学習における現代的な課題(さまざまな人権課題、安全・安心な社会まちづくりなど)について考えます。				【事後】配布資料の内容を整理してまとめ、学習を深める。(4時間)				
10	生涯学習の推進と学習支援のしくみ	社会教育の推進における公民館や図書館・博物館等の諸施設について、役割や取組みの現況、課題などについて学習します。				【事後】テキストの該当箇所及び配布資料の内容を整理して復習し、学習を深める。(4時間)				
11	生涯学習の推進と学習支援のしくみ	社会教育主事、司書、学芸員や公民館主事その他の社会教育の専門職員をはじめとする社会教育の指導者の役割や課題などについて学習します。				【事後】テキストの該当箇所及び配布資料の内容を整理して復習し、学習を深める。(4時間)				
12	生涯学習支援の新たな動向と課題	地域の子育て支援と学社融合などを中心にしながら、生涯学習支援の新たな動向と課題を考えます。				【事後】テキストの該当箇所及び配布資料の内容を整理して復習し、学習を深める。(4時間)				
13	生涯学習支援の新たな動向と課題	生涯学習における職業能力の開発や資格取得の意義などについて学習し、生涯学習支援の新たな動向と課題を考えます。				【事後】テキストの該当箇所及び配布資料の内容を整理して復習し、学習を深める。(4時間)				
14	生涯学習推進の評価・改善及び学習成果の活用支援	社会教育におけるP-D-C-Aサイクルのあり方について考えます。				【事後】テキストの該当箇所及び配布資料の内容を整理して復習し、学習を深める。(4時間)				
15	生涯学習推進の課題と展望および講義のまとめ	生涯学習の振興と新たな取り組みや今後の展望について触れた後、講義全体のまとめをします。				【事前・事後】最終提出課題を作成し、期限までに提出します。(4時間)				
<b>テキスト</b>		<b>成績評価の方法・基準</b>								
<p>「生涯学習概論 - 生涯学習社会への道」浅井経子 他著(理想社) ISBN: 978-4-650-01011-4 (生協で購入してください。) その他、必要に応じて資料を配付します。</p>		<p>受講態度: 50% 課題: 30% 出席レポート: 20%</p> <p>総合的に評価します。S: 高度に探求的な姿勢・積極的に集中した授業への取り組み・授業内容の十分な理解・課題への意欲的な取り組みと内容の十分に適切な表現。A: 探求的な姿勢・積極的な授業参加・授業内容を理解・課題の内容を適切に表現。B: 誠実な授業参加態度・授業内容をほぼ理解・課題の内容を概ね適切に表現。C: 誠実な授業参加態度・授業内容を6割以上理解・課題のねらいに沿った表現。</p>								
<b>参考書</b>		<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>								
<p>「新訂 生涯学習概論」伊藤俊夫著(ぎょうせい) 「よくわかる生涯学習 改訂版」香川正弘・鈴木真理・永井健夫編(ミネルヴァ書房) ISBN: 978-4-623-07631-4</p>		<p>地域・学校・図書館・博物館などが連携して生涯学習を推進したり、その学習を通して地域課題の解決や地域の活性化を図ろうとする取り組みなどに大いに関心を持って授業参加してもらいたいと思います。</p>								

科目名	教育実践特講			学年学期	2・3年後期	単位数	2	ナパ'リング		研究室	W-01
担当者	小松 茂美・征矢野 達彦・岸田 幸弘			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日1限		
関連資格	高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保体、高1種保体、養教1種、栄教1種、中1種保健、高1種保健					履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
<b>授業概要</b> 目的：本講義の目的の第一は、現場の教育実践を直接参観することにより教育及び授業に対する理解・関心を深める契機とすることです。第二は、実際の授業の参観を通して4年次に行う教育実習へのスムーズな移行ができるようにすることです。 概要：長野県下の小・中学校、高等学校の授業を受講者全体で各1回ずつ参観し、参観後レポートを提出し、その提出したレポートに基づいてディスカッションを行い、他者と意見を交わしながら授業に対する基本的な理解を深めます。											
<b>学修到達目標</b> 授業参観の基本的な態度・心得を身につける。 授業の見方を身につける。 参観後のディスカッションにより、授業実践力を身につけると共に、自己表現力・コミュニケーション能力を向上させる。 よい授業・わかる授業についての理解を深める。											
<b>授業の進め方</b> 授業参観を2回(2日間)行い、参観後レポートを提出し、提出したレポートに基づいてディスカッションを行います。授業参観の経験を活かし、各自作成した学習指導案に基づき模擬授業を行い、授業力の向上を図ります。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の見方について 授業参観の基本的心得について					授業内容を確認し記録整理する				
2	小学校の訪問	授業参観					事前学習：参観する授業の学習指導案の分析 課題レポート提出				
3	中学校の訪問	授業参観					事前学習：参観する授業の学習指導案の分析 課題レポート提出				
4	高等学校の訪問1	授業参観 第1時限開講の授業					事前学習：参観する授業の決定 参観レポート提出				
5	高等学校の訪問	授業参観 第2時限開講の授業 (授業参観 と異なる教科の授業を参観する)					事前学習：参観する授業の決定 参観レポート提出				
6	ディスカッション	小・中学校の授業参観で学んだこと					事前学習：授業参観記録の整理 課題レポート提出				
7	ディスカッション	高等学校の授業参観で学んだこと					事前学習：授業参観記録の整理 課題レポート提出				
8	学習指導案の作成と教材研究	学習指導案の作成と教材準備について再確認する					事前学習：学習指導案の基礎基本 学習指導案提出準備				
9	指導案の作成と教材研究	模擬授業に向けた指導案作成と教材研究を深める					事前学習：教材研究 学習指導案提出準備				
10	指導案の作成と教材研究	作成した学習指導案をもとに教材作成					事前学習：教材候補の準備 学習指導案提出と教材作成				
11	模擬授業と板書の実際	Aグループによる模擬授業					事前学習：模擬授業の準備 授業レポート提出				
12	模擬授業と板書の実際	Bグループによる模擬授業					事前学習：模擬授業の準備 授業レポート提出				
13	模擬授業と板書の実際	Cグループによる模擬授業 模擬授業のまとめ(反省と課題)					事前学習：模擬授業の準備 授業レポート提出				
14	授業評価	授業評価について(よくわかる授業、良い授業にするために)					事前学習：授業の評価 課題レポート提出準備				
15	まとめ	良い授業の条件について まとめ					事前学習：良い授業とは 課題レポートの提出				
<b>テキスト</b>						<b>成績評価の方法・基準</b>					
必要に応じて、プリント資料を配布します。						受講態度：30% 出席レポート：30% 実技：30% レポート：10% 授業担当者全員で、協議し評価します。受講態度(A:積極的・意欲的、B:普通、C:消極的に出席状況を加味)、出席レポート(授業分析がA:十分できている、B:普通、C:不十分)、実技(指導案(A:通用する、B:何とか通用する、C:通用しない)と模擬授業(A:教壇に立てる、B:何とか立てる、C:不安がある))、レポート(理解度と自己課題の分析力等がA:優れている、B:普通、C:不十分)を総合的に評価します。全ての項目がA評価の場合、S評価の検討をします。					
<b>参考書</b>						<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
『大西流授業の見方 授業を見る目を高めるノウハウ25』大西貞恵/玉置崇著(KKフラインクス 2010年)						教育実習をする3年生は、履修することが望ましいです。授業参観を通して見出した課題を受講者が相互に出し合い、よい授業、よくわかる授業とはどのような授業かについて、本講義を通して理解を深めます。					

科目名	教職特講演習Ⅰ（教師に求められる実践的指導力）		学年学期	2・3・4年前期	単位数	2	ナパリング		研究室	W-01
担当者	小松 茂美		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日1限		
関連資格	高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保健、高1種保健、養教1種、中1種保健、高1種保健				履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
①	②	③	A	B	C					
<b>授業概要</b> 学校現場の取り組み状況や、教員に求められている資質能力について理解を深め、将来、教職に就くために必要な力を身につけます。現状における自己課題や、不足している資質能力を分析・認識することにより、教職過程をとおして学ぶべきものを明確にし、教員に必要な資質能力の向上につなげます。また、新規採用教員、臨時的任用教員（講師等）等についての情報を提供し、教職への夢を失わずに教職へ進むに際しての基礎・基本の大切さを学習します。模擬授業も取り入れ、授業力向上にも取り組みます。										
<b>学修到達目標</b> 教員のやりがい、求められる教員の資質と能力について理解を深め、併せて、教育に対する課題意識を高めるとともに、プレゼンテーション能力の向上を図ること。また、思考した内容を文字にする能力を高めること。										
<b>授業の進め方</b> 講義とグループ討議、各自の意見発表を中心に進めます。自分の考えを簡潔にまとめ、文字にして発表を行い、お互いの議論を深める時間を多く取ります。模擬授業では、専門外の模擬授業を聴くことにより、自身の授業力向上に役立ちます。										
<b>授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	ガイダンス 授業概要と授業計画、夢の実現のための取り組み、主体的な学習姿勢の構築について、教員採用試験について				本時の内容の記録整理（2時間）				
2	理想の教員像	本学教職志望学生が考える理想の教員像について討議 本学が目指す教員像について				事前学習：理想の教員像 授業レポート（課題）提出（3時間）				
3	教員の魅力	教員の魅力について考え、意見交換 学習指導案作成の基本について				事前学習：教員の魅力 学習指導案作成（6時間）				
4	教育の現状と課題	教育の現状と課題について（長野県教育振興基本計画より） 具体的な学習指導案の作成				事前学習：学習指導案作成 模擬授業の準備（4時間）				
5	学力の課題	我が国の学力の課題について考える 模擬授業の実践及び意見交換①				事前学習：学力の課題 授業レポート（課題）提出（4時間）				
6	グループ学習についてⅠ	グループ学習の利点と課題について考える 模擬授業の実践及び意見交換②				事前学習：意見発表の在り方 授業レポート（課題）提出（4時間）				
7	模擬授業のまとめ	模擬授業の実践及び意見交換③ 模擬授業のまとめ				模擬授業の振り返り 授業レポート（課題）提出（6時間）				
8	グループ学習についてⅡ	主体的で学びの深まるグループ学習について考える				事前学習：主体的なグループ学習のあり方／授業内容を確認し記録整理する（4時間）				
9	グループ学習についてⅢ	グループ学習の課題・注意点について考える				事前課題：陥りやすいグループ学習の課題と対応策／授業内容を確認し記録整理する（4時間）				
10	個人面談のあり方について	個人面談での対応・指導のあり方について ・「いじめ」の訴えについてどう対応したらよいか				事前課題：いじめ 授業内容を確認し記録整理する（4時間）				
11	教員の資質と能力	求められる教員の資質と能力について考える ・不易と流行（変わらず求められているもの、これから求められるもの）				事前課題：教員の資質能力 授業レポート（課題）提出（4時間）				
12	学校の危機管理Ⅰ	事件や事故、自然災害発生時の対応について理解を深める				事前学習：事故発生時の対応 授業内容を確認し記録整理（4時間）				
13	学校の危機管理Ⅱ	保護者や地域の方からの意見・要望への対応のあり方について理解を深める				事前学習：モンスターペアレント 授業内容を確認し記録整理（5時間）				
14	学級担任及び特別支援教育	学級担任の役割について理解を深める 特別支援教育についての理解を深める				事前学習：学級担任の役割 授業内容を確認し記録整理（6時間）				
15	まとめ	当初の目的が達成されたか ・教員を目指すうえで今の自分に不足していること、これからすべきこと				事前学習：自己分析 レポートの提出（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
毎時間、プリント資料を使用します。				受講態度：50% 出席レポート：30% レポート：20% 受講態度（A:意欲的・積極的、B:普通、C:消極的とし、出席状況を加味）、出席レポート（授業レポートによりA:的を得ている、B:概ね得ている、C:不十分）、レポート（A:分析・整理が的確であり自分の意見を述べている、B:分析・整理又は自分の意見が不十分、C:分析・整理及び自分の意見ともに不十分）を総合的に評価します。全ての項目がA評価の場合、S評価の検討をします。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「学校経営の危機管理 ～トラブル対応と法的解釈～ 1・2」（第一法規）				教職への進路を前提にした授業です。毎時間、各自課題意識をもって授業に臨み、課題解決に向けて積極的に取り組むことを希望します。						



科目名	教職特講演習Ⅱ (保健体育科教員としての基礎知識)			学年学期	2・3年後期		単位数	2		ナパリング		研究室	S-13		
担当者	岩間 英明			必修選択	選択		科目種別	演習		オプスワー	火曜日5限				
関連資格	中1種保体、高1種保体						履修条件	教職課程履修者							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)										
①	②	③	A	B	C										
<b>授業概要</b>															
本講義は基本的に中学校・高等学校の保健体育科教員として必要な専門知識を、実際の保健授業で活用できるようにより具体化した内容として学ぶことを目的としています。学習指導要領に示されている各領域の内容について、子どもに指導する際に押さえておかなければならない詳細なポイントを徹底したドリル学習により身につけていきます。															
<b>学修到達目標</b>															
中学校・高等学校の保健体育教員として、保健授業に活用できる程度までより詳細に具体化した知識として身につけていくことが目標です。具体的には保健授業で実際に起こり得る学習指導の課題や教員採用試験の問題などを例に、体育教師としてどのような知識が必要なのかを考察し、それが完全に身につくまで繰り返し学習し、教員採用試験に合格できる力を身につけることが最終的な目標です。															
<b>授業の進め方</b>															
本講義ではこれまで「指導法」の講義で学んだ内容を復習した後、例題に沿って基本的な課題や問題を全員で考察して理解を深めていきます。さらにその後は、各自でいくつかの例題に取り組み、より確かな知識とします。															
<b>授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>															
回	テーマ				内容				事前事後学修						
1	ガイダンス				授業の目的、学習の進め方を確認します。実際の教員採用試験の問題に取り組み、現在の自分の力を認識します。				事前にシラバスを読んでくる。教員採用試験のできなかったところを再度学習する。(4時間)						
2	学習指導要領(1)				体育教師として理解しておかなければならない学習指導要領の内容について学習し、例題に取り組んで知識を深めます。				学習指導要領について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)						
3	学習指導要領(2)				体育教師として理解しておかなければならない学習指導要領の内容について学習し、例題に取り組んで知識をより確かなものとします。				学習指導要領について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)						
4	現代社会と健康(1)				“健康の考え方、心身の機能の発達、精神の健康”について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				関連する内容について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)						
5	現代社会と健康(2)				“健康の保持増進と疾病の予防、交通安全、傷害の防止”について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				関連する内容について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)						
6	現代社会と健康(3)				“応急手当”について、その内容と実習を取り入れた指導方法について学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				応急手当について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)						
7	生涯を通じる健康(1)				“生涯の各段階における健康”について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				生涯の各段階における健康について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)						
8	生涯を通じる健康(2)				“保健・医療制度及び地域の保健・医療機関”について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について予習し、わからなかった例題を復習する。(4時間)						
9	生涯を通じる健康(3)				“様々な保健活動や対策”について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				様々な保健活動や対策について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)						
10	社会生活と健康(1)				“環境と健康”について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				健康と環境について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)						
11	社会生活と健康(2)				“環境と食品の保健”について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				環境と食品の保健について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)						
12	社会生活と健康(3)				“労働と健康”について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				労働と健康について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)						
13	保健指導の多様な指導方法の実際				“ディスカッション、ブレインストーミング、ロールプレイング、実験、実習”などの多様な指導方法について学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。				多様な指導方法について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)						
14	総合問題(1)				基本的な内容の総合問題に取り組んで、これまでの学習の成果や今後の課題を見つけていきます。				これまでの学習内容について復習をしておき、総合問題の結果から今後の学習を見通す。(4時間)						
15	総合問題(2)				応用的な内容の総合問題に取り組んで、これまでの学習の成果や今後の課題を見つけていきます。				これまでの学習内容について復習をしておき、総合問題の結果から今後の学習を見通す。(4時間)						
<b>テキスト</b>					<b>成績評価の方法・基準</b>										
「2018年度 教員採用試験対策 中学・高校保健体育」東京アカデミー編(七賢出版) ISBN:978-4-86455-272-1(生協で購入してください。)また、中学・高等学校(保健体育)学習指導要領解説をそれぞれ購入してください。					定期試験:70% 小テスト:30% 基本的には定期テスト及び講義内で実施する小テストの合計点数で評価しますが、得点の伸び率(学習の努力の度合い)も考慮していきます。Sは全体で9割以上の得点。Aは8割以上の得点。Bは7割以上の得点。Cは6割以上の得点が必要です。また、それぞれ、15回の講義の得点変動を得点化して若干ですが加算します。										
<b>参考書</b>					<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>										
教員養成セミナー(時事通信社)、教職課程(共同出版)などの教員採用に関する月刊誌も読んでいくと、受講する上で大変参考になります。					体育教員として必要な保健の専門知識を身につけるため、演習問題に数多く取り組みます。内容が幅広いので、授業だけでなく、それ以外の時間も継続的に学習を進めていくことが重要になります。										

科目名	教職特講演習Ⅲ (保健体育科の学習指導法)			学年学期	2・3年前期		単位数	2		ナパリング		研究室	S-13		
担当者	岩間 英明			必修選択	選択		科目種別	演習		ウォークアワー	火曜日5限				
関連資格	中1種保体、高1種保体、養教1種、中1種保健、高1種保健						履修条件	教職課程履修者							
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)									
①	②	③	A	B	C										
<b>授業概要</b>															
本講義は基本的に中学校・高等学校の保健体育科教員として必要な専門知識を、実際の体育授業で活用できるようにより具体化した内容として学ぶことを目的としています。学習指導要領に示されている各領域の内容について、子どもに指導する際に押さえておかなければならない詳細なポイントを徹底したドリル学習により身につけていきます。															
<b>学修到達目標</b>															
中学校・高等学校の保健体育教員として、体育授業に活用できる程度まで詳細に具体化した知識として身につけていくことが目標です。具体的には体育授業で実際に起こり得る学習指導上の課題や教員採用試験の問題などを例に、体育教師としてどのような知識が必要なのかを考察し、それが完全に身につくまで繰り返し学習し、教員採用試験に合格できる力を身につけることが最終的な目標です。															
<b>授業の進め方</b>															
本講義ではこれまで「指導法」の講義で学んだ内容を復習した後、例題に沿って基本的な課題や問題を全員で考察して理解を深めていきます。さらにその後は、各自でいくつかの例題に取り組み、より確かな知識とします。															
<b>授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>															
回	テーマ			内容						事前事後学修					
1	ガイダンス			授業の目的、学習の進め方を確認します。実際の教員採用試験の問題に取り組み、現在の自分の力を認識します。						事前にシラバスを読んでくる。教員採用試験のできなかったところを再度学習する。(4時間)					
2	学習指導要領(目標及び内容)			体育教師として理解しておかなければならない学習指導要領の内容について学習し、例題に取り組んで知識を深めます。						学習指導要領について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)					
3	学習指導要領(内容の取り扱い)			体育教師として理解しておかなければならない学習指導要領の内容について学習し、例題に取り組んで知識をより確かなものとします。						学習指導要領について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)					
4	体づくり運動			「体づくり運動」について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。						「体づくり運動」について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)					
5	器械運動			「器械運動」について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。						「器械運動」について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)					
6	陸上競技			「陸上競技」について、その内容と実習を取り入れた指導方法について学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。						「陸上競技」について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)					
7	水泳			「水泳」について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。						「水泳」について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)					
8	球技(ゴール型)			「球技(ゴール型)」について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。						「球技(ゴール型)」について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)					
9	球技(ネット型)			「球技(ネット型)」について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。						「球技(ネット型)」について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)					
10	球技(ベースボール型)			「球技(ベースボール型)」を中心に球技全般について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。						「球技(ベースボール型)」について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)					
11	武道(柔道)(剣道)			「武道(柔道)(剣道)」について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。						「武道(柔道)(剣道)」について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)					
12	武道(相撲)及びダンス			「武道(相撲)」及びダンスについて、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。						「武道(相撲)」「ダンス」について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)					
13	体育理論			「体育理論」について、その内容を学習し、関連する例題に取り組んで知識を深めます。						「体育理論」について予習をしておき、例題でわからなかった点を復習する。(4時間)					
14	総合問題(1)			基本的な内容の総合問題に取り組んで、これまでの学習の成果や今後の課題を見つけていきます。						これまでの学習内容について復習をしておき、総合問題の結果から今後の学習を見通す。(4時間)					
15	総合問題(2)			応用的な内容の総合問題に取り組んで、これまでの学習の成果や今後の課題を見つけていきます。						これまでの学習内容について復習をしておき、総合問題の結果から今後の学習を見通す。(4時間)					
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>											
『2018年度 教員採用試験対策 中学・高校保健体育』東京アカデミー編(七賢出版) ISBN:978-4-86455-272-1(生協で購入してください。)また、中学・高等学校(保健体育)学習指導要領解説をそれぞれ購入してください。				定期試験:70% 小テスト:30% 基本的には定期テスト及び講義内で実施する小テストの合計点数で評価しますが、得点の伸び率(学習の努力の度合い)も考慮していきます。Sは全体で9割以上の得点。Aは8割以上の得点。Bは7割以上の得点。Cは6割以上の得点が必要です。また、それぞれ、15回の講義の得点変動を得点化して若干ですが加算します。											
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>											
教員養成セミナー(時事通信社)、教職課程(共同出版)などの教員採用に関する月刊誌も読んでいくと、受講する上で大変参考になります。				体育教員として必要な保健の専門知識を身につけるため、演習問題に数多く取り組みます。内容が幅広いので、授業だけでなく、それ以外の時間も継続的に学習を進めていくことが重要になります。											

科目名	教職特講演習Ⅳ（養護教諭としての基礎知識）			学年学期	2・3年前期		単位数	2		ナバリング		研究室	S-19		
担当者	中島 節子			必修選択	選択		科目種別	演習		オプスワール	火曜日3限				
関連資格	養教1種、中1種保健、高1種保健						履修条件	教職課程履修者							
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）									
①	②	③	A	B	C										
<b>授業概要</b>															
本講義は、養護教諭として必要な専門知識と技術を獲得することを目的とします。そのため、健康に関する基礎的事項をはじめ、児童生徒が罹患しやすい疾病の成り立ち、予防、治療、保健室でのケア等の知識を修得します。また、養護教諭の職務に関する学校保健情報、健康診断、健康相談、保健室運営等についての知識を深め、養護教諭としての基礎能力を高め、実践につなげていけるようにします。															
<b>学修到達目標</b>															
養護教諭としての専門的知識と技術を既習学習を復習しながら理解できるようになること 健康相談活動、応急手当、保健指導などを事例に応じて実践できるようになること															
<b>授業の進め方</b>															
専門的知識を深めるために、各回テーマを決めて、事例検討、確認問題と解説を繰り返しながら進めます。また、実践力を身につけるためにロールプレイングを取り入れ、連携、コミュニケーション、カウンセリングについて演習しながら技術を向上させます。															
<b>授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>															
回	テーマ			内容						事前事後学修					
1	オリエンテーション 養護教諭の職務と必要な能力			オリエンテーションを行います。養護教諭の職務および必要な能力について討議します。						養護教諭の職務について予習、復習する。（4時間）					
2	保健室の機能と経営			保健室の法的根拠、保健室の機能、保健室の経営、保健室登校について確認問題を行い、解説をしながら学習します。						保健室の機能と経営について予習、復習する。（4時間）					
3	健康相談			健康相談の目的、進め方 健康相談における養護教諭の役割について確認問題を行い、解説をしながら学習します。事例を展開、討議し理解を深めます。						健康相談について予習、復習する。事例について基礎的な部分を調べレポートする。（4時間）					
4	危機発生時における対応			危機発生時における対応について演習を含めて学びます。危機発生時の児童生徒の心のケアについて関係者との連携を含めて学びます。						危機発生時の事例に対応できるように予習し、実施したことについて復習する。（4時間）					
5	健康観察			健康観察の目的、実施、養護教諭の処置と対応について学びます。健康観察の実施は演習を交えて行います。						健康観察について実践できるように予習しておく。実践したことについて復習をする。（4時間）					
6	健康観察と事後措置			健康観察の方法と事後措置について事例を通して考えます。ロールプレイング方式で実践できる能力を養います。						健康観察（フィジカルアセスメント含）について、実践できるように予習する。（4時間）					
7	健康診断			健康診断の計画、準備、実施方法について確認問題を行い、解説しながら学習します。発達障害などの特殊な場合の健康診断の方法を検討、実施する。						健康診断と発達障害についてについて予習レポートする。（4時間）					
8	健康診断の事後措置			健康診断の事後措置の方法について事例を用いて考えます。最近の疾病傾向と対策について学びます。						児童生徒の多い疾患についてレポートにまとめる。（4時間）					
9	学校感染症			学校感染症の種類と関係法令、対応、予防接種について確認問題を行い、解説しながら学習します。						学校感染症について病態、対応策などをレポートにまとめる。（4時間）					
10	児童生徒に多い疾患			アレルギー疾患、心疾患、糖尿病などの疾患について確認問題を行います。それぞれの事例をとおして保健指導等の方法を考えます。ロールプレイングしながら面接方法を検討します。						疾患について基礎的なことを予習しレポートにまとめる。事例の展開を考える。（4時間）					
11	救急処置			救急体制の整備と応急手当について実技を含めた確認問題を行います。事例を通して実際の対応の仕方を考えます。						救急蘇生法について予習し、事例に対応できるようにしておく。（4時間）					
12	学校に多い外傷の対応			打撲、外傷、捻挫、骨折、脱臼、熱傷の対応についての確認問題を行います。事例を通して、実際の対応を演習します。						学校に多い外傷の病態をまとめ、対応について予習事例に対応できるようにする。（4時間）					
13	養護教諭に必要な専門知識1			食育、性教育についての確認問題を行います。保健指導を指導案を作成して模擬指導を行います。						食育、性教育について予習復習する。保健指導案を作成する。（4時間）					
14	養護教諭に必要な専門知識2			飲酒、喫煙、薬物乱用について健康被害と予防教育について確認問題を行います。						飲酒、喫煙、薬物乱用について予習、復習する。（4時間）					
15	学校環境衛生基準			学校環境衛生の法的根拠と検査についての確認問題を行います。解答を解説しながら学びます。						学校環境衛生の法的根拠と検査方法について予習、復習する。（4時間）					
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>											
配布資料を用います。				レポート：20% 定期試験：60% 実技：20% 既習学習を復習しながら応用、実践できる能力が身につけているか確認します。レポート提出は確実にできている。S:事前学習を行い養護教諭としての基礎的知識や技術が身につく、事例に応じて応用できる。A:養護教諭としての基礎的知識や技術が身につく、事例に対応できる。B:養護教諭として基礎的な知識や技術は身につけているが、事例に対応する場合には指導を必要とする。C:養護教諭としての基礎的知識や技術は一応身につけているが、応用するにはかなりの指導を要する。											
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意（学生へのメッセージ）</b>											
「よくわかる養護教諭」時事通信出版局編（時事通信社） 「4訂 養護概説」三木とみ子著（ぎょうせい） ISBN：978-4-324-08594-3				養護教諭志望学生のための選択科目ですから、主体的に臨むことを希望します。養護教諭の専門的知識や身体及び疾患に関する基礎的な知識・技術を確実に身につけ、実践に結びつけることが前提となり3年以降での受講が望ましい。											

科目名	教職特講演習Ⅴ(養護教諭としての実践的指導力)			学年学期	2・3年後期		単位数	2		ナバリング		研究室	S-19		
担当者	中島 節子			必修選択	選択		科目種別	演習		オプスアワー	火曜日3限				
関連資格	養教1種、中1種保健、高1種保健						履修条件	教職課程履修者							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)										
①	②	③	A	B	C										
<b>授業概要</b>															
養護教諭の職務の中でも特に専門的能力の必要な保健指導、健康相談活動等に関する基礎的知識を深く学び、児童生徒に対する指導、健康相談が実践能力を培うことが目的です。様々な悩み・不安・苦痛を抱えて保健室に来室する児童生徒の事例をおとして学びます。そして、養護教諭の役割についての理解を深めます															
<b>学修到達目標</b>															
養護教諭としての保健指導や、健康相談ができる能力を身につけることができる。 ロールプレイングを通して、実践に結びついた判断力やコミュニケーション能力を身につけることができる。															
<b>授業の進め方</b>															
学校で遭遇する機会が多い健康相談事例について、各自が事前レポートを書いてから事例検討を行います。また、ロールプレイングを交え実際に対応できる能力を身につけます。															
<b>授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>															
回	テーマ			内容						事前事後学修					
1	オリエンテーション			オリエンテーションを行い、指導のために必要な能力、資料・教材の活用の仕方、観察方法を学びます。						養護教諭についての既習学習の内容を復習しておきます。(4時間)					
2	フィジカルアセスメント			養護診断を行う時のフィジカルアセスメントの方法について演習を交えながら学びます。						フィジカルアセスメントについて予習復習する。(4時間)					
3	事例1			腹痛、頭痛などの内科的な身体症状を訴える事例について展開し、検討します。						事前に提示した疾患や腹痛、頭痛について学習しておきます。(4時間)					
4	事例2			腰痛、関節痛などの外科的な身体症状を訴える事例について展開し、検討します。						事前に提示した疾患や腰痛、関節痛について学習しておきます。(4時間)					
5	事例3			精神症状を訴える事例について展開します。医療が必要と判断される場合の連携や治療中のこどもとの関わりについて学びます。						事前に提示した疾患について学習しておきます。(4時間)					
6	事例4			不定愁訴があり、疾患を否定される事例を展開します。情報の分析の仕方を検討します。						事前に提示した疾患について学習しておきます。(4時間)					
7	事例5			いじめ、不登校などの事例を展開し、養護教諭のかかわりについて検討します。						いじめ、不登校についてまとめる。(4時間)					
8	事例6			性の逸脱行動、虐待に関する事例を展開し、養護教諭の役割について検討します。						性の逸脱行動、虐待についてまとめる。(4時間)					
9	集団指導1			集団指導が実施できるように、指導案の作成方法や教材研究の基本を学びながら、各自でテーマを決めて実際に指導案を作成します。						テーマについての資料集めと指導案作成をする。(4時間)					
10	集団指導2			各自のテーマと対象に合わせて、指導案に基づいて教材を作成し、集団指導を行えるように準備します。						指導のための教材を作成する。(4時間)					
11	集団指導の実施			集団指導をお互いに実施し、評価・検討します。						各自の集団指導の振り返りをする。(4時間)					
12	養護教諭に必要な専門的知識・解剖			養護教諭に必要な消化器、循環器、脳神経、感覚器などの人体の解剖や生理学について学びます。						解剖学の復習する。(4時間)					
13	養護教諭に必要な専門的知識・法律			学校保健安全法など養護教諭に必要な法律について学びます。						養護教諭に関連した法律について復習する。(4時間)					
14	学校保健			学校保健における養護教諭の役割を学び、学指導要領の内容を確認します。小、中、高の指導内容の特徴を発達段階に合わせて検討する。						小、中、高の学習指導要領の内容を確認する。(4時間)					
15	まとめ			養護教諭に必要な資質と能力について個々の考えをもとに討議します。						養護教諭に必要な資質と能力についてまとめる。(4時間)					
<b>テキスト</b>				<b>成績評価の方法・基準</b>											
必要に応じて資料を配布します。				レポート：20% 定期試験：60% 課題：20% 既習学習を復習しながら応用、実践できる能力が身につけているか確認します。レポート提出は確実にできている。S:養護教諭としての知識や技術が身につくこと、事例に応じて応用できる。A:養護教諭としての基礎的知識や技術が身につくこと、事例に対応できる。B:養護教諭として基礎的な知識や技術は身につくこと、事例に対応する場合には指導を必要とする。C:養護教諭としての基礎的知識や技術は一応身につくこと、応用するにはかなりの指導を要する。											
<b>参考書</b>				<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>											
「新訂版 学校保健実務必携 第2次改訂版」(第一法規出版)				養護教諭としての実践能力を身につけるために、事例を展開していきます。コミュニケーションやカウンセリング能力、他者との連携についてもロールプレイングなどで実践していくので積極的に参加してください。											

科目名	教職特講演習 VI (学校課題の理解と教師の対応力)		学年学期	2・3・4年後期	単位数	2	ナバリング		研究室	W-01
担当者	小松 茂美		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	木曜日1限		
関連資格	高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保健、高1種保健、養教1種、中1種保健、高1種保健				履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
①	②	③	A	B	C					
授業概要										
近年、保護者や地域住民からの学校に対する意見や要望は多様化しています。場合によっては、保護者と学校が対立し合い、互いに苦む状況に陥ることも珍しくはありません。そのような状況を未然に防ぐためには、教職員の初期対応が非常に重要であると言われていす。本授業では、保護者等へのよりよい対応について複数の事例をとおして学び、教員としての対応能力(コミュニケーション能力)を高めながら教員と保護者や地域住民との良好な関係づくりのありについて学びます。										
学修到達目標										
学校(教員)と保護者とのトラブルの具体的な事例について学習することにより、教員に求められる重要な力の1つである「保護者への対応力」を高めること。										
授業の進め方										
東京都教育委員会が作成した手引「学校問題解決のための手引～保護者との対話を活かすために～」を主に活用する形で、講義とグループ討議を交えながら、いくつかの具体的な事例についての学習を進めます。										
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要と授業計画 保護者とトラブルになる具体的なケースについて				レポート提出準備：本時のまとめ(2時間)				
2	教員の苦情のとりえ方	教員と他の職場との苦情のとりえ方に違いはあるか (「日本苦情白書」から) 苦情の原因について				事前学習：苦情の現状 レポート提出準備：本時のまとめ(4時間)				
3	学校近隣トラブルを考える	「苦情の申し出を邪険にしない」とはどういことかについて				事前学習：地域と学校のトラブルの現状/レポート提出準備：本時のまとめ(4時間)				
4	学校が行う保護者等へのよりよい対応①	大切な初期対応について				事前学習：初期対応具体的内容 課題レポートの提出(6時間)				
5	学校が行う保護者等へのよりよい対応②	対応が困難な場合の事例について				事前学習：保護者対応の10か条 課題レポート提出(4時間)				
6	児童虐待・いじめ・体罰・不登校	児童虐待・いじめ・体罰・不登校について理解を深める				事前学習：児童虐待の現状 レポート提出準備：本時のまとめ(4時間)				
7	事例からつかむ対応のヒント①	「文書による回答を求められたケース」について				事前学習：何故文書による回答が求められるのか/レポート提出準備：本時のまとめ(4時間)				
8	事例からつかむ対応のヒント②	「児童虐待に関わる対応について苦情を受けたケース」について				事前学習：苦情対応の基本 レポート提出準備：本時のまとめ(4時間)				
9	事例からつかむ対応のヒント③	「クラス内にいじめがあるのに担任は対応していないと苦情を受けたケース」について				事前学習：いじめ把握の困難さ 課題レポートの提出(5時間)				
10	進級・単位認定について	進級・単位認定について 義務教育(小学校・中学校)と高等学校の対応の違いについて				事前学習：単位認定 レポート提出準備：本時のまとめ(4時間)				
11	事例からつかむ対応のヒント④	「単位認定の内容について抗議を受けたケース」について				事前学習：想定される単位認定に関するトラブル/レポート提出準備：本時のまとめ(4時間)				
12	事例からつかむ対応のヒント⑤	「進路指導への対応についての苦情を受けたケース」について				事前学習：進路指導体制のあり方 課題レポートの提出(4時間)				
13	危機管理	日常の危機管理意識の在り方について考える				事前学習：学校現場で起きやすいイージーミス/レポート提出準備：本時のまとめ(4時間)				
14	教育現場の課題①	有益な保護者懇談会や授業参観の持ち方について				事前準備：保護者懇談会等の目的 レポート提出準備：本時のまとめ(4時間)				
15	教育現場の課題② まとめ	教育現場で抱えている具体的課題 保護者対応についてのまとめ(当初の目的が達成されたか、成果と課題)				事前学習：学校現場で抱えている具体的な課題/課題レポートの提出(6時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
毎時間プリント資料を使用します。		受講態度：50%、レポート：50% 受講態度(受講姿勢 A:意欲的・積極的、B:普通、C:消極的とし、出席状況を加味します)、レポート(A:課題に対する分析・整理が的確であり自分の意見を述べる事ができている、B:課題に対する分析・整理又は自分の意見が不十分、C:課題に対する分析・整理及び自分の意見とも不十分)を総合的に評価します。全ての項目がA評価の場合、S評価の検討をします。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
「学校問題解決のための手引～保護者との対話を活かすために～」東京都教育委員会編 東京都教育委員会のHPから 「学校経営の危機管理 ～トラブル対応と法的解釈～ 1・2」(第一法規)		受講者自身の考え方や意見等を述べることで学習が深まりますので、意欲的・積極的に参加することを望みます。								

科目名	教職特講演習Ⅶ (教職教養の基礎)			学年学期	2・3・4年前期	単位数	2	ナハリノ	研究室	A-18	
担当者	川島 一夫			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	木曜日4限		
関連資格	高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保健、高1種保健、養教1種、中1種保健、高1種保健					履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
<b>授業概要</b> 目的：本講義は、主として教員採用選考試験を受験する学生を対象とし、教職教養の教育学、教育心理学、発達心理学分野の基礎的知識の総まとめと課題演習により、基礎的な教職教養を身につけ、教員採用選考試験に際しても自信をもって臨むことができるようになります。概要：教育思想、教育史、教育課程、学習指導要領、教育心理学等の基礎的な知識の整理とまとめを行います。											
<b>学修到達目標</b> 到達目標：1. 教職教養の教育学分野の基礎的知識を確実に身につける。 2. 教職教養の教育心理学・発達心理学分野の基礎的知識を確実に身につける。 3. 教員採用選考試験の教育学分野及び教育心理学・発達心理学分野の問題に関する理解を深める。											
<b>授業の進め方</b> 授業は、プリント資料を準備し、教育学、教育心理学の各分野の基礎的、基本的知識を体系的に整理し、毎時間の課題演習によりそれらの知識を確実に身につけることができるように講義と演習形式で行います。											
<b>授業計画 (各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	ガイダンス 授業のやり方についての説明					資料による問題の作成と回答(4時間)				
2	心理学理論&心理学史	心理学理論&心理学史について的小テスト問題の回答と説明					授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
3	外国の教育思想	外国の教育思想について的小テスト問題の回答と説明					資料による問題の作成と回答(4時間)				
4	学習理論・学習の過程	学習理論・学習の過程(動機付け、記憶と忘却、認知)について的小テスト問題の回答と説明					授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
5	教育課程・学習指導要領	教育課程・学習指導要領について的小テスト問題の回答と説明					資料による問題の作成と回答(4時間)				
6	発達と発達理論	発達と発達理論について的小テスト問題の回答と説明					授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
7	教育方法・情報教育	教育方法・情報教育について的小テスト問題の回答と説明					授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
8	パーソナリティとパーソナリティ理論	パーソナリティとパーソナリティ理論について的小テスト問題の回答と説明					授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
9	教育行政・教育法規	教育行政・教育法規について的小テスト問題の回答と説明					資料による問題の作成と回答(4時間)				
10	各種心理検査と教育現場での実際	各種心理検査と教育現場での実際について的小テスト問題の回答と説明					授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
11	生徒指導・学校、学級経営	生徒指導・学校、学級経営について的小テスト問題の回答と説明					授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
12	適応と適応機制・心理療法	適応と適応機制・心理療法について的小テスト問題の回答と説明					授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
13	特別支援教育	特別支援教育について的小テスト問題の回答と説明					授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
14	教育評価	教育評価について的小テスト問題の回答と説明					授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる(4時間)				
15	まとめ	まとめ					授業の振り返りと反省レポート				
テキスト					成績評価の方法・基準						
使用しない。授業担当者が毎時間プリント資料を準備する。					レポート：80% 出席レポート：20% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートに取り組み、小テストでは、全問題に正解できる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもってレポートに取り組み、殆ど的小テストが正解できる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、小テストが解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの小テストが解ける。						
参考書					履修上の注意 (学生へのメッセージ)						
「教員採用試験 一般教養らくらくマスター 2017年度」(実務教育出版) 「2017年度版 絶対決める! 教員採用試験合格問題集」L&L総合研究社(新星出版社)					教員採用選考試験を受験を考えている方は、できるだけ受講するようにして下さい。						

科目名	教職特講演習Ⅷ (教師に求められる文章表現能力)			学年学期	2・3年後期	単位数	2	ナパリング		研究室	A-01
担当者	征矢野 達彦			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格	高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保健、高1種保健、養教1種、中1種保健、高1種保健					履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
<b>授業概要</b> 目的：教師に必要な文章表現能力を身につけ、学校現場で十分対応できる力を育成することです。 概要：教師の仕事に文章表現能力がいかに関わるかについて概説し、教師が文章表現能力を身につけておく必要性を理解させるとともに、文章表現の基礎的知識、文章表現の技法について学び、個性的、魅力的な小論文を書くことができる力が身につくような講義を目指します。											
<b>学修到達目標</b> ○文章表現の基礎を身につける。○自分の考えを整理し、相手によくわかるように的確に文章表現できる。○「自分らしさ」を出した個性的な小論文を書くことができる。											
<b>授業の進め方</b> 毎回、設定したテーマに即した基本的知識・情報を提供するとともに、実際に小論文を書く練習を繰り返すことによって、文章表現能力が高められるように創意工夫をしたいと思います。随時、添削指導も行います。											
<b>授業計画 (各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	教師の表現能力	教師の仕事と文章表現の機会					課題レポート				
2	文章表現の基礎	文章表現の基本的スタイル—作文と小論文					課題レポート				
3	文章表現のルール	文章表現・表記の基本的ルール					課題レポート				
4	文章表現法Ⅰ	「起承転結」型の文章表現法					課題レポート				
5	文章表現法Ⅱ	「序論・本論・結論」型の文章表現法					課題レポート				
6	課題小論文Ⅰ	課題小論文の書き方(1)—小論文の傾向					課題レポート				
7	課題小論文Ⅱ	課題小論文の書き方(2)—小論文に必要な事前準備					課題レポート				
8	課題小論文Ⅲ	課題小論文の書き方(1)—内容構成 相互評価					課題レポート				
9	課題小論文Ⅳ	課題小論文の書き方(2)—内容構成 自己評価					課題レポート				
10	教育時事問題	教育時事問題に関する小論文					課題レポート				
11	自己体験	自己体験を入れた小論文					課題レポート				
12	具体事例	具体的事例を入れた小論文					課題レポート				
13	自分自身のこと	自分の趣味や現在の関心に関する小論文					課題レポート				
14	教職観・教師観	自分の教職観や教師観がはっきりしている小論文					課題レポート				
15	まとめ	まとめ—「自分らしさ」を出した個性的な小論文					総合レポート				
テキスト						成績評価の方法・基準					
毎時間、授業者がプリント資料を準備して行います。						出席レポート：80% 小論文への取り組み度：20%。S：課題に意欲的に取り組み、出題のねらいを理解して、論理的な文章で表現できる。A：課題に意欲的に取り組み、段落構成を工夫した文章で表現できる。B：課題に意欲的に取り組み、出題意図を概ね理解し、文章で表現できる。C：課題を理解して、意欲的に取り組み、時間内に表現しようとする。					
参考書						履修上の注意 (学生へのメッセージ)					
その都度、必要に応じて紹介します。						将来教職への進路をめざしている方は、できるだけ受講するようにして下さい。できれば2年次、3年次と継続して履修をし文章表現能力身につけて下さい。					

科目名	教職特講演習Ⅸ (学校体育実技指導の基礎)			学年学期	3年後期	単位数	2	ナバリング		研究室	非常勤
担当者	花岡 豪			必修選択	選択	科目種別	演習	オプショナル			
関連資格	中1種保体、高1種保体					履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
<b>授業概要</b>											
本講義は体育指導において、生徒が新しい運動スキルを獲得したり、陥りやすい運動課題の解決法を見つけ出したりするには、どのような指導をしていけばよいのかを実技を通して分析・研究していき、スポーツの指導実践能力を高めることを目的としています。本講義では各種スポーツの特性の理解や、それに適した指導法ならびに、指導の際の言葉かけ、運動の場づくりといった指導展開をする上でポイントとなることについて学習していき、生徒が生き生き取り組む体育授業について追究していきます。											
<b>学修到達目標</b>											
陸上競技のハードル走、器械運動のマットと跳び箱、体づくり運動、ダンス、武道の柔道と剣道、バレーボール、サッカー、バスケットボールの指導方法と、技術のポイントを学習し、分かりやすく説明したり実技指導ができるようになる。											
<b>授業の進め方</b>											
中学校・高等学校の授業でおこなわれるなじみ深いスポーツ種目を中心に展開していきます。各種スポーツの特性の理解、運動技能・技術の指導、学習集団の指導といった点に着目し、実技による学習を展開していきます。											
<b>授業計画 (各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	生徒が主体的に学ぶ体育の授業とは	生徒が主体的に学習するための教師の手だてや教師の基本的な体育授業に対する考え方について					自己紹介、体育の授業や先生に対する各自の思いをまとめておく				
2	<陸上競技> 腰を高く保った走り方	腰を落とさず、高い位置に保ち、ももを上げ、腕の振りで推進力をつける走り方を体感し、指導方法を学ぶ。					自分の走り方について知り、考えておく				
3	<陸上競技> とび越すハードル走からまたぎ越すハードル走へ①	ふみ切り位置と着地の位置に着目し遠くでふみ切り、近くに着地する走法をマスターする。フォームの分析の方法を知る。					前回の復習を行う				
4	<陸上競技> とび越すハードル走からまたぎ越すハードル走へ②	ハードル上での前傾姿勢、ふり上げ脚、抜き脚のフォームをマスターし、ハードルを越えた第一歩を正しく前方へふみ出す学習をする。					陸上競技についてのまとめを再度行う				
5	<器械運動> マット運動の個々の技と連続技を学ぶ	回転系、展開系の個々の技を学びポイントを知る。					マットの単技で自分ができる技、挑戦したい技について考えておく				
6	<器械運動> 連続技を学ぶ	アドバイスと補助の仕方、つまずきの見つけ方を学ぶ。連続技の構成と技術のポイントを学ぶ。					連続技で自分ができる技、構成について考えておく				
7	<器械運動> とび箱運動の様々なとび方を学ぶ	腕立開脚とび、閉脚とび、台上前転とび等のポイントとつまずき、安全な指導について学ぶ					とび箱運動の様々なとび方について理解しておく				
8	<体づくり運動> 体力を高める運動について	体力を高める運動を様々な考案し、目的、注意事項、効率等考えて模擬授業ができる様にする。					体力を高める運動について学習指導要領を理解しておく				
9	<体づくり運動> 体ほぐしの運動について	体ほぐしの運動について目的、効率、生徒の意欲等を考えて考案し、模擬授業ができる様にする。					体ほぐしの運動について学習指導要領を理解しておく				
10	<ダンス> 創作ダンスに取り組もう①	模倣の動きを恥ずかしがらずに伸び伸びと演ずる。					普段目に付くダンスのステップを見てイメージしておく				
11	<ダンス> 創作ダンスに取り組もう②	様々なテーマを即興で数多く動いてみる。いくつかのフレーズを考案、演じ、作品を作る。模擬授業を行う。					前回学んだ動作を取り入れた模擬授業を考えておく				
12	<武道> 剣道の基本技、柔道の基本技について学ぶ	剣道・柔道の基本の技、動作、修得と安全な指導について学習する。					剣道・柔道の基本技・ルールを事前に理解しておく				
13	<球技> バレーボール	フローターサーブ、アンダーハンドサーブ、オーバーハンドパス、アンダーハンドパスなどの基本的な技の学習と三段攻撃、ディフェンス等の修得、指導法の学習					バレーボールのルール・戦術を事前に調べ、理解しておく				
14	<球技> バスケットボール	相手ディフェンスをかわしてのドリブルやパスなどの基本プレーの修得と指導法の学習					バスケットボールのルール・戦術を事前に調べ、理解しておく				
15	<球技> サッカー	基本的なプレーの修得と3人対2人のミニゲームなどの学習と指導方法の学習					サッカーのルール・戦術を事前に調べ、理解しておく				
<b>テキスト</b>						<b>成績評価の方法・基準</b>					
中学校、高等学校で利用している体育実技の準教科書						【評価の場】毎時間の授業とテストによって評価します。 【評価の内容と割合】技能の要領と指導方法についての知識度・理解度…15%、授業に対する意欲度…20%、安全に対する配慮と模擬授業の出来栄…15%、各種目の技能の習熟度…50% 【評価基準】各到達目標に対して、86%以上をS(秀)、70~85%をA(優)、60~69%をB(良)、50~59%をC(可)とします。					
<b>参考書</b>						<b>履修上の注意 (学生へのメッセージ)</b>					
なし						体育教師に必要な実技能力の向上及び指導のポイントなど学習していきます。特に、体育教師を目指す場合、教員採用試験でも体育実技の能力は問われますので、教員を本気で目指す人はできるだけ受講することを勧めます。					



科目名	教職特講演習X (小学校二種免許状取得者のレポート作成指導)			学年学期	2・3・4年 前・後期	単位数	2	ナバリング		研究室	A-01
担当者	征矢野 達彦・川島 一夫			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格	中1種社会、中1種保体、中1種保健					履修条件	教職課程履修者(小学校2種免許取得希望者のみ)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
<b>授業概要</b>											
目的：小学校教諭2種免許状取得プログラム履修者を対象に、レポート作成能力の育成を図ります。 概要：小学校教諭2種免許状取得のためのレポート作成を通して、教職で求められる表現能力や小学校教員に必要な専門的な知識を獲得していきます。											
<b>学修到達目標</b>											
各自の小学校教諭2種免許状取得のための計画に従い、的確なレポート作成能力の習得をめざします。											
<b>授業の進め方</b>											
本講義では、小学校の教員が学習指導や生活指導を行う上で必要な基礎知識の習得を、レポート作成を通して学びます。											
<b>授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</b>											
回	テーマ		内容					事前事後学修			
1	ガイダンス		ガイダンス 小学校教諭免許状取得の意義 本講義の進め方					課題レポート			
2	レポート作成1		教職で求められるレポート作成－音楽					レポート作成			
3	レポート作成2		教職で求められるレポート作成－図画工作					レポート作成			
4	レポート作成3		教職で求められるレポート作成－初等教育課程論					レポート作成			
5	レポート作成4		教職で求められるレポート作成－初等教育方法学					レポート作成			
6	レポート作成5		教職で求められるレポート作成－初等国語科教育法					レポート作成			
7	レポート作成6		教職で求められるレポート作成－道徳教育の指導法					レポート作成			
8	レポート作成7		教職で求められるレポート作成－初等音楽科教育法					レポート作成			
9	レポート作成8		教職で求められるレポート作成－初等図画工作教育法					レポート作成			
10	レポート作成9		教職で求められるレポート作成－初等算数科教育法					レポート作成			
11	レポート作成10		教職で求められるレポート作成－初等社会科教育法					レポート作成			
12	レポート作成11		教職で求められるレポート作成－初等生活科教育法					レポート作成			
13	レポート作成12		教職で求められるレポート作成－初等教育相談の基礎と方法					レポート作成			
14	レポート作成13		教職で求められるレポート作成－特別活動の指導法					レポート作成			
15	まとめ		まとめ 一年間の成果の確認					自分の学習成果の振り返り			
<b>テキスト</b>						<b>成績評価の方法・基準</b>					
明星大学配布の教科書を使用する。						レポート：100% S:目標達成のために探求姿勢をもって課題に意欲的に取り組み、計画的に正しく文章で表現することができる。A:目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、正しく文章で表現することができる。B:目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、概ね文章で表現することができる。C:目標達成を理解して、課題に取り組み、レポート作成をしようとする。					
<b>参考書</b>						<b>履修上の注意(学生へのメッセージ)</b>					
必要に応じて提示します。						小学校教諭2種教員免許状取得プログラムを履修している人は、原則、履修することが望ましい科目です。					

科目名	教職特講演習Ⅵ (最新の教育事情)			学年学期	2・3・4年前期	単位数	2	ナバリング	研究室	A-17
担当者	岸田 幸弘			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー		
関連資格	高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保体、高1種保体、養教1種			履修条件		教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
①	②	③	A	B	C					
授業概要										
特に現代的な教育課題(いじめ、不登校、学級崩壊、保護者対応、21世紀型能力、特別の教科「道徳」、チーム学校等)に対してレポートしながら、ロールプレイ(役割演技)やケース検討(事例研究)、フィールド研究、模擬授業などの実践的な方法により、授業や学級経営、生徒指導などの教員として必要な実践的指導力を身につけます。										
学修到達目標										
まずは教職に対する使命感や責任感を持つことができるようになる。そのために普遍的な教育課題と現代的な教育課題を理解し、同時に社会性や対人関係能力を向上させ、児童生徒理解や学級経営、保護者対応などに自信が持てるようになる。										
授業の進め方										
現代的な教育課題については、個人でリサーチして毎回レポート発表します。講義により解説し、教育相談(児童対応・保護者対応)や生徒指導の内容ではロールプレイやケース検討を行います。										
授業計画(各回のテーマ等)※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	教師になるとということ	児童生徒を対象に授業を行いながら、発達課題への支援や保護者への対応など、多様な教師の仕事を理解し、その苦勞とやりがいについて考える。				自分の教職への意欲や目指す教師像を描き、学修後は気づきをまとめる(4時間)				
2	現代的な教育課題を概観する①	いじめ、不登校、学級崩壊等の現代的な課題の現状について概観し、問題の本質を討論や事例検討によって深く理解する。				自らの体験や報道等の資料をリサーチし、事後は文献等を検索してまとめる(4時間)				
3	現代的な教育課題を考える①	数人のグループでジグソー学習を行う。グループの中でいじめ、不登校、学級崩壊等の各問題について分担し、分担の同じもの同士でリサーチする。元のグループに戻って説明できるようにプレゼンの準備をする。				事前に取り組みたい課題を考えておく。事後は次回のプレゼンの準備をする(4時間)				
4	現代的な教育課題を考える②	前回の元のグループに戻って、グループ内で各人が自分が調べたり討論したりして分かったことをプレゼンする。その後、全体で討論し、学修の仕方そのものを自己評価する。				グループ内プレゼンの準備と、事後のまとめを行う(4時間)				
5	現代的な教育課題を考える③	いじめ、不登校を中心にこれまでの研究や実践をひも解き、講義によって理解を深める。				事前に配布される資料を熟読し、学修後はレポートを書く(4時間)				
6	最新の教育事情について考える①「21世紀型能力」	21世紀型能力について、議論されている内容を概観し、これからの学力観や学習指導要領の在り方を考える。				21世紀型能力について各自で調べ、発表の準備をする。事後はまとめのレポートを書く(4時間)				
7	最新の教育事情について考える②「特別の教科 道徳」	「特別の教科道徳」について、議論されている内容を概観し、道徳の時間がどのように新しくなるのか、またその課題は何かを理解する。				特別の教科道徳について各自で調べ、発表の準備をする。事後はまとめのレポートを書く(4時間)				
8	最新の教育事情について考える③「アクティブラーニング」	アクティブラーニング(AL)の概念やその教育方法について、各自が事前に学習してきたことをもとに、いくつかについてはロールプレイによって体験し学びあう。				ALについて各自で調べ、発表の準備をする。事後はまとめのレポートを書く(4時間)				
9	最新の教育事情について考える④「チーム学校」	「チーム学校」とは何か。その理念とこれからの教育課題への対応の在り方を具体的に学ぶ。学校心理学の理念もできるだけ取り上げる。				チーム学校について各自で調べ、発表の準備をする。事後はまとめのレポートを書く(4時間)				
10	最新の教育事情について考える⑤「特別支援教育」	特別支援教育の理念や考え方について各自で調査し、実際の実践方法や困難な課題などについて理解する。				特別支援教育について各自で調べ、発表の準備をする。事後はまとめのレポートを書く(4時間)				
11	場面指導① 生徒指導場面での対応	学校におけるいじめなどの生徒指導場面を想定し、適切な対応ができるようになる。実際にその対応を繰り返し体験することで自信を持つ。				想定される場面のプリントを事前に読んでおく。事後はすべての場面を練習する(4時間)				
12	場面指導② 教育相談や授業場面での対応	学校における不登校や保護者との相談など、教育相談場面を想定し、適切な対応ができるようになる。実際にその対応を繰り返し体験することで自信を持つ。				想定される場面のプリントを事前に読んでおく。事後はすべての場面を練習する(4時間)				
13	面接対応① 個人面接	個人面接を実際に体験したり、人の面接場面を見学したりして、実際の面接を想定した体験を繰り返すことで自分の課題を明確にするとともに、教員としての自分の適性に気づく。				面接で想定される質問事項を読んでくる。事後はすべての質問に対応した練習をする(4時間)				
14	面接対応② 集団面接	集団面接を実際に体験したり、他のグループの面接場面を見学したりして、実際の面接を想定した体験を繰り返すことで自分の課題を明確にするとともに、教員としての自分の適性に気づく。				面接で想定される質問事項を読んでくる。事後はすべての質問に対応した練習をする(4時間)				
15	児童生徒の発達課題に対応した事例研究	不登校やいじめなどの具体的な事例を読み、グループでの事例研究や事例検討を体験する。アセスメントから支援策の決定まで、実践に即した対応を身につける。				事例のプリントを読み、解決策や指導の方法を考える。事後はレポートする(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準								
授業の中で適宜、資料等を配布する。		レポート：50% 課題：30% 受講態度：20% S：現代的な教育課題や最新の教育事情では、事前のリサーチとレポートによって分かりやすい解説ができる。また全体の討論に参加して全体の学びの深化に寄与する。実技では積極的に参加する。A：自分なりにレポートし、討論に参加できる。B：事前のレポートを自分なりに作成でき、討論に参加できる。C：事前にレポート作成し、討論内容が理解できる。								
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)								
授業の中で適宜、資料等を配布する。		現代的な教育課題や最新の教育事情では、事前のリサーチとレポートを課します。それに基づいて討論しますので、自分なりの考えを持って参加してください。仲間と討論できる資質を身につけてほしいと思っています。								

科目名	教育心理学特講		学年学期	3・4年前期	単位数	2	ナパリング	研究室	A-16
担当者	守 一雄		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日3限	
関連資格	高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保健、高1種保健、養教1種、中1種保健、高1種保健				履修条件	教職課程履修者			
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
		A	B	C					
授業概要									
教育心理学は教育についての科学的な研究をする学問です。しかしながら、教育の影響力を過信するあまり、遺伝の影響力についてはほとんど考慮してきませんでした。この授業では、人間の成長と学校教育における遺伝の影響についての近年の研究成果について、安藤寿康『日本人の9割が知らない遺伝の真実』を基に学びます。									
学修到達目標									
教育における遺伝の影響について理解すること 遺伝の影響力を踏まえた学校教育について理解すること 学校教育における評価の意義と機能について理解すること									
授業の進め方									
講義を中心にしますが、小グループによるディベート形式の討論を隔週で行なう予定です。ディベートについては副読本『ザ・ディベート』を読んでください。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	遺伝と教育：行動遺伝学	人間の知能などの遺伝について研究する行動遺伝学という学問について学びます。				副読本『ザ・ディベート』を読む。(4時間)			
2	才能は遺伝するか?	才能は遺伝するかをテーマにディベートをします。				討論の内容を踏まえて、事後は小レポートを書く。/課題図書(1)レポート提出(4時間)			
3	行動遺伝学	才能が遺伝するかどうかを科学的に研究する学問である「行動遺伝学」について学びます。				テキスト第1章を読んでおく。(4時間)			
4	知能とは何か?	知能や性格についてディベートをします。				討論の内容を踏まえて、事後は小レポートを書く。(4時間)			
5	知能と性格の測定方法	知能や性格を心理学者がどう測定してきたかについて学びます。				テキスト第2章を読んでおく。(4時間)			
6	遺伝の研究方法	遺伝の研究方法に関してディベートをします。				討論の内容を踏まえて、事後は小レポートを書く。(4時間)			
7	双生児研究法	遺伝の研究方法としての双生児研究法について学びます。				テキスト第3章を読んでおく。(4時間)			
8	中間テスト及び解説	授業前半分についての理解度の確認をします。				授業前半部分について復習しておく。/課題図書(2)レポート提出(4時間)			
9	種々の才能の遺伝	知能以外の種々の才能の遺伝についてディベートをします。				討論の内容を踏まえて、事後は小レポートを書く。(4時間)			
10	遺伝の影響をどう考えるか	知能以外の種々の才能や性格の遺伝について学びます。				テキスト第4章を読んでおく。(4時間)			
11	教育の影響力	教育することでどこまで人を変えられるのかについてディベートをします。				討論の内容を踏まえて、事後は小レポートを書く。(4時間)			
12	あるべき教育の形	遺伝の影響を考慮した上での望ましい教育の在り方について学びます。				テキスト第5章を読んでおく。(4時間)			
13	遺伝を受け入れる	遺伝的素質に恵まれない場合の対処方法についてディベートをします。				討論の内容を踏まえて、事後は小レポートを書く。/課題図書(3)レポート提出(4時間)			
14	遺伝を受け入れた社会	自分の持つ遺伝的素質を受け入れて生きることについて学びます。				テキスト第6章を読んでおく。(4時間)			
15	まとめ	遺伝と教育についてのまとめをします。テキストの内容について全般的な討論をします。				この授業で学んだことについて全般的な復習をしておく。			
テキスト					成績評価の方法・基準				
「日本人の9割が知らない遺伝の真実」安藤寿康著(SBクリエイティブ) ISBN:978-4797389746(生協で購入してください。)授業は「遺伝子を生かす教育」を土台としますが、テキストは廉価な新書にしました。「遺伝子を生かす教育」アズベリ/ブローミン著(新曜社) ISBN:978-4788515024(別途、指示します。)さらに学びたい人用のための参考図書とします。					定期試験：100% S：課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の3つ以上において優れた成果を示した。A：課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の2つ以上において優れた成果を示した。B：課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習において優れた成果を示した。C：課題すべてを基準レベルで達成した。				
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)				
「ザ・ディベート」茂木 秀昭著(筑摩書房) ISBN:978-4480058928 「課題図書」としますので、生協で購入して下さい。「そんなバカな!」竹内久美子著(文春文庫) ISBN:978-4167270025 「					履修者の数を考慮しつつ、できれば討論はディベートの形式でやりたいと考えています。				

科目名	発達心理学特講		学年学期	3・4年後期	単位数	2	ナバリング	研究室	A-18
担当者	川島 一夫		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日5限	
関連資格	高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保健、高1種保健、養教1種、中1種保健、高1種保健				履修条件	教職課程履修者			
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
		A	B	C					
授業概要									
発達心理学のいろいろなトピックスをとりあげ、理解を深めます。また、発達心理学の論文を選んで講義をすると同時に、各自が論文を読んで、要約し発表します。発達心理学の基礎と言うよりも、興味がわきそうなトピックスを取りあげるために、細かい内容が多くなります。論文は、授業時に配布します。									
学修到達目標									
発達心理学の論文を読み、理解する。また、レジメの発表と論文の解説について討論をすることで発達心理学についての知識を深める。									
授業の進め方									
授業の中心は、課題となる論文の要約レポートと内容についての発表と小テストです。また、討論も行います。さらに質問に回答することも行います。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション	授業全体の流れを説明し、発達心理学を学ぶために必要な、基礎となる知識の論文について解説します。				本授業への期待、発達心理について学びたいこと、学ぶべきだと考えることをレポートする(4時間)			
2	心理的個人差の源泉	「別家庭に育った双生児を対象としたミネソタ双生児研究」についての解説します。				次回の論文の要約とレジメ作成(4時間)			
3	家庭環境の認知に対する生物測定学的分析	「双生児ならびにきょうだいをういた研究」についての解説します。				論文の要約とレジメ作成(4時間)			
4	子どもの心身の発達	「虐待された子どもの暴力の連鎖に寄与する遺伝子型の役割」についての解説します。				次回の論文の要約とレジメ作成(4時間)			
5	脳と感情の発達 1	「情動発達に関する展望 分化した情動の初期発達理論」についての解説します。				次回の論文の要約とレジメ作成(4時間)			
6	子どもの気質、母親のしつけ	「愛着の安定性 行動基準内面化に至る多様な過程」についての解説します。				次回の論文の要約とレジメ作成(4時間)			
7	脳と感情の発達 2	「自己形成における個人と集団のプロセス：アメリカの「自己高揚」と日本の「自己批判」についての解説します。				次回の論文の要約とレジメ作成(4時間)			
8	チンパンジーの自己認知	「チンパンジーの自己認知と2歳以前の自己鏡映像への反応」についての解説します。				次回の論文の要約とレジメ作成(4時間)			
9	幼児期の自己認知	「遅延フィードバックとライブフィードバックを用いることによる発達差」についての解説します。				次回の論文の要約とレジメ作成(4時間)			
10	ジェンダー理解	「ジェンダー理解と子どもの性に典型的な好みおよびステレオタイプとの関連」についての解説します。				次回の論文の要約とレジメ作成(4時間)			
11	幼児における表象の変化の理解	「幼児における表象の変化の理解と誤信念および見かけと現実の違いの理解との関連」についての解説します。				次回の論文の要約とレジメ作成(4時間)			
12	心の理論は感染するのか	「心の理論は感染するのか? きょうだいからの心の理論の獲得」についての解説します。				次回の論文の要約とレジメ作成(4時間)			
13	子どもの援助行動	「自己もしくは他者によって誘導された悲しみの感情が高共感と低共感の子どもの援助行動に及ぼす影響」についての解説します。				次回の論文の要約とレジメ作成(4時間)			
14	向社会性の発達	「向社会性の発達の縦断的研究」についての解説します。				次回の論文の要約とレジメ作成(4時間)			
15	セルフ・コントロール	「満足の遅延における認知と注意のメカニズム」についての解説します。				本講義のまとめ(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準							
「原著で学ぶ社会性の発達」渡辺 弥生(編集)、杉村 伸一郎(編集)、伊藤 順子(編集)著(ナカニシヤ出版) ISBN:4779501814		小テスト:30% レポート:70% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートに取り組み、小テストでは、全問題に正解できる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもってレポートに取り組み、殆どの小テストが正解できる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、小テストが解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの小テストが解ける。							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「発達心理学」のテキストなど。		【重要】論文と本を読んだレポートと討論があります。締め切り日をすぎたレポートは一切受け取りません。大変ですが楽しみにしてください。							

科目名	特別支援教育概論			学年学期	2年後期	単位数	2	ナパ'リング		研究室	A-12
担当者	小島 哲也・内藤 千尋			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日2限、木曜日4限、木曜日5限		
関連資格	高1種商業、高1種情報、中1種社会、高1種地歴、高1種公民、中1種保健、高1種保健、養教1種、栄教1種、中1種保健、高1種保健					履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
		A	B	C							
<b>授業概要</b> この授業は、特別支援教育の歴史と動向、現状と課題について基礎的知識を習得し理解を深めることを目的に、3つの主要テーマ(特別支援教育とは何か、子どもの発達と障害、特別支援教育の現状と課題)について解説します。											
<b>学修到達目標</b> インクルージョン(共生)理念の普及とともに教師を志す者すべてが特別な教育的ニーズをもつ子どもについて正しく理解し、適切な対応ができることが求められています。本授業はそのような要請に応えるため、障害のある子どもの教育(特別支援教育)と発達に関する基礎的知識を修得していることを到達目標とします。											
<b>授業の進め方</b> 講義形式を基本に進めます。授業の学習内容によりグループワークや討論も取り入れます。											
<b>授業計画(各回のテーマ等)</b> 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の目的と内容を説明するとともに事前事後学修の方法について解説します。					自分の履修(学習)計画を作成する。また、授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
2	特別支援教育とはなにか	特別支援教育の理念と意義					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
3	特別支援教育とはなにか	特別支援教育の歴史と動向					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
4	特別支援教育とはなにか	わが国の特別支援教育における近年の動向					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
5	特別支援教育とはなにか	諸外国における特別支援教育の動向					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
6	特別支援教育とはなにか	学校教育における特別支援教育の役割と課題					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
7	中間まとめ	講義内容のまとめと補足、質問への回答					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
8	子どもの発達と障害	脳と中枢神経系					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
9	子どもの発達と障害	感覚と運動					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
10	子どもの発達と障害	認知と言語・コミュニケーション					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
11	特別支援教育の現状と課題	知的障害と肢体不自由					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
12	特別支援教育の現状と課題	言語・聴覚障害					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
13	特別支援教育の現状と課題	発達障害<ASD>					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
14	特別支援教育の現状と課題	発達障害<LD, ADHD>					授業ノートをまとめ最終授業の質問内容を準備する(4時間)				
15	授業のまとめ	これまでの講義内容のまとめと質疑応答					全授業ノートを振り返り定期試験に向けた準備をする(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「発達障害白書(2017年度版)CD-ROM付」日本発達障害連盟著日本発達障害連盟編(明石書店) ISBN:9784750343983(生協で購入してください。)						小テスト:30% 定期試験:70% 成績評価は原則として以下の基準に基づいて行う。 S:授業内容を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。 A:授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。 B:授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。 C:授業内容をある程度理解し、与えられた課題に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
授業の中で適宜紹介する						授業内容に関する質問や意見は、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。					

科目名	栄養教諭論		学年学期	3年前期	単位数	1	ナパリング	研究室	非常勤
担当者	岩根 美系子		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー		
関連資格	栄養1種			履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
		A	B	C					
授業概要									
<p>栄養教諭の社会的使命、役割、職務内容や可能性について学びます。これらをもとに、学校や地域社会の特色を生かし、管理栄養士の専門性と教育に関する資質を併せ持つ「栄養教諭」としての基本を身につけることをねらいとします。</p> <p>栄養教諭として、児童・生徒に正しい食生活を指導し、生活習慣病の予防の必要性を理解させ、心身共に健全に成長するように教育を行う視点や、食文化、環境と食生活、家庭と食生活の関係について取り上げます。</p>									
学修到達目標									
<p>学校給食の歴史を学び、栄養教諭制度の設立について、21世紀の教育・食に関する指導、食育全般について理解を深め、子ども達が心身共に健やかな成長ができる為に生きた教材としての給食作りに取り組むことができるようになる。</p>									
授業の進め方									
最初は講義形式で授業を進めます。自ら考えて実践できる力を養うためにも必要に応じてグループ討議を行います。									
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。									
回	テーマ	内容			事前事後学修				
1	栄養教育論は何を学ぶ学問なのか理解する	栄養教諭の制度と役割 ・ 栄養教諭制度創設の趣旨と意義 ・ 栄養教諭の使命、役割、職務内容			教科書を読んで学校給食の歴史から栄養教諭創設の流れを復習する(3時間)				
2	学習指導要領の改定による基本的な主旨がわかる	食に関する指導の基礎的知識 ・ 子どもの発育・発達と教育 ・ 食に関する指導の計画・実施・評価			発達段階に応じた食に関する指導について復習する(3時間)				
3	食育基本法の改定の主旨を理解する	児童及び生徒の栄養に関する現状と課題 ・ 児童・生徒の食生活の実態			食育推進計画の重点課題について復習する(3時間)				
4	学校給食法の改定のポイントを理解する	食文化の変遷と学校教育 ・ 日本人の食生活と学校給食 ・ 地場産物の活用と郷土食			食育が教育の一環として明記され目標が食育の視点から4つから7つになったことを復習する(4時間)				
5	栄養教諭の職務について給食の管理と食に関する指導を理解する	学校給食の実際 ・ 学校給食の意義、役割 ・ 給食における個別対応 ・ 給食の栄養管理			職務について給食の管理と食に関する指導(1口別指導含)の一体化について復習する(4時間)				
6	献立の生きた教材化の為に食に関する指導について理解する	食に関する指導計画(1) ・ 「食に関する指導」のねらい ・ 食に関する指導に係る全体的計画の立て方			教科のない食育について、各教科と連携して行う為、全体計画の必要性について復習する(4時間)				
7	全体計画を作成してみよう	食に関する指導計画(2) ・ 食に関する指導に係る全体的計画立案演習			規模や施設、人数を想定し実際に作成してみる(4時間)				
8	栄養教諭の職務について理解できた	まとめ			栄養教諭の社会的使命について再確認する(4時間)				
テキスト		成績評価の方法・基準							
「三訂 栄養教諭論 [第3版] - 理論と実際 - 」(建帛社) ISBN:978-4-7679-2108-2 (生協で購入してください。) 「食に関する指導参考資料」(東山書房) ISBN:978-4827814927 (生協で購入してください。) プリント配布		評価は、出席回数を充足していることを条件とし、試験、授業内で作成したレポート・課題への取組み、討議への参加等を総合的に判定します。 S:なぜ学校に栄養教諭が創設されたか理解し、児童生徒への食育を行う為、給食の管理と食に関する指導の一本化に取り組める A:栄養教諭の職務内容を理解し、学校・地域・家庭との連携した食育が理解できる B:児童生徒に正しい食生活習慣を身につけさせる為、生きた教材としての給食作りができる C:学校給食の歴史を学び、児童生徒への食育の必要性が理解できる							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
講義時に指示をします。		一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認することがあります。口頭で述べたこときちんとならんとノートにとるようにしてください。							

科目名	学校栄養教育論		学年学期	3年前期	単位数	1	ナパリング	研究室	非常勤
担当者	岩根 美奈子・廣田 直子		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー		
関連資格	栄教1種			履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
		A	B	C					
授業概要									
<p>栄養教諭は、児童・生徒に対する食の指導を担う専門職として、発育成長期にある幼児、および、児童・生徒の健康や栄養に関わる課題を正しく捉え、その改善に向けて食の指導のあり方を考える能力の修得が必要です。この講義では、幼児、及び、児童・生徒の栄養における課題について、身体の健康という側面だけではなく、心の健康状況や社会とのかかわりという視点を含めて理解することをねらいとします。</p>									
学修到達目標									
<p>子ども時代に健康につながる嗜好や食習慣をつくることで、生涯の健康を得られることがわかり、栄養教諭は学校、家庭、地域をつなぐコーディネーターとしての重要な使命があることを理解できるようになる。</p>									
授業の進め方									
<p>最初は講義形式で授業を進めます。栄養に関する課題をより深く理解し、自ら考えて、食の指導の実践につなげる力を養うためにも、必要に応じてグループ討議を取り入れます。</p>									
<p>授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。</p>									
回	テーマ	内容				事前事後学修			
1	幼児期の食育の目標について理解する	幼児期の栄養上の課題と幼児期までに修得したい基本的な食習慣				めざす子ども像につなげる食育を復習する(3時間)			
2	食べる意欲を育てる食育について学ぶ	幼児期の課題改善に向けた働きかけのあり方(グループワークと発表)				子どもの嗜好の仕組みとその発達を理解しまとめる(3時間)			
3	人間の育ちの基礎は食育であることを学ぶ	児童・生徒における現状の健康課題と食生活				人づくりの基本は、知育徳育体育の基礎にある食育をきちんとすることにあることを復習する(3時間)			
4	国民健康栄養調査の結果から、健康課題を読みとる	国民の健康課題と児童・生徒の健康課題との係り				国民健康栄養調査の推移より児童・生徒の健康課題の係りをまとめる(4時間)			
5	保護者へのアプローチの仕方について学ぶ	児童・生徒の栄養上の課題と学校・家庭における食の指導				学校と家庭の連携の大切さをまとめる(4時間)			
6	幼児期からの食育を通して基本的な生活習慣を身につけることの大切さを学ぶ	児童・生徒の栄養課題改善を考えた食の指導が国民の食生活に及ぼす影響				おいしい食事の作れる親になる為には、どのような支援が必要かまとめる(4時間)			
7	学校・家庭・地域一体となって食育の推進を図る	幼児、児童・生徒の栄養課題を地域において考えていくためには(グループワークとディスカッション)				学校・家庭・地域が互いに情報交換を行い一体となって推進することを復習する(4時間)			
8	栄養教育は一人では推進できないことを理解する	まとめ				食の専門家としてコーディネートの重要性をまとめる(4時間)			
テキスト		成績評価の方法・基準							
<p>「三訂 栄養教諭論 [第3版] - 理論と実際 - 」(建帛社) ISBN:978-4-7679-2108-2 (生協で購入してください。)</p> <p>「食に関する指導参考資料」(東山書房) ISBN:978-4827814927 (生協で購入してください。)</p> <p>学習指導要領解説書、小・中学校教科書、プリント配布</p>		<p>評価は、出席回数を充足していることを条件とし、課題に沿って作成した「学習指導案」レポート・課題への取組み、討議への参加、筆記試験等を総合的に判定します。S:子どもの成長過程を理解し心身共に健全な成長ができるよう、食の専門家・コーディネーターとしての働きが理解できる A:食の指導の実践には、学校・家庭・地域をつなぐコーディネーターとしての重要な使命を理解する B:生涯の健康につながる嗜好や食習慣について広く理解を求める為の努力ができる C:子どもの成長期における健康や栄養に関する課題が理解できる</p>							
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)							
講義時に指示をします。		一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認することがあります。口頭で述べたこともきちんとノートにとるようにしてください。							

科目名	食教育指導法			学年学期	3年後期	単位数	2	ナパリング	研究室	非常勤
担当者	岩根 美奈子			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー		
関連資格	栄教1種				履修条件	教職課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
		A	B	C						
授業概要										
<p>栄養教諭論、学校栄養教育論をふまえ、小・中学校等における食に関する指導を演習することにより、教材研究や学習指導案の作成等をより実際に理解することをねらいとします。</p> <p>グループ別に、児童、生徒や地域の実態を可能な範囲で把握し、これに即した学習指導案を計画し、実際に食に関する模擬授業を実施します。また、よりよい指導ができるよう工夫や改善点について討議をし、模擬授業を改善していきます。</p>										
学習到達目標										
<p>児童・生徒の実態把握による課題が設定でき、教科書、学習指導要領解説書を理解し、課題解決の為の指導案が作成でき、教材としての給食を使って実際に授業することができるようになる。</p>										
授業の進め方										
主にグループによる演習とします。(人数による)										
授業計画(各回のテーマ等) 事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	学校教育の仕組みについて理解する	オリエンテーション 前期で学んだ栄養教諭の誕生について復習、使命役割、職務内容から学校教育の中での仕組みを学ぶ				食に関する指導の重要性について復習し、教育者としての資質を理解する(4時間)				
2	学校における食に関する指導の位置付けについて学習指導要領から理解する	食に関する指導の位置付けについて、全体計画の重要性、実態把握の大切さ、食育の視点、学習指導要領を読む				全体計画により年間の指導内容や活動が示されていることを理解する(4時間)				
3	教科における食に関する指導について関わりから理解できる	家庭分野(小)家庭科(中)技術家庭科)、保健領域(小)保育科(中)保健体育科)、その他の教科との関わり(全教科)				基本的な食に関する指導と食育の取り組みについて理解する(4時間)				
4	教科外の教育活動における食に関する指導についての関わりが理解できる	道徳、特別活動(学級活動)の時間における食に関する指導、総合的な学習の時間等				教科における食に関する指導と教科外における食に関する指導の違いを復習しまとめる(4時間)				
5	1単位時間の学習指導案の作成方法を理解する	実習の手引きや学習指導要領の解説書から、標準的な指導案を使って学習する				指導案の成り立ちについて理解を深める(4時間)				
6	自分の設定した課題についてどの教科で解決するか決定できる	グループワークにて(演習について、教科、題材選定)1単位の授業の進め方、演習方法				教科書と学習指導要領を読み指導案を完成させる(4時間)				
7	指導案に添って模擬授業ができる	模擬授業の実施(1) Aグループ グループ別に模擬授業の実践練習をし、討議・検討する。				模擬授業についての研究会でもらった意見を元に指導案の修正を行い、検討してみる(4時間)				
8	指導案に添って模擬授業ができる	模擬授業の実施(2) Bグループ グループ別に模擬授業の実践練習をし、討議・検討する。				模擬授業についての研究会でもらった意見を元に指導案の修正を行い、検討してみる(4時間)				
9	指導案に添って模擬授業ができる	模擬授業の実施(3) Cグループ グループ別に模擬授業の実践練習をし、討議・検討する。				模擬授業についての研究会でもらった意見を元に指導案の修正を行い、検討してみる(4時間)				
10	指導案に添って模擬授業ができる	模擬授業の実施(4) Dグループ グループ別に模擬授業の実践練習をし、討議・検討する。				模擬授業についての研究会でもらった意見を元に指導案の修正を行い、検討してみる(4時間)				
11	指導案に添って模擬授業ができる	模擬授業の実施(5) Eグループ グループ別に模擬授業の実践練習をし、討議・検討する。				模擬授業についての研究会でもらった意見を元に指導案の修正を行い、検討してみる(4時間)				
12	指導案に添って模擬授業ができる	模擬授業の実施(6) Fグループ グループ別に模擬授業の実践練習をし、討議・検討する。				模擬授業についての研究会でもらった意見を元に指導案の修正を行い、検討してみる(4時間)				
13	指導案に添って模擬授業ができる	模擬授業の実施(7) Gグループ グループ別に模擬授業の実践練習をし、討議・検討する。				模擬授業についての研究会でもらった意見を元に指導案の修正を行い、検討してみる(4時間)				
14	指導案に添って模擬授業ができる	模擬授業の実施(8) Hグループ グループ別に模擬授業の実践練習をし、討議・検討する。				模擬授業についての研究会でもらった意見を元に指導案の修正を行い、検討してみる(4時間)				
15	学校、家庭、地域との連携の大切さと、個別的な相談指導の大切さを理解する	まとめ ・栄養教諭の重要な職務について ・提出レポートの確認				提出レポートの確認をし落ちのないように作成する(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
<p>「三訂 栄養教諭論 [第3版] - 理論と実際 -」(建帛社) ISBN:978-4-7679-2108-2 (生協で購入してください。)</p> <p>「食に関する指導参考資料」(東山書房) ISBN:978-4827814927 (生協で購入してください。)</p> <p>学習指導要領解説書、小・中学校教科書、プリント配布</p>				<p>評価は、出席回数を充足していることを条件とし、授業内で作成したレポート・課題への取組み、グループ発表・討議への参加等を総合的に判定します。</p> <p>S:実態把握による課題が満足でき、課題解決の為に、教科書・学習指導要領を理解し、指導案が作成でき、給食を使って授業ができる A:課題設定でき、教科書にそった指導案が作成でき、教職を使って授業ができる B:課題設定でき、指導案を作成し給食を使って授業ができる C:実態把握による課題が設定でき、指導案が作成できる</p>						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
講義時に指示をします。				各自が課題意識をもって授業に臨み、問題解決に向けて積極的に授業に参加してください。						